

葛尾村 住民意向調査 報告書

平成 25 年 3 月

復興庁
福島県
葛尾村

目 次

I 調査の概要	5
1. 調査目的	7
2. 調査項目	7
3. 調査対象	7
4. 調査時期	7
5. 調査方法	7
6. 調査実施機関	7
7. 回収結果	7
8. 回答者の属性	8
(1) 性別	8
(2) 年齢	8
(3) 職業(避難前・現在)	8
(4) 震災発生当時居住地区と居住年数	10
(5) 世帯での立場(震災発生当時・現在)	11
9. この報告書を読む際の注意点	12
II 調査結果	13
1 東日本大震災発生当時および震災前の状況	15
(1) 震災発生当時の世帯構成(現世帯主)	15
(2) 震災発生当時の住宅の所有形態と建て方(現世帯主)	16
(3) 震災発生当時の農地の所有状況(現世帯主)	17
(4) 震災発生当時の世帯における要介護者の有無(現世帯主)	18
(5) 震災発生当時の職業	19
(6) 震災発生当時まで通勤・通学していた地域と移動手段	22
(7) 震災発生当時まで日常の買い物をしてきた場所と移動手段	25
(8) 震災発生前までの村内行事への参加状況	28
2 現時点の状況	30
(1) 世帯の避難状況(現世帯主)	30
(2) 現在の世帯構成(分散世帯の現世帯主)	31
(3) 分散世帯数(分散世帯の現世帯主)	31
(4) 現在避難している先の自治体	32
(5) 現在の住居種別	35
(6) 震災前からの世帯主との居住状況	37
(7) 現在の職業	38
1) 現在の職業	38
2) 震災発生当時の職業との違い	40
3) 求職状況	42
(8) 避難生活の中で困っていること	44
(9) 医療サービスについて困っていること	46
(10) 介護・福祉サービスについて困っていること	48
(11) 教育(学校)について困っていること	49

(12) 就労について困っていること	50
(13) 地域のコミュニティについて困っていること	52
3 将来についての想い	54
(1) 希望する避難生活のかたち	54
1) 希望する避難居住地と住居形態	54
2) 避難期間中の転居予定先	58
(2) 葛尾村への帰還意向	59
(3) 帰還後の葛尾村に必要なもの	61
(4) 帰還時に行政に要望する支援	61
(5) 帰還のための必要条件	62
(6) 帰還までの猶予年数	63
(7) 葛尾村以外の居住自治体候補と希望住居形態	64
(8) 二地域居住意向の理	65
(9) 帰還後の村内での事業再開	66
1) 帰還後の村内での事業再開意向	66
2) 事業再開の課題	66
3) 事業を再開しない理由	67
(10) 葛尾村に帰還しない理由	68
(11) 今後の生活拠点候補の自治体	69
(12) 今後の生活拠点への転居の時期と判断のタイミング	70
(13) 今後の生活において行政に望む支援	72
(14) 帰還を判断する条件	73
4 国・自治体への要望、復興に対する展望や想いについて	74
(1) 国・自治体への要望、復興に対する展望や想い	74
(2) 今後の生活展望について困っていること(現世帯主)	81
III 調査票(付:単純集計結果)	85

I 調査の概要

1. 調査目的

葛尾村住民の避難期間中の生活環境の整備や、葛尾村への帰還に向けた諸施策の適切な実施を行うための基礎データを収集することを目的とする。

2. 調査項目

- (1) 属性
- (2) 東日本大震災発生時および震災前の状況
- (3) 現時点の状況
- (4) 将来についての思い
- (5) 国・町への要望・提案・意見等

3. 調査対象

- (1) 調査対象
15歳以上の全葛尾村住民(東日本大震災発生当時居住住民)
(但し、中学生は除く)

- (2) 対象数 1,391人

4. 調査時期

平成24年8月17日(金)～9月3日(月)

5. 調査方法

郵送配布、支え合い支援センター職員による訪問回収または村内回収箱での投函回収

- ・仮設住宅居住者は、仮設住宅を巡回訪問する支え合い支援センター職員に手渡し
- ・仮設住宅以外居住者は、郵送で葛尾村に返送

6. 調査実施

復興庁
福島県
葛尾村

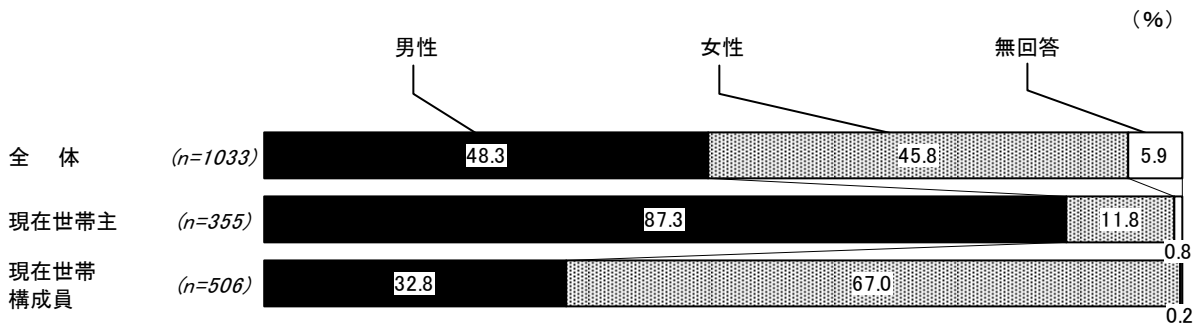
7. 回収結果

有効回収数(率) 1,033人(74.3%)

8.回答者の属性

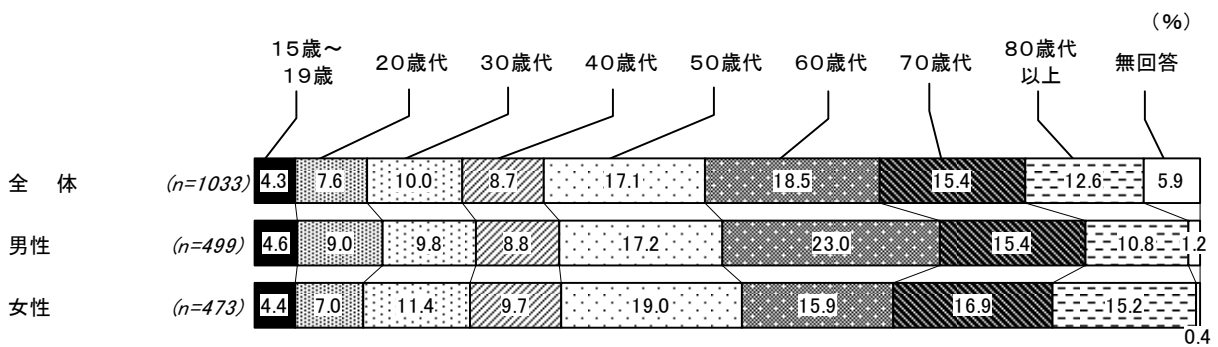
(1) 性別

図表1 性別

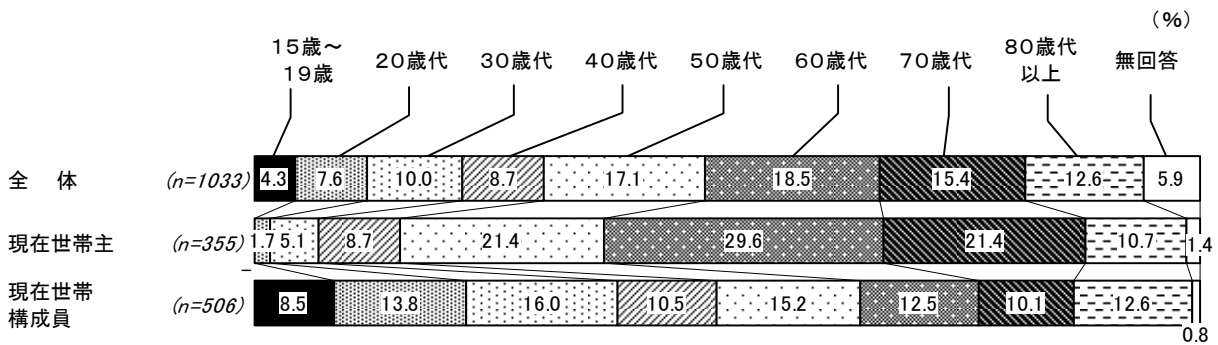


(2) 年齢

図表2 年齢

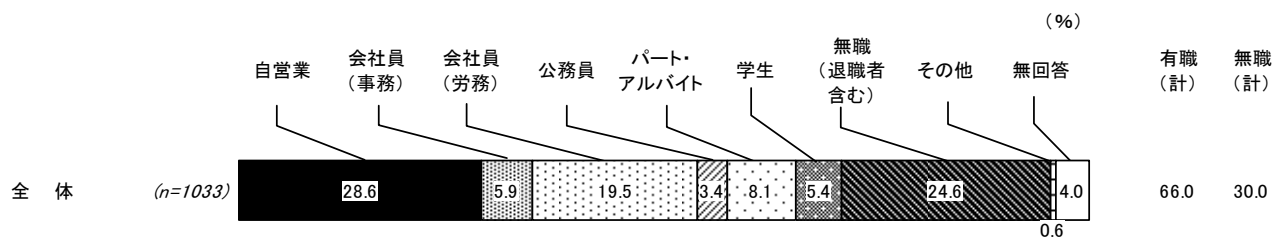


図表3 年齢(世帯主・構成員別)

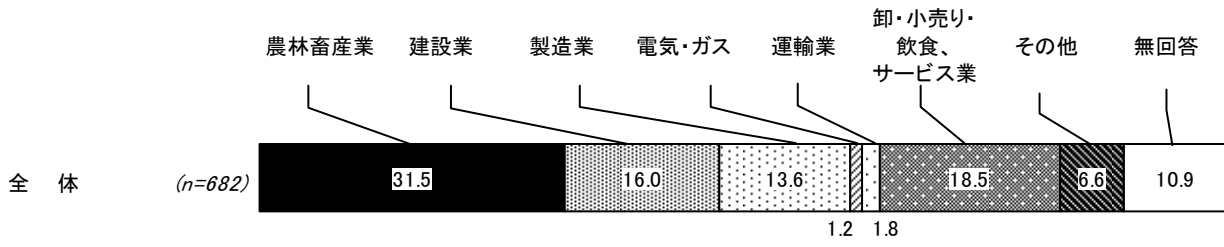


(3) 職業(震災発生当時・現在)

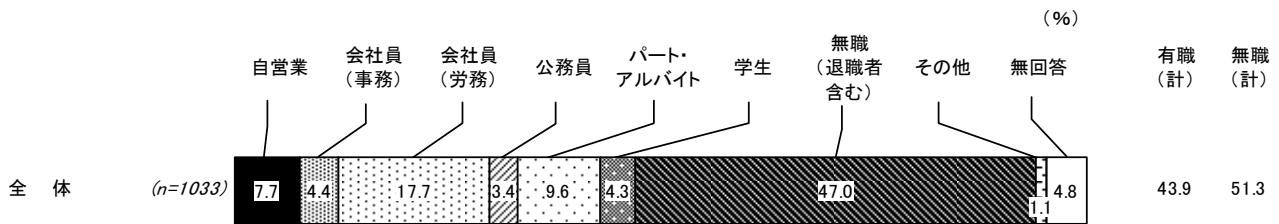
図表4 職業(震災発生当時)



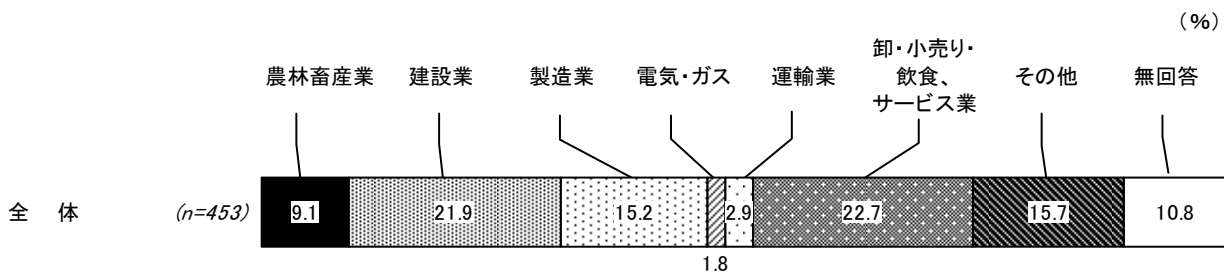
図表5 業種(震災発生当時)



図表6 職業(現在)



図表7 業種(現在)

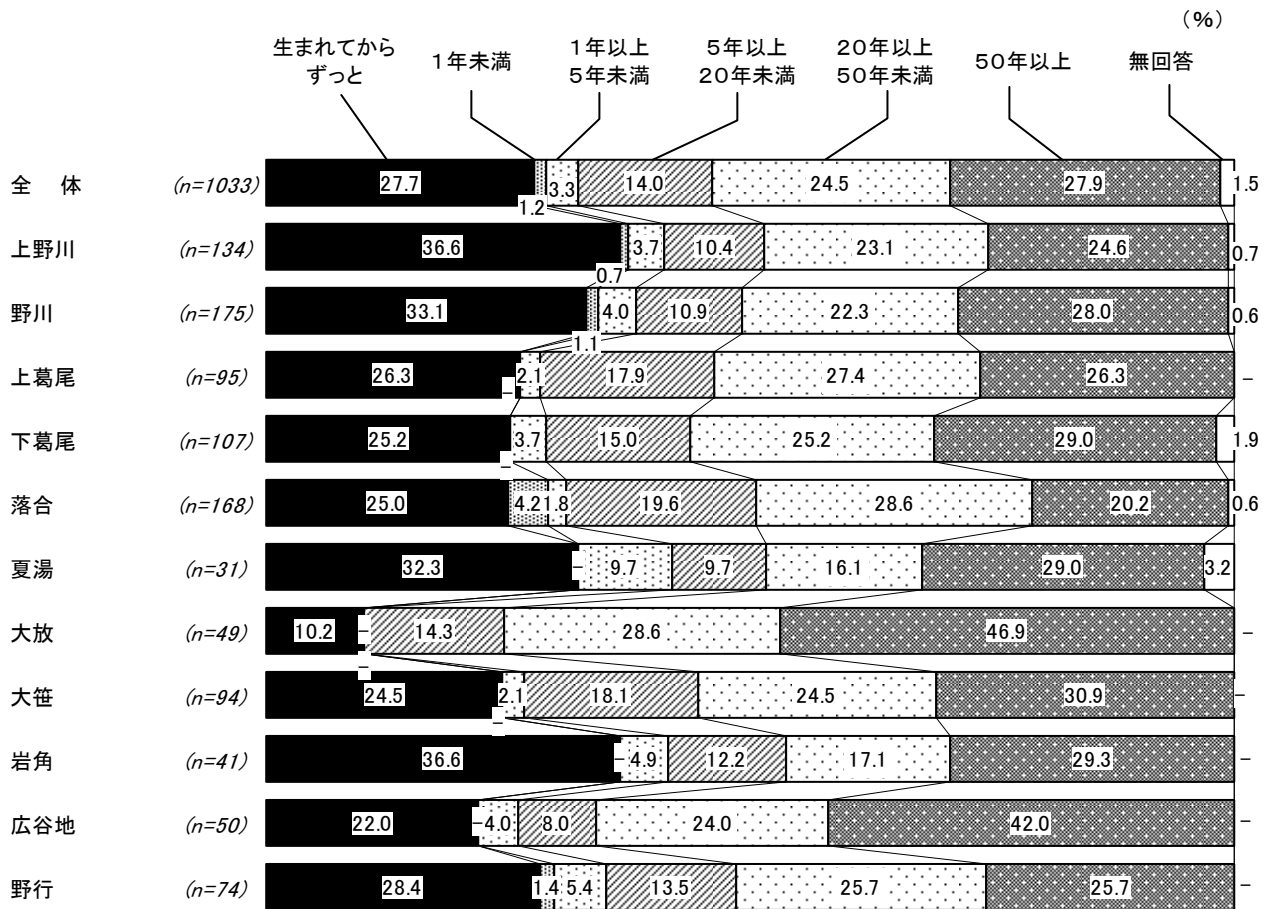


(4) 震災発生当時居住地区と居住年数

図表8 震災発生当時居住地区

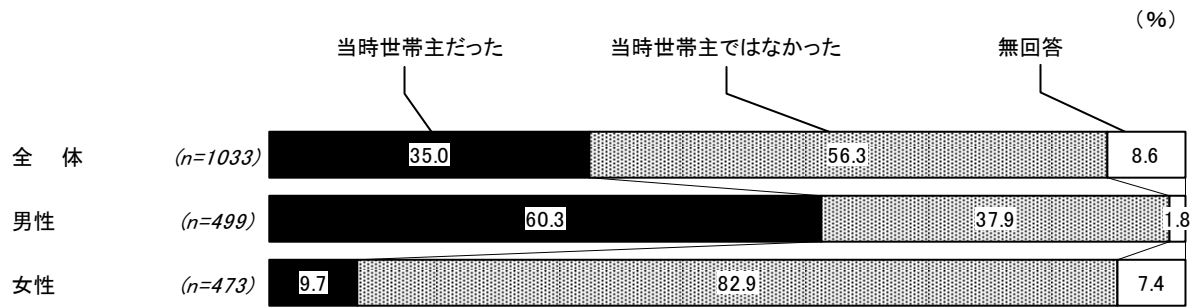
n		上野川	野川	上葛尾	下葛尾	落合	夏湯	大放	大笹	岩角	広谷地	野行	無回答
全 体	(n=1033)	13.0	16.9	9.2	10.4	16.3	3.0	4.7	9.1	4.0	4.8	7.2	1.5

図表9 居住年数

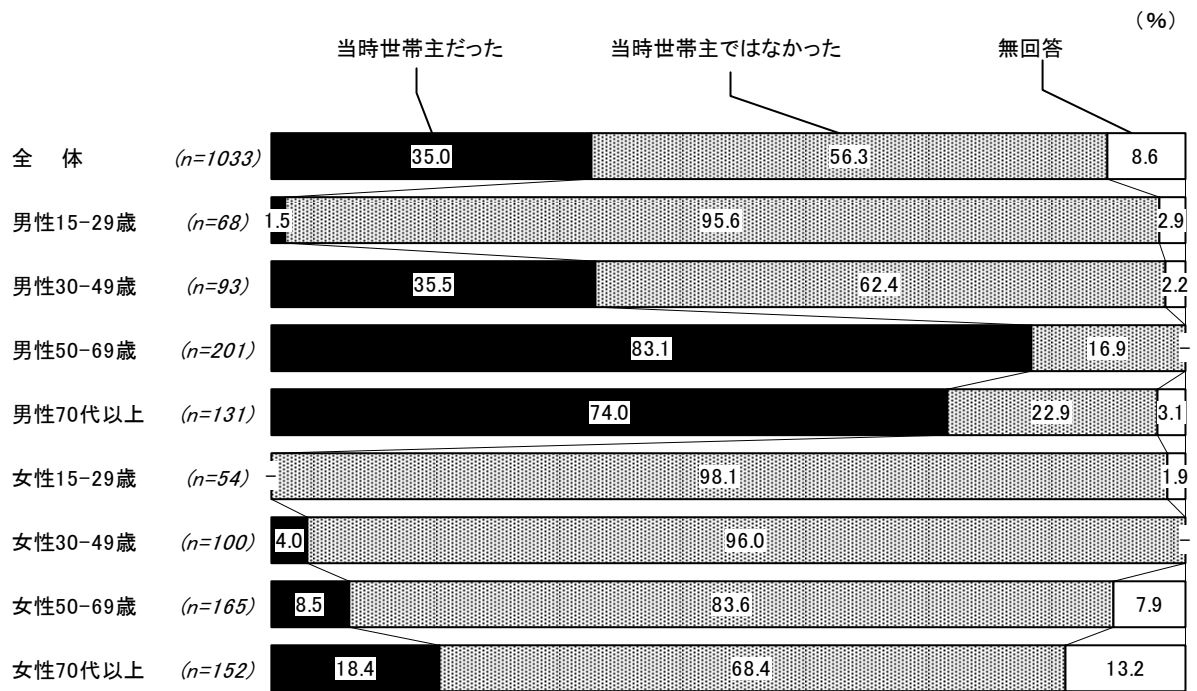


(5) 世帯での立場(震災発生当時・現在)

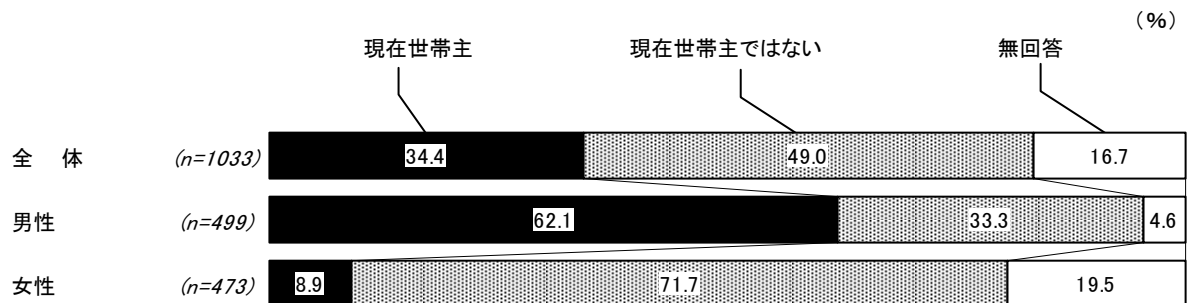
図表 10 世帯での立場(震災発生当時)



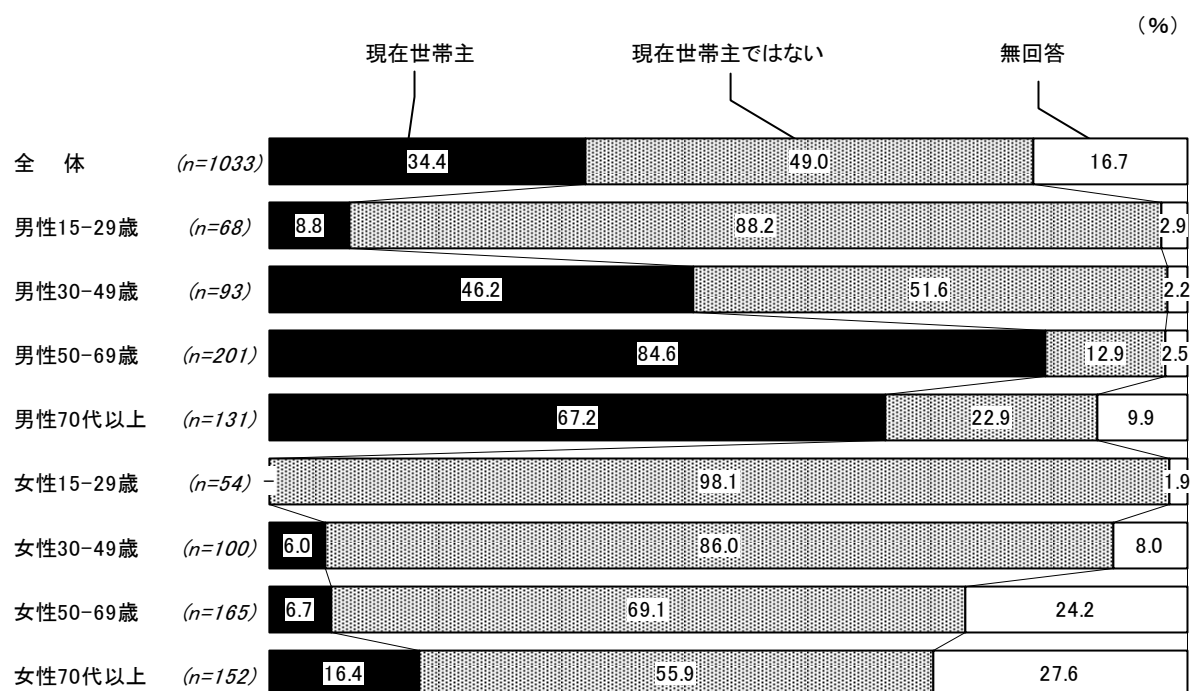
図表 11 世帯での立場(性・年代別)



図表 12 世帯での立場(現在)



図表 13 世帯での立場(性・年代別)



9.この報告書を読む際の注意

- (1) 図表中のnとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答者総数(1,033 人)、または分類別の回答者数のことである。
- (2) 百分比は、小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示した。四捨五入したため、合計値が100%を前後することがある。
- (3) 「(〇はいくつでも)」と表示のある質問は、2つ以上の複数回答を認めているため、回答計は100%を超える。
- (4) 図表中“—”は、回答者が皆無であることを、“0.0”は0.05未満の数値であったことを示す。
- (5) 「Ⅱ 調査結果」では、分類別の回答者数が50人より少ない場合は傾向をみるにとどめ、分類別の分析の対象からは外している。

II 調査結果

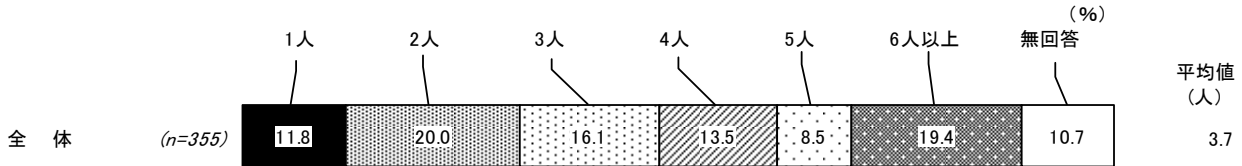
1. 東日本大震災発生当時および震災前の状況

(1) 震災発生当時の世帯構成(現世帯主)

問 35 震災発生当時の世帯構成は、あなたを含めて何人でしたか。(具体的に)

震災発生当時の世帯人数は平均3.7人で、「2人」世帯(20.0%)と「6人以上」世帯(19.4%)が、それぞれ約2割である。(図表 1-1-1)

図表 1-1-1 震災発生当時の世帯構成

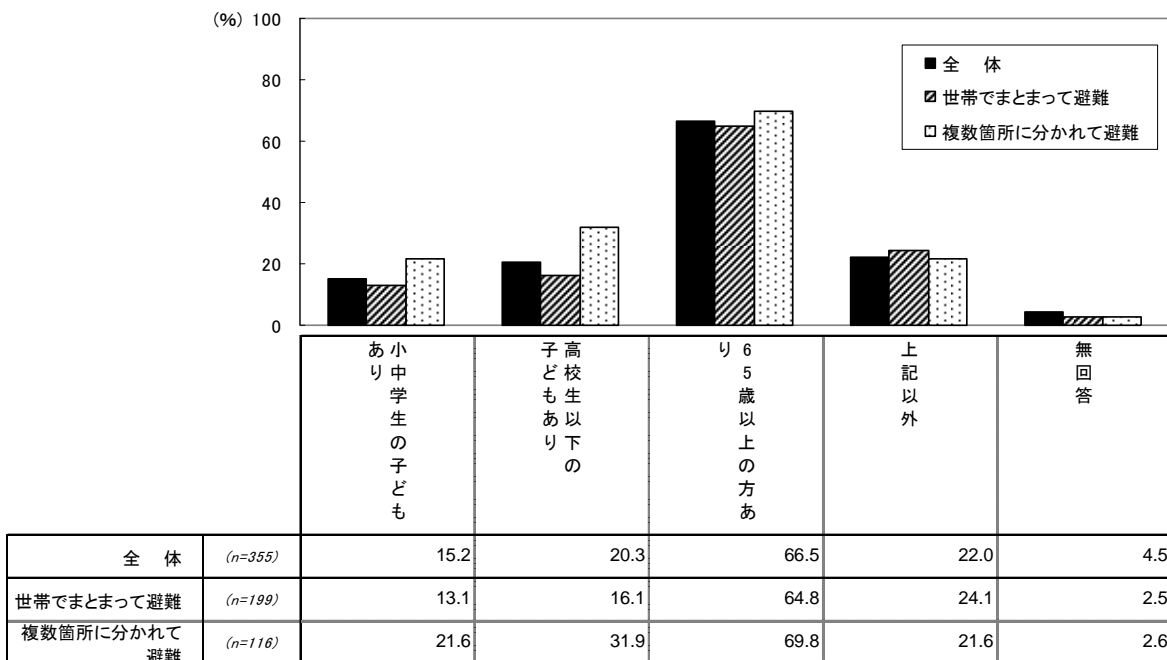


	世帯人数	世帯内の年齢別人数 (%)			
		当時小学生の人数	当時中学生の人数	当時高校生の人数	当時65歳以上の人数
n	(355)	(355)	(355)	(355)	(355)
1人	11.8	6.8	7.9	8.5	34.6
2人	20.0	2.8	0.6	2.0	28.5
3人	16.1	0.8	-	-	3.1
4人	13.5	-	-	-	-
5人	8.5	-	-	-	-
6人以上	19.4	-	-	-	0.3
無回答	10.7	89.6	91.5	89.6	33.5
平均(人)	3.7	1.4	1.1	1.2	1.5

「当時小中学生の子ども」「当時高校生以下の子ども」「当時65歳以上の方」のそれぞれの有無を見ると、現在、65歳以上の高齢者がいる世帯は 66.5%である。「当時小中学生」の子どもがいた世帯は 15.2%、「当時高校生」以下の子どもがいた世帯は 20.3%となっている。(図表 1-1-2)

世帯の避難状況別(p.30 参照)を見ると、複数か所に分かれて避難している分散世帯では、「当時小中学生」もしくは「当時高校生以下」の子どもがいた世帯が、世帯でまとまって避難している家庭より多くなっている。(図表 1-1-2)

図表 1-1-2 震災発生当時の世帯構成(世帯の避難状況別)



(2) 震災発生当時の住宅の所有形態と建て方(現世帯主)

問 36 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方でしたか。

震災発生当時の世帯(355 世帯)の住宅の所有形態と建て方を聞いた。

所有形態としては、「一戸建て(購入)」が 70.4%で際立って多く、次いで「ご家族どなたかの実家」が 8.5%である。

(図表 1-2-1)

世帯の避難状況別(p.30 参照)に見ると、まとまって避難している世帯では、76.4%が震災発生当時「一戸建て(購入)」に居住していたと回答している。(図表 1-2-1)

図表 1-2-1 震災発生当時の住宅の所有形態(世帯の避難状況別)

(%)

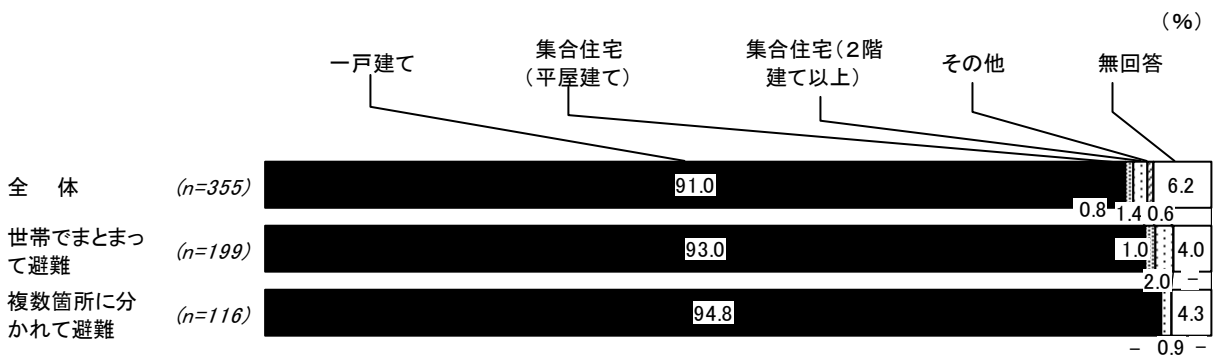
	全 体	世帯でまとまって避難	複数箇所に分かれて避難
n	(355)	(199)	(116)
一戸建て(購入)	70.4	76.4	73.3
一戸建て(公営住宅など以外の賃貸住宅)	2.8	2.5	1.7
集合住宅(購入)	-	-	-
集合住宅(公営住宅など以外の賃貸住宅)	1.7	2.0	0.9
*公営住宅	3.9	4.5	-
*給与住宅	0.3	-	-
ご家族どなたかの実家	8.5	7.0	12.1
親戚・知人宅	0.8	1.0	0.9
その他	1.4	0.5	1.7
無回答	10.1	6.0	9.5
持ち家(計)	70.4	76.4	73.3
持ち家以外(計)	19.4	17.6	17.2

*公営住宅: (「応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償)」による入居の場合を除く)

*給与住宅: (社宅、公務員宿舎など)(「応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償)」による入居の場合を除く)

震災発生当時の住宅の建て方を見ると、「一戸建て」が 91.0%と多数を占める。(図表 1-2-2)

図表 1-2-2 震災発生当時の住宅の建て方(世帯の避難状況別)



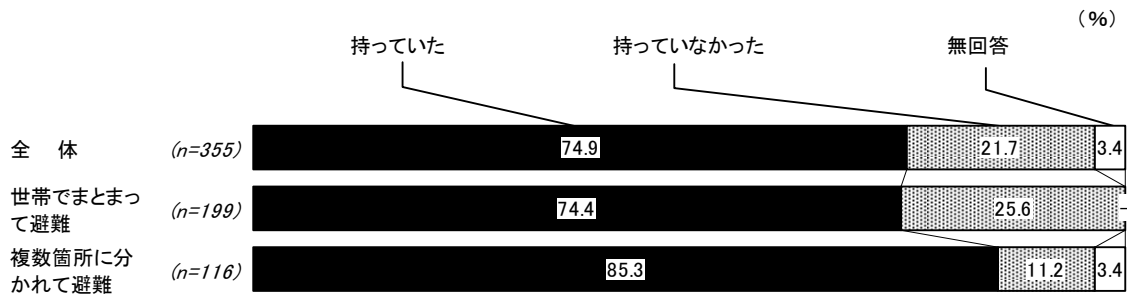
(3) 震災発生当時の農地の所有状況(現世帯主)

問 37 震災発生当時のあなたの世帯では、農地をお持ちでしたか。(○は1つ)

震災発生当時、農地を持っていた世帯は74.9%である。(図表 1-3-1)

世帯の避難状況別(p.30 参照)を見ると、複数箇所に分かれて避難している分散世帯では、85.3%が震災当時に農地を「持っていた」と回答しており、まとまって避難している世帯(74.4%)より多くなっている。(図表 1-3-1)

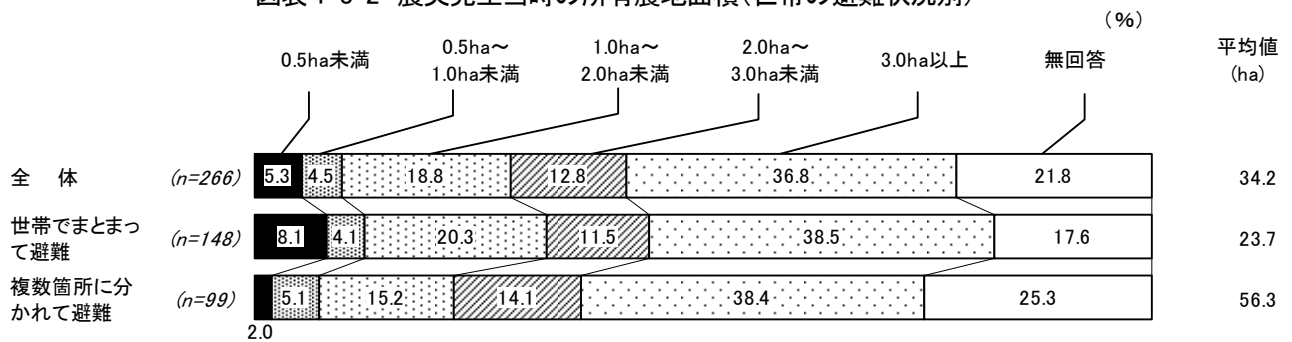
図表 1-3-1 震災発生当時の農地所有の有無(世帯の避難状況別)



震災発生当時、農地を持っていた世帯(266 世帯)の所有農地面積は、「3.0ha(ヘクタール)以上」が36.5%で最も多く、次いで「1.0ha～2.0ha 未満」(18.8%)、「2.0ha～3.0ha 未満」(12.8%)の順となっている。平均すると、34.2ha である。(図表 1-3-2)

世帯の避難状況別(p.30 参照)を見ると、複数箇所に分かれて避難している分散世帯では、平均所有面積が 56.3ha と、まとまって避難している世帯(23.7ha)の 2 倍以上の広さである。(図表 1-3-2)

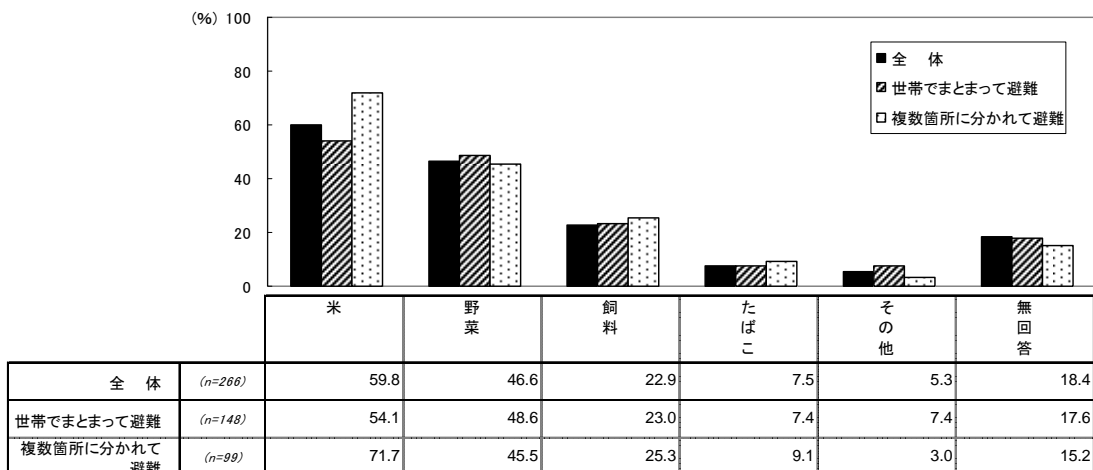
図表 1-3-2 震災発生当時の所有農地面積(世帯の避難状況別)



震災発生当時、農地を持っていた世帯(266 世帯)の主な作付け作物としては、「米」が 59.8%で最も多く、次いで「野菜」46.6%、「飼料」22.9%となっている。(図表 1-3-3)

世帯の避難状況別(p.30 参照)を見ると、分散世帯の 71.7%は、「米」と回答している。(図表 1-3-3)

図表 1-3-3 震災発生当時の作付け作物(世帯の避難状況別)



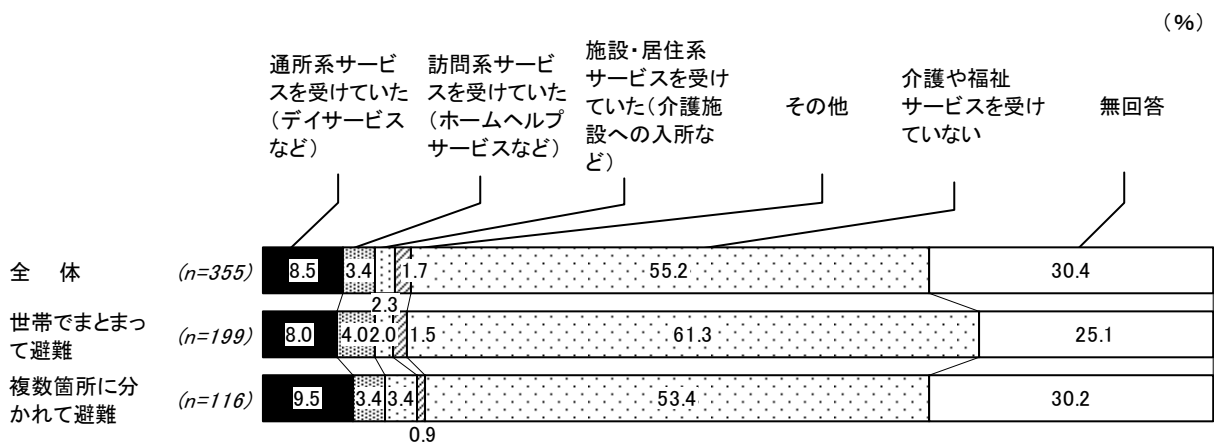
(4) 震災発生当時の世帯における要介護者の有無(現世帯主)

問 38 震災発生当時のあなたの世帯には、あなたを含めてご家族に介護や福祉サービスを受けていた方はいましたか。あてはまるものをすべてお答えください。(〇はいくつでも)

震災発生当時の世帯(355世帯)において世帯主や家族に介護や福祉サービスを受けていた人がいたかどうかを聞いたところ、「通所系サービスを受けていた(デイサービスなど)」が8.5%、「訪問系サービスを受けていた(ホームヘルプサービスなど)」が3.4%、「施設・居住系サービスを受けていた(介護施設への入所など)」が2.3%となっており、震災当時は「介護や福祉サービスを受けていない」(55.2%)という世帯が過半数を占めている。(図表1-4-1)

世帯の避難状況別(p.30参照)に見ると、震災当時は「介護や福祉サービスを受けていない」という世帯は、まとまって避難している世帯(61.3%)で6割以上となっている。(図表1-4-1)

図表 1-4-1 震災発生当時の世帯における要介護者の有無(世帯の避難状況別)



(5) 震災発生当時の職業

問3 震災発生当時のあなたの職業を教えてください。

当時、仕事に就いていた方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

震災発生当時の職業を聞いたところ、「自営業」が 28.6%で最も多く、次いで「無職(退職者も含む)」(24.6%)、「会社員(労務)」(19.5%)の順となっている。(図表 1-5-1①)

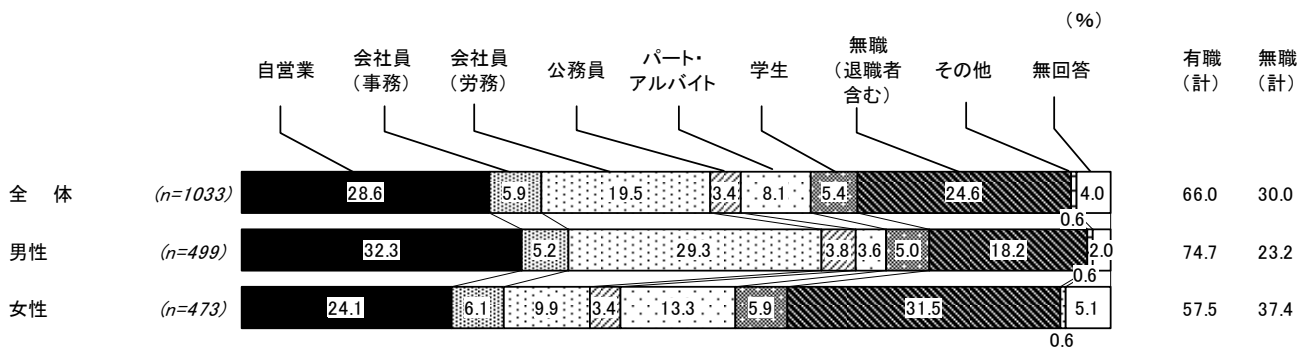
震災発生当时有職者(682人)の業種としては、「農林畜産業」(31.5%)が最も多く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」(18.5%)、「建設業」(16.0%)、「製造業」(13.6%)の順となっている。(図表 1-5-1②)

男女別に職業を見ると、「自営業」(男性 32.3%、女性 24.1%)と「会社員(労務)」(同 29.3%、9.9%)は、女性より男性に多く、特に「会社員(労務)」で男女差が大きくなっている。一方、「無職(退職者も含む)」は、女性で 31.5%と、男性(18.2%)よりも割合が高くなっている。(図表 1-5-1①)

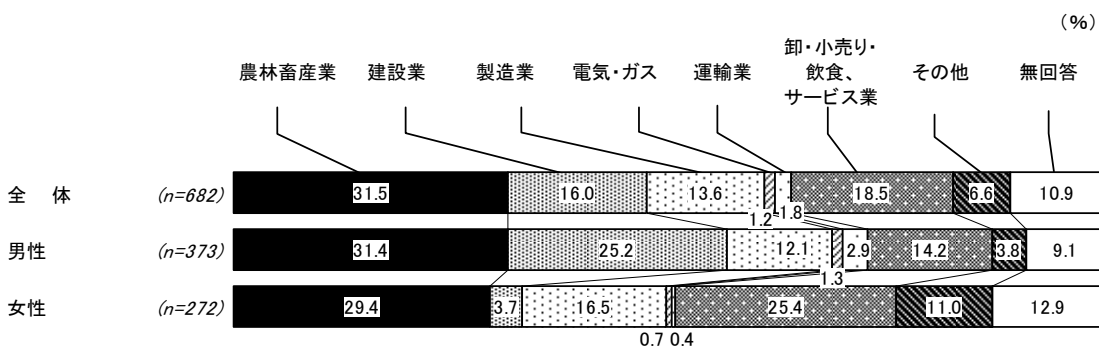
さらに業種を見ると、「卸・小売り・飲食、サービス業」(男性 14.2%、女性 25.4%)に従事する人の割合は男性より女性に、「建設業」(同 25.2%、3.7%)は女性より男性に、それぞれ高くなっている。(図表 1-5-1②)

図表 1-5-1 震災発生当時の職業(男女別)

①職業



②業種



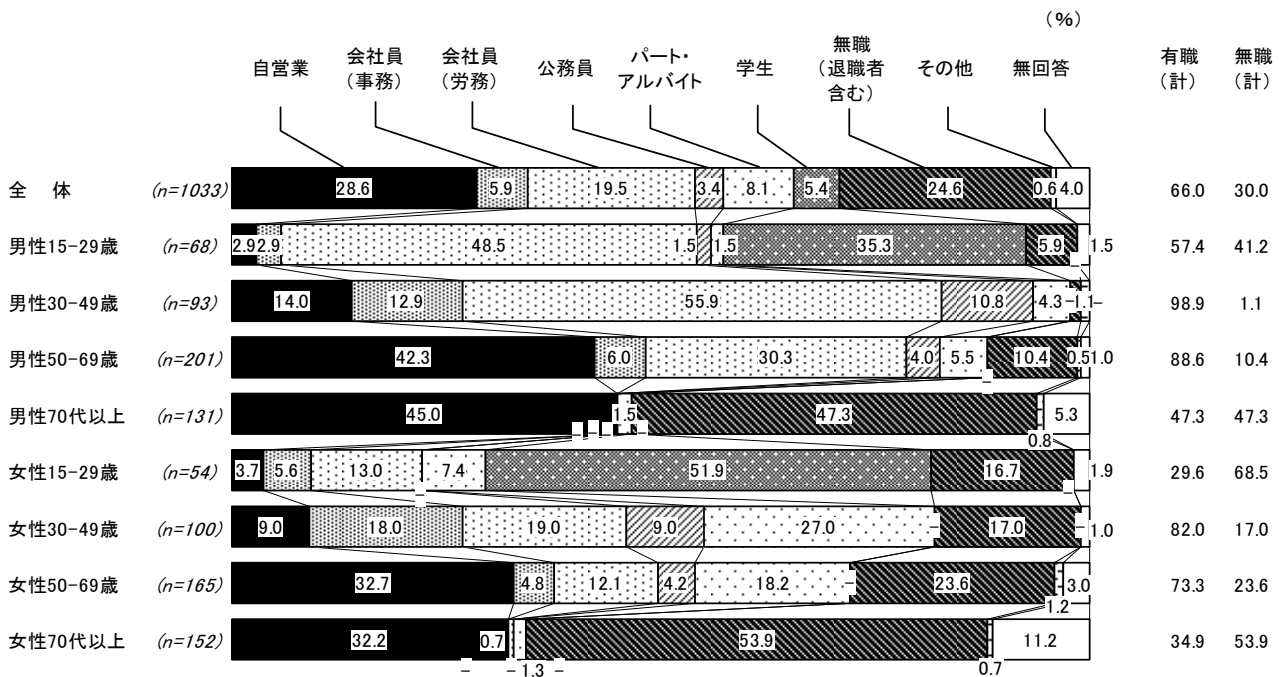
性・年代別に職業を見ると、「自営業」従事者は、男女とも年齢が高いほど多く、特に男性の50歳以上では4割台である。また、男性の30～49歳では「会社員(労務)」が55.9%と、他の年代層より高くなっている。一方、女性の30～49歳では、震災発生当時「パート・アルバイト」(27.0%)や「会社員(労務)」(19.0%)、「会社員(事務)」(18.0%)などの有職者が8割を上回り、女性の他の年代層より高くなっている。

「無職(退職者も含む)」は、男女とも70代以上になると5割前後である。(図表1-5-2①)

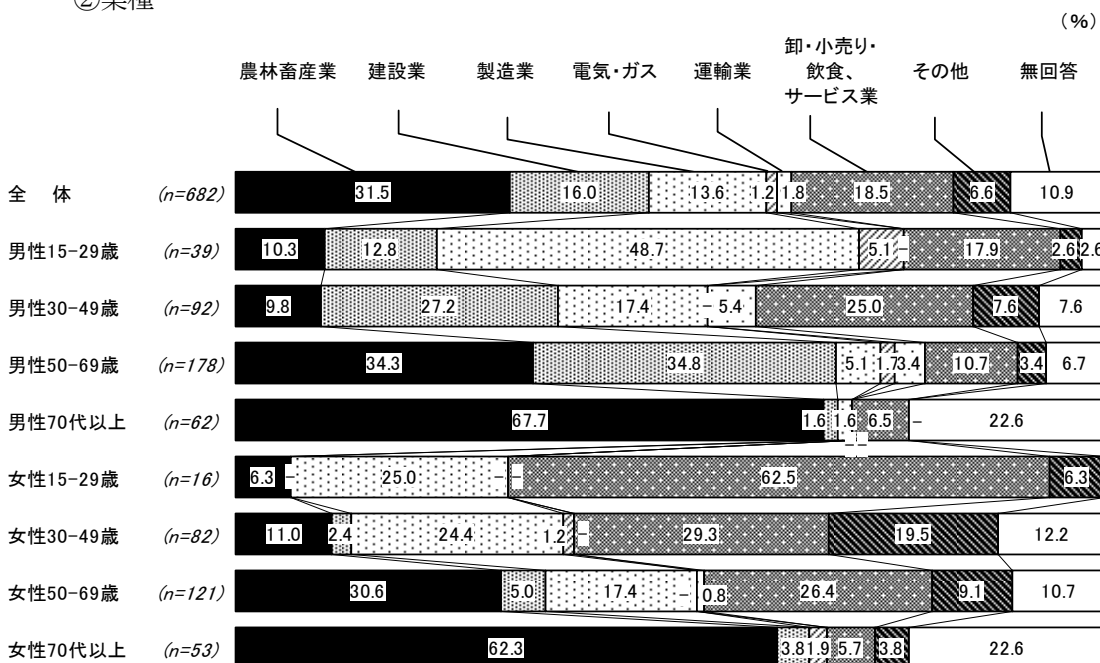
性・年代別に業種を見ると、「農林畜産業」従事者は男女とも年齢が高い層ほど多く、70代以上では6割を上回っている。一方、「卸・小売り・飲食、サービス業」は30～69歳の女性で、「建設業」は同年代の男性で、それぞれ従事者が他の年代層より多くなっている。(図表1-5-2②)

図表 1-5-2 震災発生当時の職業(性・年代別)

①職業



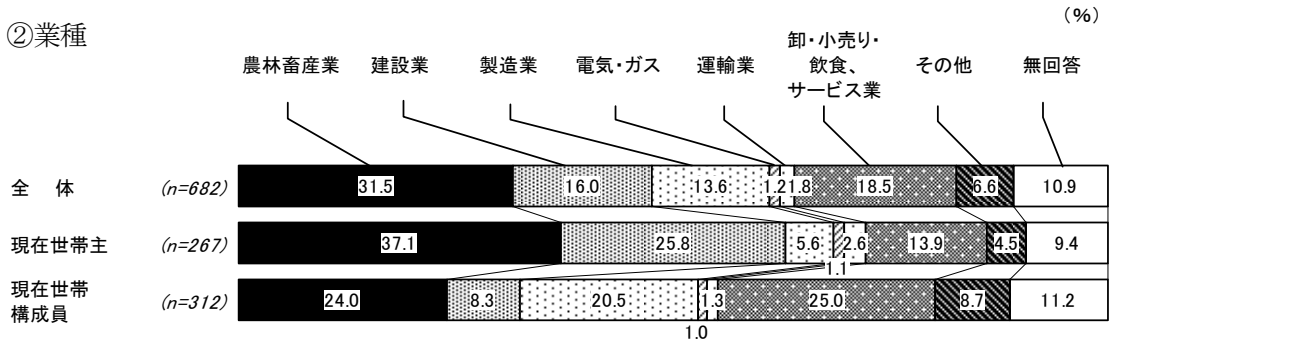
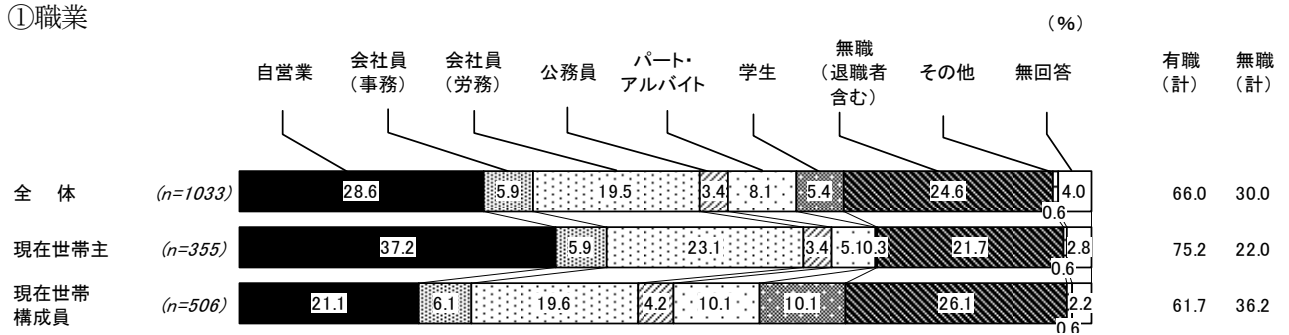
②業種



現在の世帯での立場別に見ると、「自営業」従事者は、現在世帯主で 37.2%と、世帯主以外の世帯構成員(21.1%)よりも多い。(図表 1-5-3①)

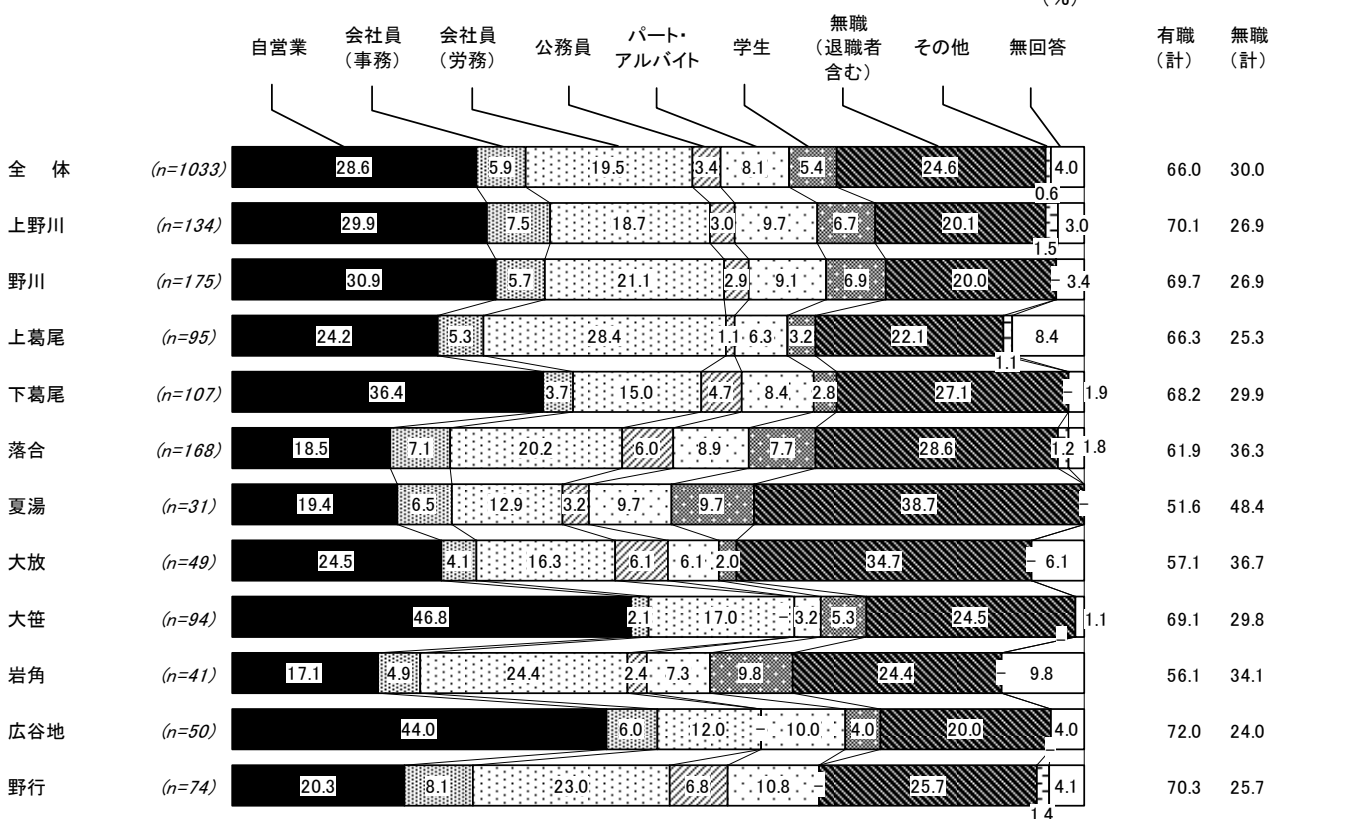
また、業種を見ると、現在世帯主は、震災発生当時「農林畜産業」が 37.1%、「建設業」が 25.8%で、この2つの業種で6割以上を占めている。(図表 1-5-3②)

図表 1-5-3 震災発生当時の職業(現在の世帯での立場別)



さらに、震災発生当時の居住地区別に職業を見ると、「自営業」従事者は、大笹地区(46.8%)と広谷地地区(44.0%)の住民で他の地区より多くなっている。一方、上葛尾地区住民では、震災発生当時「会社員(労務)」(28.4%)であったという回答者が、やや多くなっている。(図表 1-5-4)

図表 1-5-4 震災発生当時の職業(震災発生当時居住地区別)



(6) 震災発生当時まで通勤・通学していた地域と移動手段

問4 あなたが震災発生当時まで通勤・通学していた地域と、利用していた移動手段を教えてください。移動手段については、利用していた手段をすべて教えてください。

(1)通勤・通学先(○は1つ)
 (2)通勤・通学していた方は、その移動手段(○はいくつでも)

震災発生当時まで通勤・通学していた地域を聞いたところ、「葛尾村内」という回答者が 33.5%で最も多く、次いで「浪江町、双葉町、富岡町、大熊町」(13.1%)、「田村市」(8.1%)、「田村市以外の中通り(福島市、郡山市など)」(8.1%)の順となっている。「通勤・通学はしていない」という回答者は、16.2%である。(図表 1-6-1①)

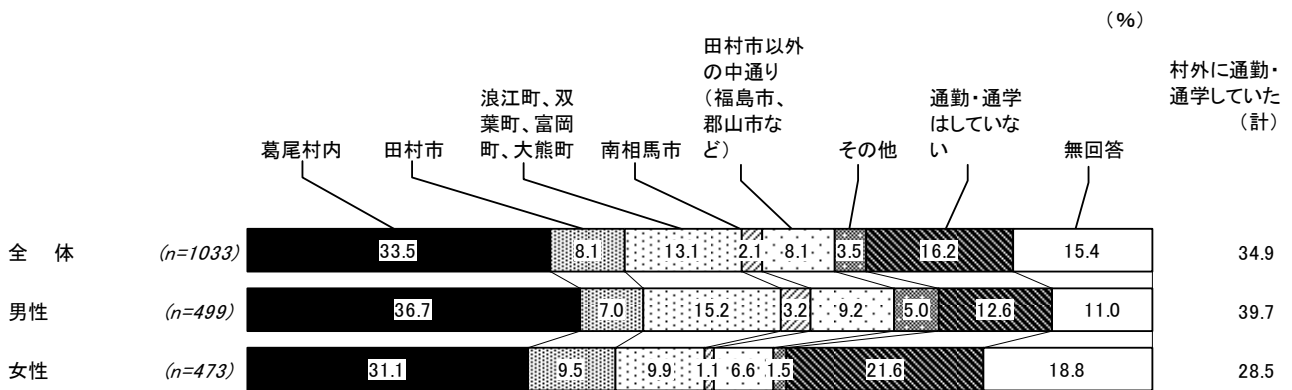
移動手段としては、「自家用車・バイク」が 72.3%と多数を占める。(図表 1-6-1②)

男女別に通勤・通学していた地域を見ると、「葛尾村内」(男性 36.7%、女性 31.1%)に通勤・通学していた回答者は、女性より男性に多くなっている。(図表 1-6-1①)

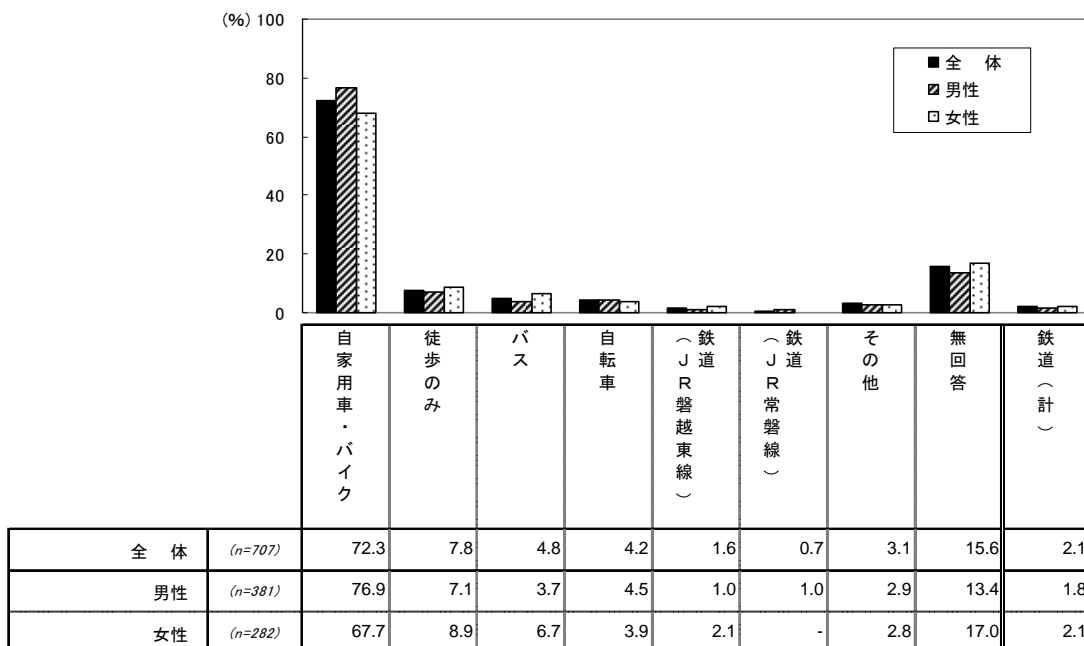
通勤手段を男女別に見ると、男女とも「自家用車・バイク」が最も多くあげられ、特に男性では 76.9%である。(図表 1-6-1②)

図表 1-6-1 震災発生当時まで通勤・通学していた地域と移動手段(男女別)

①地域



②移動手段



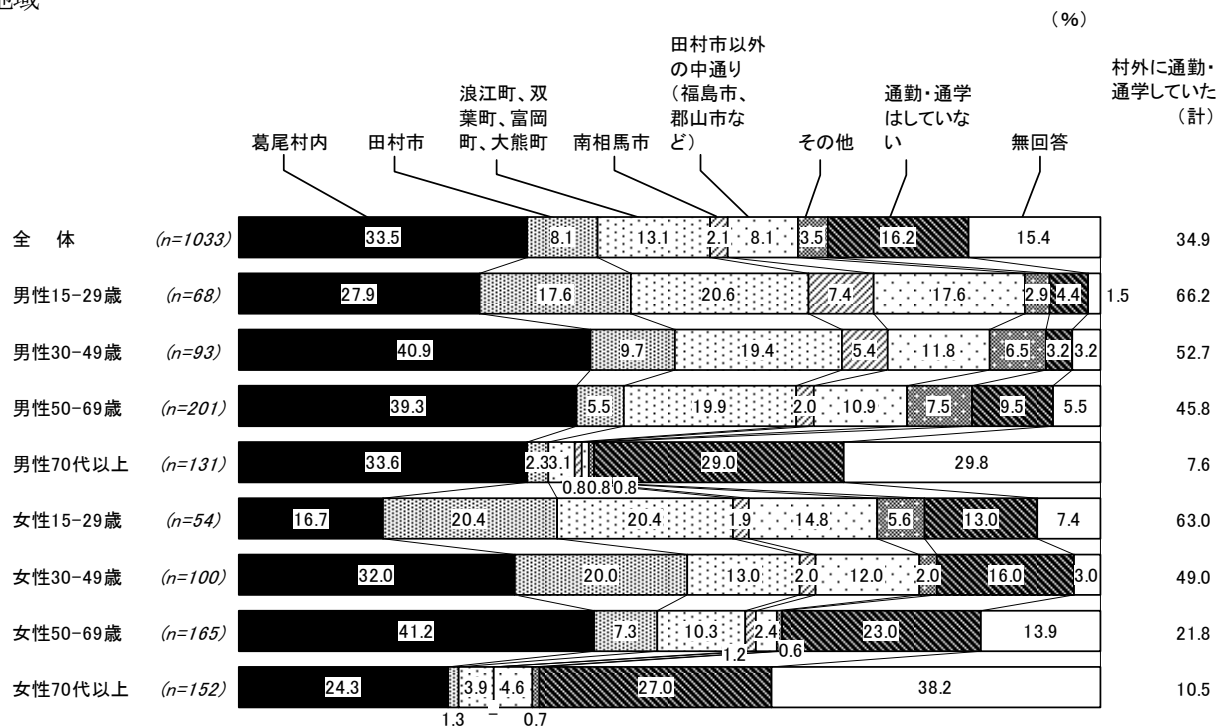
震災発生当時まで通勤・通学していた地域を性・年代別に見ると、「葛尾村内」への通勤・通学者は男性の30～69歳と女性の50～69歳で4割前後である。また、「浪江町、双葉町、富岡町、大熊町」への通勤・通学者は男性の15～69歳と女性の15～29歳で、「田村市」は女性の15～49歳で、それぞれほぼ2割と、他の性・年代層より多くなっている。

無職者の多い70代以上では、男女とも「通勤・通学はしていない」(男性29.0%、女性27.0%)という回答者が3割程度となっている。(図表1-6-2①)

移動手段を性・年代別に見ると、「自家用車・バイク」は、男女とも30～49歳の年齢層で9割以上が利用している。また、70代以上の女性では「バス」利用者が17.0%と、他の性・年代層よりやや多くなっている。(図表1-6-2②)

図表 1-6-2 震災発生当時まで通勤・通学していた地域と移動手段(性・年代別)

①地域

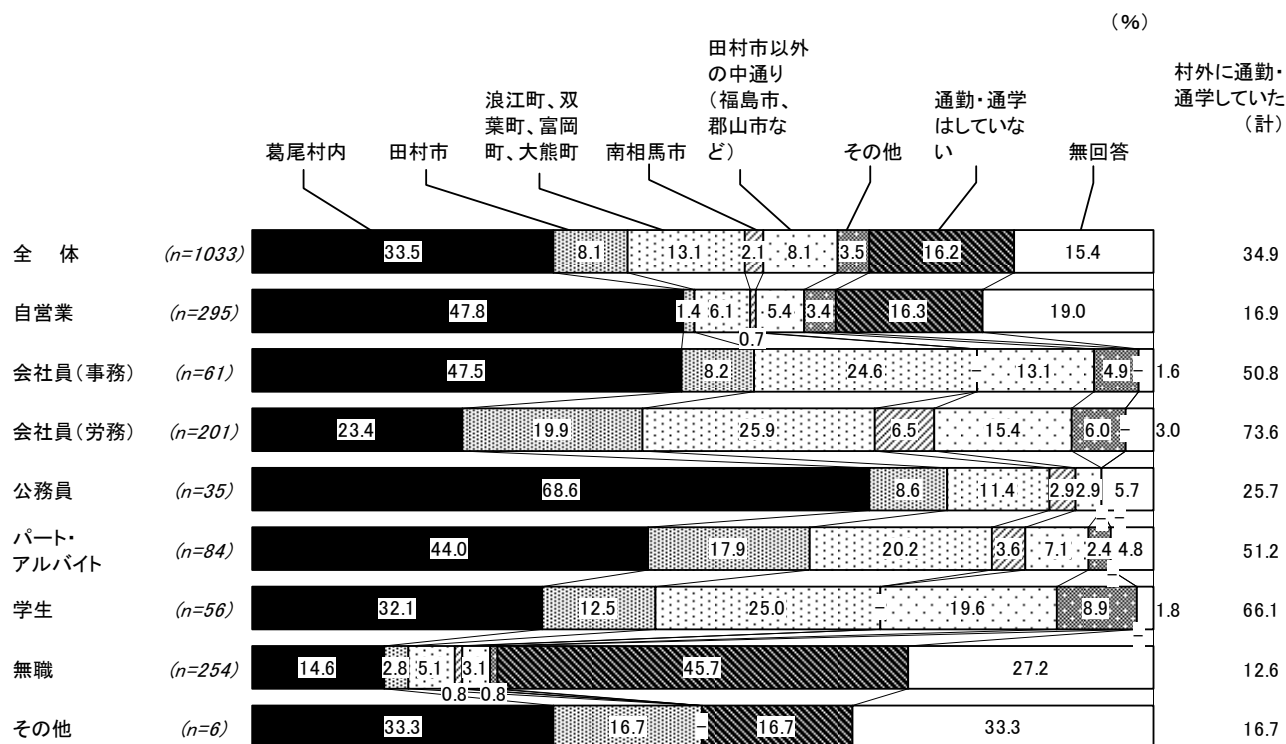


②移動手段

性・年代	自家用車・バイク	徒歩のみ	バス	自転車	鉄道 (JR磐越東線)	鉄道 (JR常磐線)	その他	無回答	鉄道(計)
全体 (n=707)	72.3	7.8	4.8	4.2	1.6	0.7	3.1	15.6	2.1
男性15-29歳 (n=64)	84.4	9.4	6.3	14.1	3.1	1.6	1.6	1.6	4.7
男性30-49歳 (n=87)	93.1	5.7	-	3.4	-	-	-	2.3	-
男性50-69歳 (n=171)	78.4	6.4	2.3	2.3	0.6	1.2	4.7	11.7	1.8
男性70代以上 (n=54)	37.0	9.3	9.3	1.9	1.9	1.9	1.9	50.0	1.9
女性15-29歳 (n=43)	67.4	14.0	14.0	9.3	11.6	-	9.3	7.0	11.6
女性30-49歳 (n=81)	92.6	4.9	-	-	1.2	-	-	2.5	1.2
女性50-69歳 (n=104)	69.2	7.7	3.8	3.8	-	-	1.9	16.3	-
女性70代以上 (n=53)	28.3	11.3	17.0	5.7	-	-	3.8	49.1	-

震災発生当時の職業別に見ると、「葛尾村内」で通勤・通学していた回答者は、自営業(47.8%)、会社員(事務)(47.5%)、パート・アルバイト(44.0%)でいずれも4割台と多くなっている。また、「浪江町、双葉町、富岡町、大熊町」への通勤・通学者は、会社員(労務)(25.9%)、学生(25.0%)、会社員(事務)(24.6%)で、他の職業層より多い。(図表 1-6-3)

図表 1-6-3 震災発生当時まで通勤・通学していた地域(震災発生当時の職業別)



震災発生当時の通勤・通学の移動手段を、通勤・通学していた地域別に見た。

「自家用車・バイク」は、田村市への通勤・通学者の95.2%が利用している。また、浪江町、双葉町、富岡町、大熊町への通勤・通学者でも85.2%と、多数が「自家用車・バイク」を利用している。

葛尾村内への通勤・通学者の13.3%は「徒歩のみ」と回答しており、他の地域への通勤・通学者よりも多くなっている。(図表 1-6-4)

図表 1-6-4 震災発生当時の通勤・通学への移動手段(通勤・通学していた地域別)

		自家用車・バイク	徒歩のみ	バス	自転車	鉄道 (JR磐越東線)	鉄道 (JR常磐線)	その他	無回答	鉄道(計)
全体	(n=707)	72.3	7.8	4.8	4.2	1.6	0.7	3.1	15.6	2.1
葛尾村内	(n=346)	60.7	13.3	5.5	6.4	0.3	-	0.6	23.1	0.3
田村市	(n=84)	95.2	2.4	13.1	3.6	4.8	1.2	-	1.2	4.8
浪江町、双葉町、富岡町、大熊町	(n=135)	85.2	0.7	3.0	1.5	-	1.5	8.1	7.4	1.5
南相馬市	(n=22)	90.9	-	-	4.5	-	-	4.5	-	-
田村市以外の中通り(福島市、郡山市など)	(n=84)	72.6	2.4	-	1.2	7.1	-	4.8	19.0	7.1
その他	(n=36)	69.4	11.1	-	2.8	-	5.6	11.1	8.3	5.6
村外に通勤・通学していた(計)	(n=361)	83.4	2.5	4.2	2.2	2.8	1.4	5.5	8.3	3.9

(7) 震災発生当時まで日常の買い物をしていた場所と移動手段

問5 あなたが、震災発生当時まで、日常の生鮮食料品や日用品の買物をしていた場所(市町村)と、店舗までの移動手段を教えてください。

(1)もっともよく買物に行っていた市町村を1つ教えてください。(○は1つ)

(2)もっともよく行っていた買物場所(市町村)へ行く際に利用していた移動手段をすべて教えてください。(○はいくつでも)

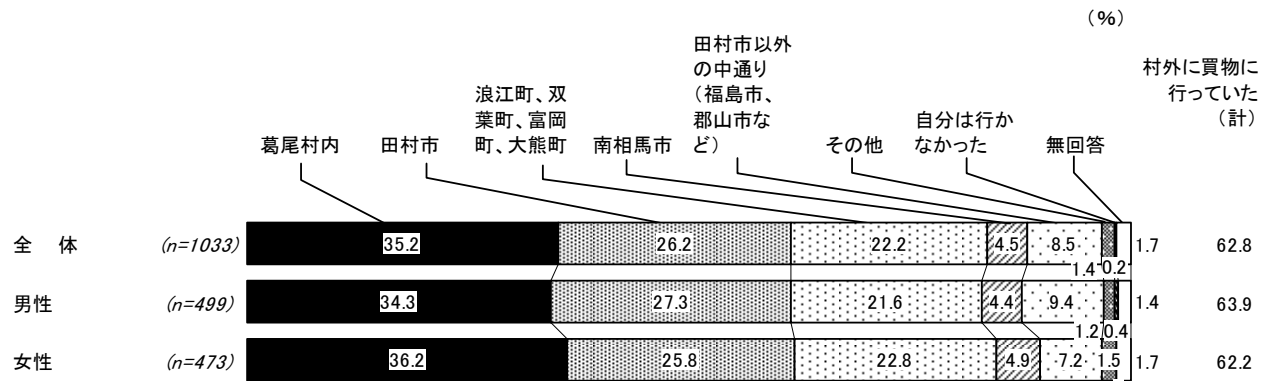
震災発生当時までよく日常の生鮮食料品や日用品の買物をしていた場所(市町村)を聞いたところ、「葛尾村内」という回答者が35.2%で最も多く、次いで「田村市」が26.2%、「浪江町、双葉町、富岡町、大熊町」が22.2%となっている。(図表 1-7-1①)

買物場所への移動手段としては、「自家用車・バイク」が88.3%と、多数を占めている。(図表 1-7-1②)

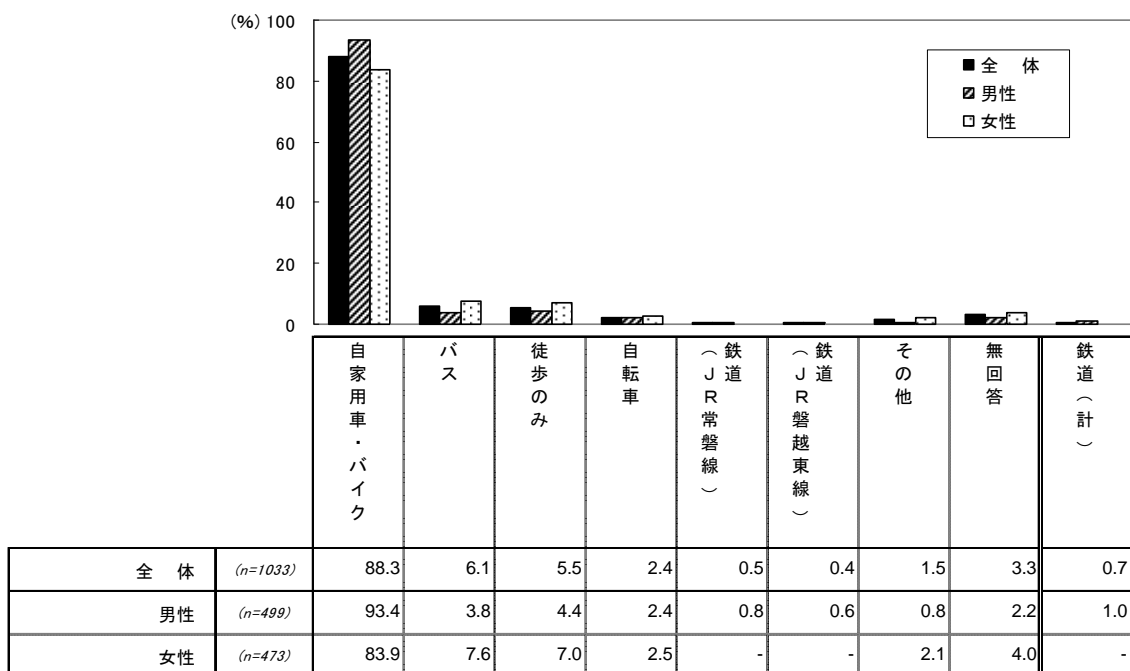
日常の買物場所に大きな男女差はみられないが、移動手段の「自家用車・バイク」利用者(男性 93.4%、女性 83.9%)は、女性より男性に多くなっている。(図表 1-7-1①②)

図表 1-7-1 震災発生当時まで日常の買い物をしていた場所と移動手段(男女別)

①場所(市町村)



②移動手段



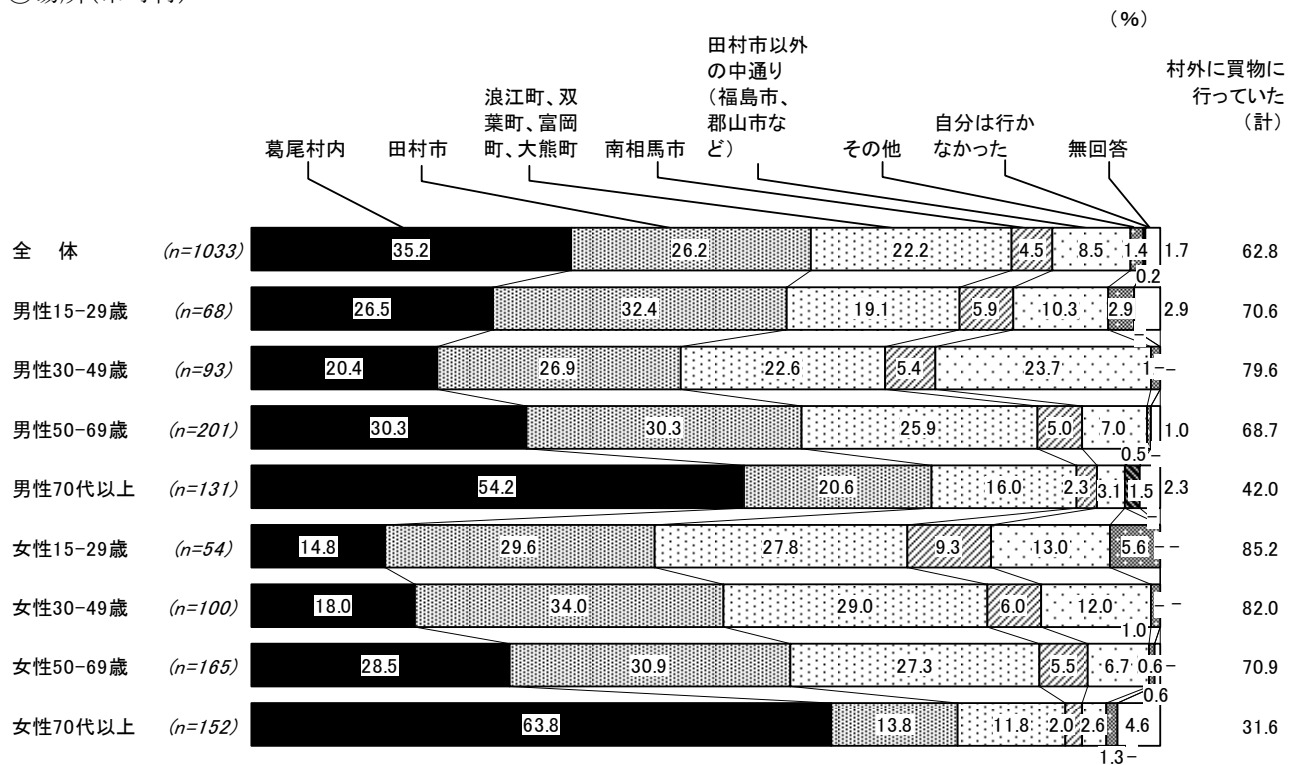
震災発生当時まで日常の買物をしていた場所を性・年代別に見ると、男女とも70代以上では「葛尾村内」という回答者が多く、特に女性では63.8%となっている。

また、「田村市」や「浪江町、双葉町、富岡町、大熊町」といった『村外に買物に行っていた』という回答者は、男性の30～49歳と女性の15～49歳の年代層で8割前後を占めている。(図表1-7-2①)

移動手段としては、女性の70代以上で「バス」利用者が18.4%と、他の性・年代層より多くなっている。(図表1-7-2②)

図表 1-7-2 震災発生当時まで日常の買物をしていた場所と移動手段(性・年代別)

①場所(市町村)



②移動手段

性・年代	自家用車・バイク	バス	鉄道 (JR常磐線)	鉄道 (JR磐越東線)	自転車	徒歩のみ	その他	無回答	鉄道(計)
全体 (n=1033)	88.3	6.1	0.5	0.4	2.4	5.5	1.5	3.3	0.7
男性15-29歳 (n=68)	92.6	2.9	1.5	-	7.4	7.4	-	2.9	1.5
男性30-49歳 (n=93)	97.8	-	-	-	1.1	2.2	-	1.1	-
男性50-69歳 (n=201)	96.5	2.5	1.0	0.5	2.0	2.5	0.5	0.5	1.0
男性70代以上 (n=131)	86.3	9.2	0.8	1.5	1.5	7.6	1.5	5.3	1.5
女性15-29歳 (n=54)	88.9	3.7	-	-	13.0	11.1	-	-	-
女性30-49歳 (n=100)	97.0	-	-	-	1.0	5.0	-	1.0	-
女性50-69歳 (n=165)	92.7	3.0	-	-	1.8	3.0	1.8	2.4	-
女性70代以上 (n=152)	64.5	18.4	-	-	0.7	11.2	4.6	9.2	-

移動手段を、買い物の場所別に見ると、葛尾村内で買い物をする回答者は、「自家用車・バイク」(77.5%)に次いで「バス」と「徒歩のみ」がともに13.5%と、村外に買物に行く回答者より多くなっている。

村外に買物に行く回答者は、「自家用車・バイク」利用者が全数近くを占めている。(図表 1-7-3)

図表 1-7-3 震災発生当時まで日常の買物をしていた場所への移動手段(買物をしていた場所別)

		自家用車・ バイク	バス	鉄道 (JR常磐線)	鉄道 (JR磐越東線)	自転車	徒歩のみ	その他	無回答	鉄道(計)
全 体	(n=1033)	88.3	6.1	0.5	0.4	2.4	5.5	1.5	3.3	0.7
葛尾村内	(n=364)	77.5	13.5	0.8	0.5	5.2	13.5	2.5	3.3	0.8
田村市	(n=271)	97.4	3.0	-	0.7	0.4	-	0.4	1.1	0.7
浪江町、双葉町、富岡 町、大熊町	(n=229)	96.9	2.2	0.9	-	0.4	0.9	0.9	0.9	0.9
南相馬市	(n=47)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
田村市以外の中通り (福島市、郡山市など)	(n=88)	96.6	1.1	-	-	3.4	3.4	-	-	-
その他	(n=14)	57.1	-	-	-	7.1	21.4	21.4	7.1	-
村外に買物に行ってい た(計)	(n=651)	96.2	2.2	0.3	0.3	0.9	1.2	0.9	1.2	0.6

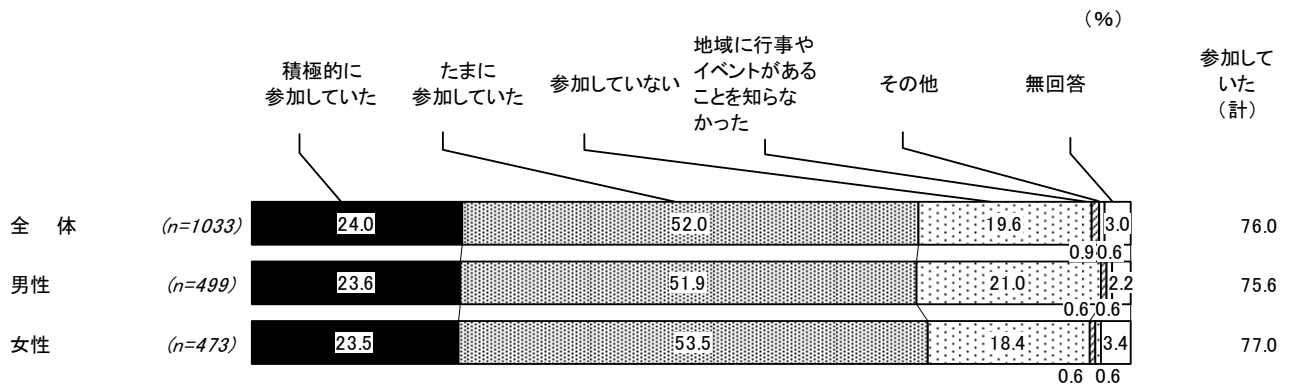
(8) 震災発生前の村内行事への参加状況

問6 あなたは、震災前の葛尾村では、村内の行事やイベントに参加していましたか。(〇は1つ)

震災発生前の葛尾村での村内行事やイベントに、「積極的に参加していた」という回答者は 24.0%で、「たまに参加していた」(52.0%)を合わせると、回答者のほぼ 4 分の 3 が行事やイベントに『参加していた』と答えている。(図表 1-8-1)

男女別に見ても、差はみられない。(図表 1-8-1)

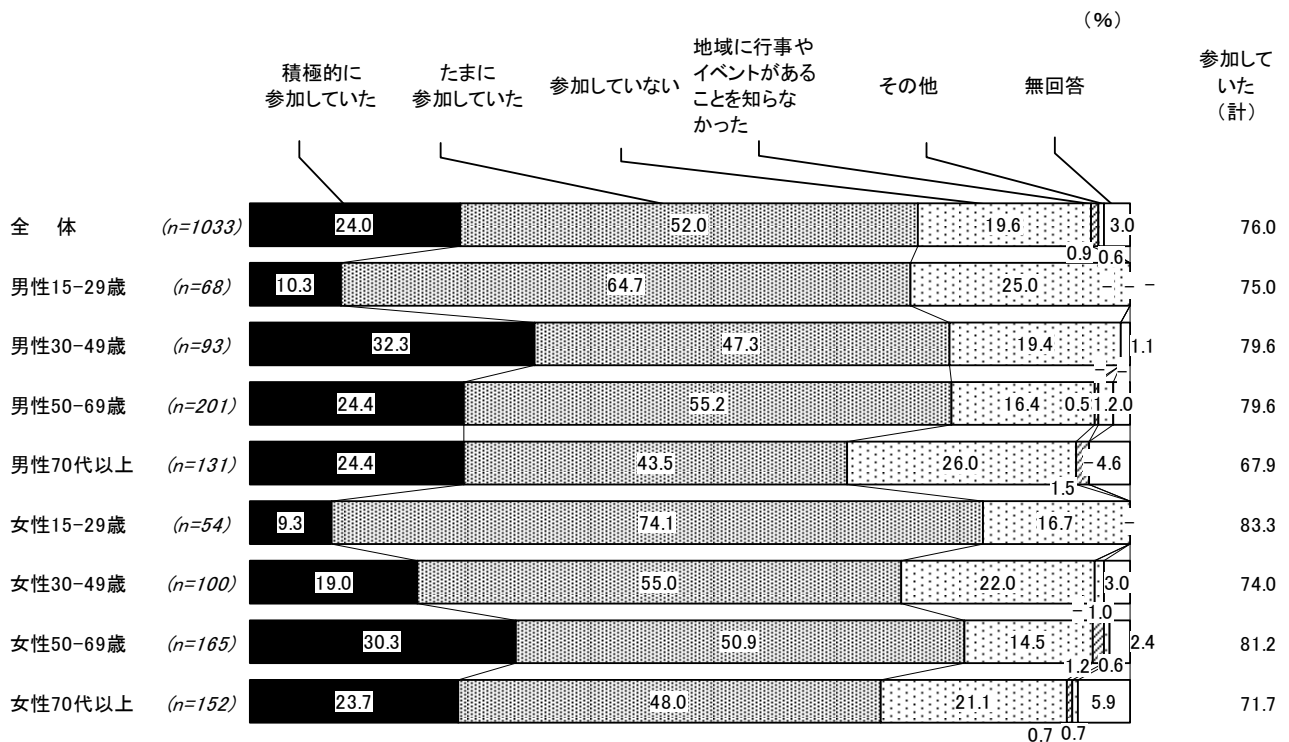
図表 1-8-1 震災発生前の村内行事への参加状況(男女別)



性・年代別に見ると、女性の 15～29 歳では、「積極的に参加していた」という回答者は 9.3%と少ないが、74.1%が「たまに参加していた」と回答しており、参加経験者は 8 割を上回る。

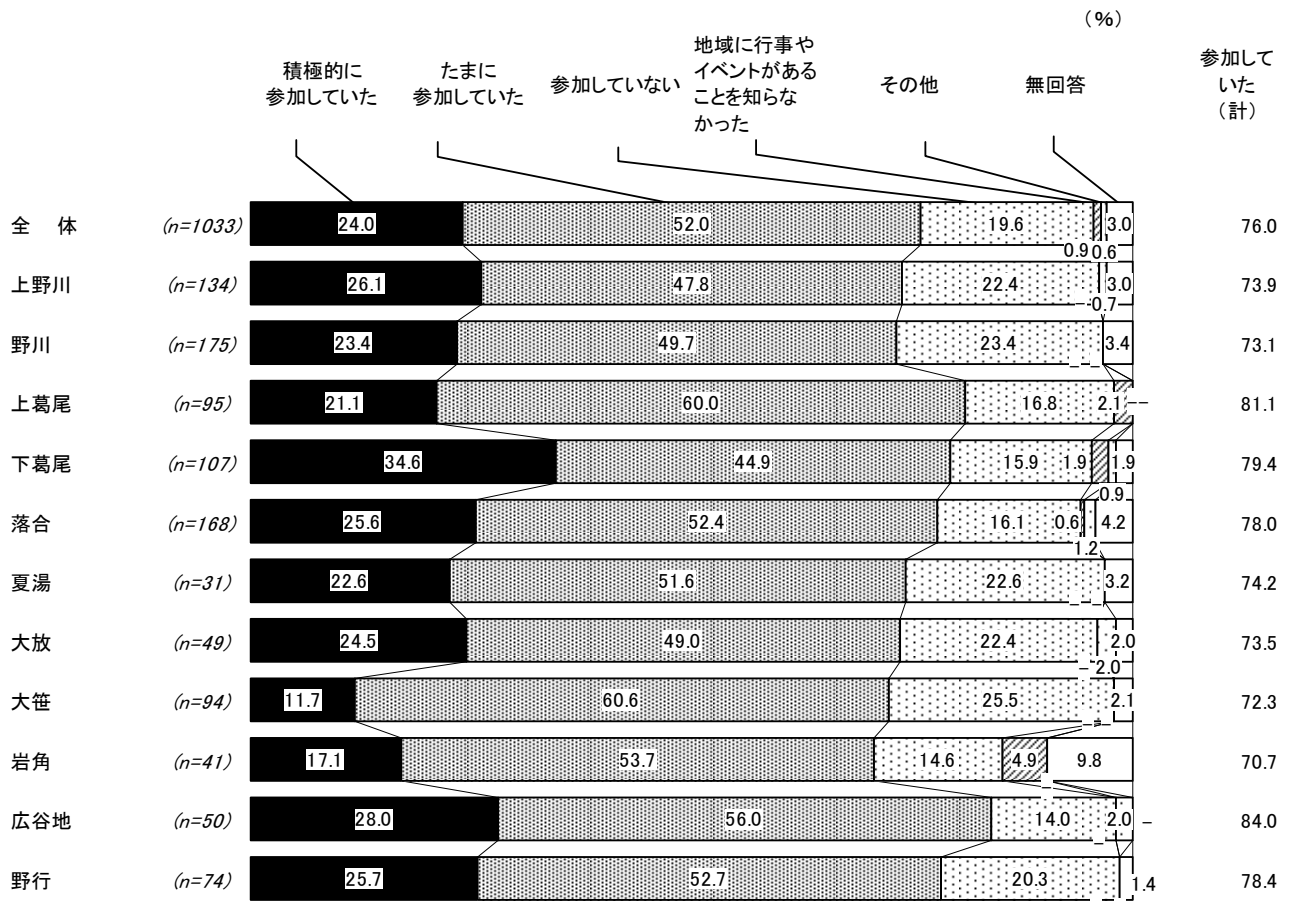
また、男性の 30～49 歳と女性の 50～69 歳では、「積極的に参加していた」という回答者が他の性・年代層より多く、参加経験者がともに 8 割程度である。(図表 1-8-2)

図表 1-8-2 震災発生前の村内行事への参加状況(性・年代別)



震災発生当時の居住地区別に見ると、いずれの地区でも参加経験者が多数を占めているが、下葛尾地区住民では「積極的に参加していた」という回答者が34.6%と、他の地区より多くなっている。(図表 1-8-3)

図表 1-8-3 震災発生前までの村内行事への参加状況(震災発生当時の居住地区別)



2 現時点の状況

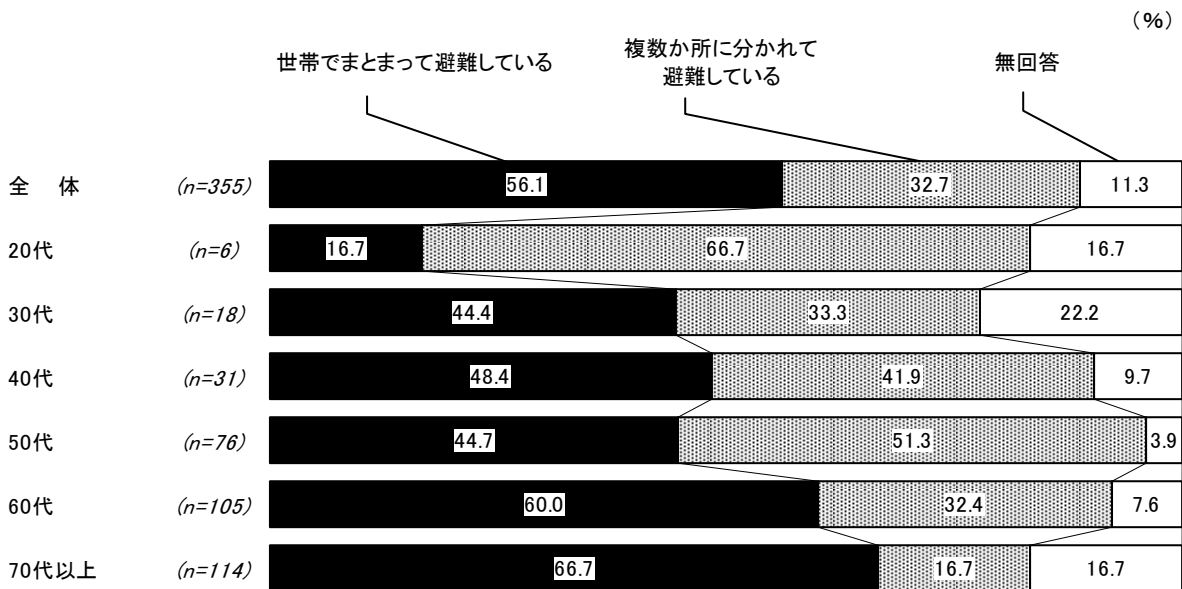
(1) 世帯の避難状況(現世帯主)

問 39 現在、あなたがお住まいの住宅には震災発生当時の世帯でまとまって避難していますか。(○は1つ)

震災発生当時の世帯(355 世帯)の避難状況を聞いたところ、「世帯でまとまって避難している」世帯が 56.1%で、「複数か所に分かれて避難している」と回答した、いわゆる“分散世帯”は 32.7%である。(図表 2-1-1)

世帯主の年代別に見ると、50 代の世帯主では「複数か所に分かれて避難している」世帯(51.3%)が過半数であるが、60 代以上になると「世帯でまとまって避難している」世帯の方が 6 割以上と多くなっている。(図表 2-1-1)

図表 2-1-1 世帯の避難状況(世帯主の年代別)



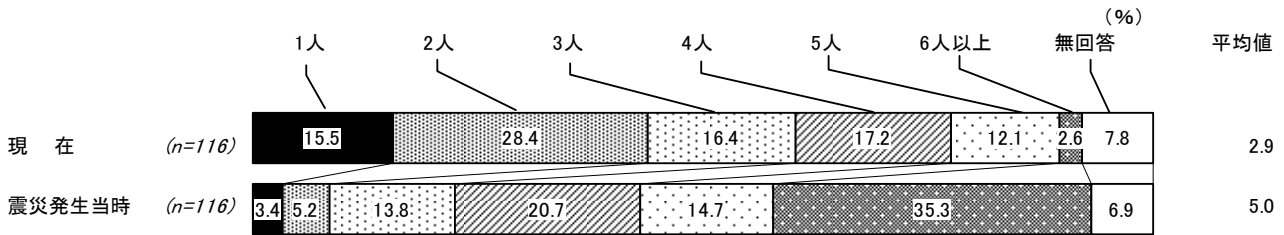
*15～19 歳は該当数 0 のため図表には表記していない。

(2) 現在の世帯構成(分散世帯の現世帯主)

【問 39 で「2 複数か所に分かれて避難している」と回答した方にかがいます。】
 問 39-1 震災前の世帯のうち、現在あなたと同居している人数(あなたを含めた人数)とその内訳、及び別居されている人数を教えてください。(具体的に)

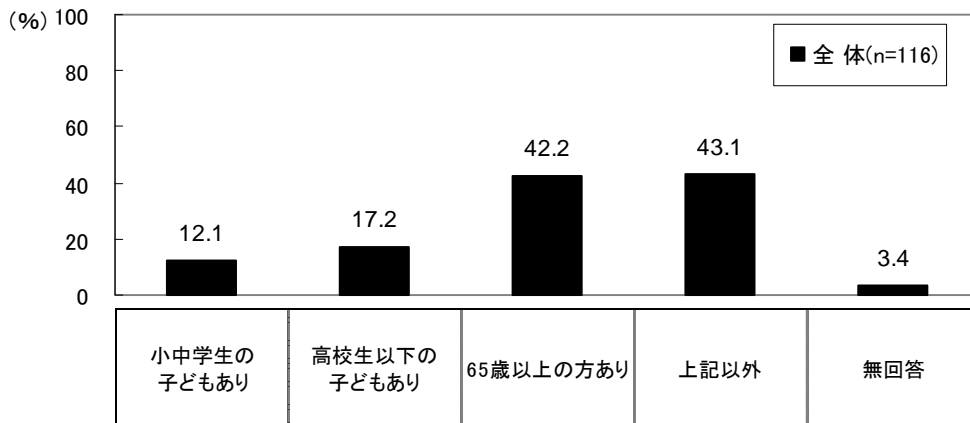
複数か所に分かれて避難している分散世帯(116 世帯)の、現在の同居世帯人数は平均 2.9 人で、「2 人」世帯が 28.4%で最も多くなっている。なお、震災発生当時は、「6 人以上」世帯が 35.3%で、平均同居世帯人数は 5.0 人である。(図表 2-2-1)

図表 2-2-1 分散世帯の現在の世帯構成



現在の家族の状況としては、現在、65 歳以上の高齢者がいる世帯は 42.2%で、震災当時の 6 割程度まで減少している。また、「小中学生の子ども」がいる世帯は 12.1%、「高校生以下の子ども」がいる世帯は 17.2%となっている。(図表 2-2-2)

図表 2-2-2 分散世帯の現在の世帯構成

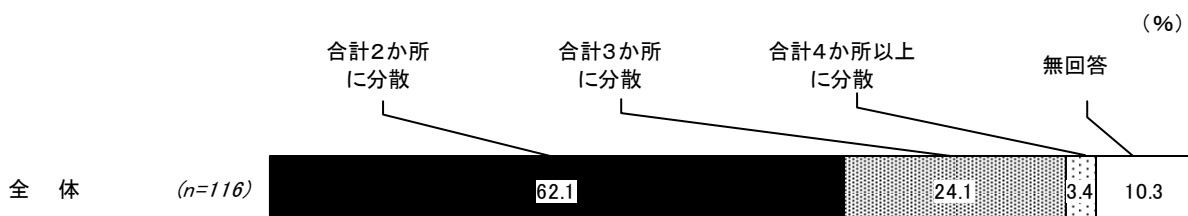


(3) 分散世帯数(分散世帯の現世帯主)

【問 39 で「2 複数か所に分かれて避難している」と回答した方にかがいます。】
 問 39-2 震災発生当時ご一緒にお住まいであった世帯のご家族は、現在合計何か所に分散してお住まいでしょうか。あなたのお住まいも含めた数を教えてください。(〇は1つ)

複数か所に分かれて避難している分散世帯(116 世帯)の分散か所数を見ると、「合計2か所に分散」が 62.1%で多数を占め、次いで「合計3か所に分散」が 24.1%、「合計4か所以上に分散」という世帯は 3.4%である。(図表 2-3-1)

図表 2-3-1 分散世帯数

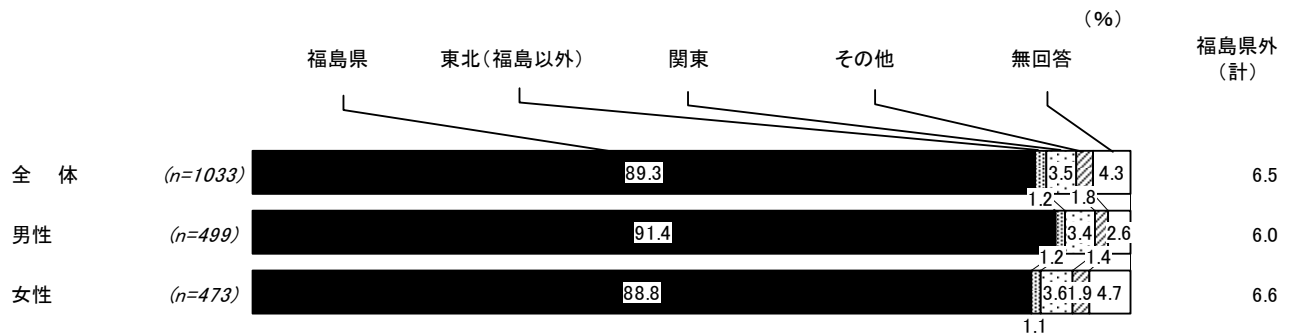


(4) 現在避難している先の自治体

問7 あなたが現在避難されている先の自治体名を教えてください。(具体的に)

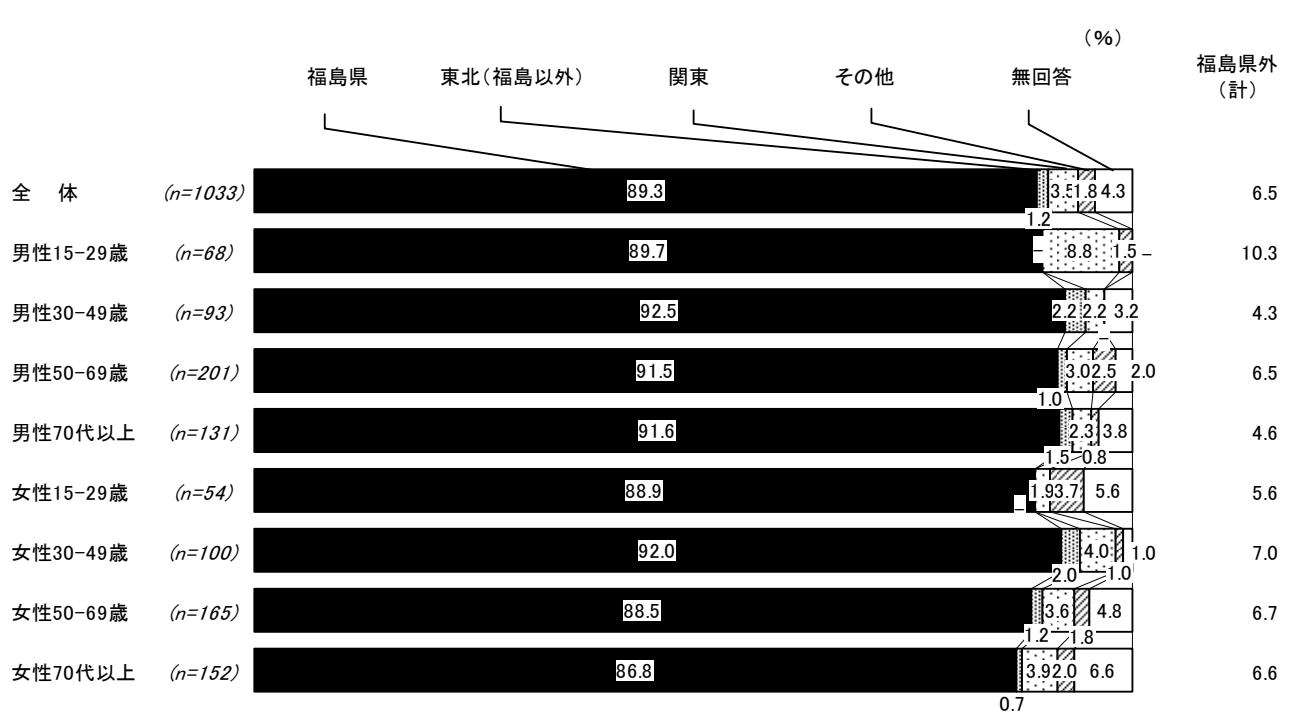
現在の避難先を都道府県別に見ると、「福島県」が89.3%で多数を占める。(図表 2-4-1)
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-4-1)

図表 2-4-1 現在避難している先の自治体(都道府県)(男女別)

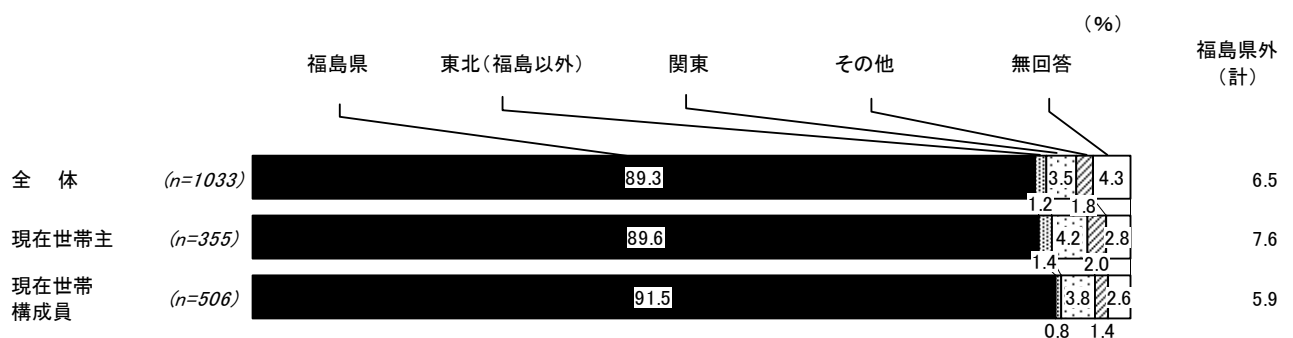


性・年代別、現在の世帯での立場別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-4-2、図表 2-4-3)

図表 2-4-2 現在避難している先の自治体(都道府県)(性・年代別)



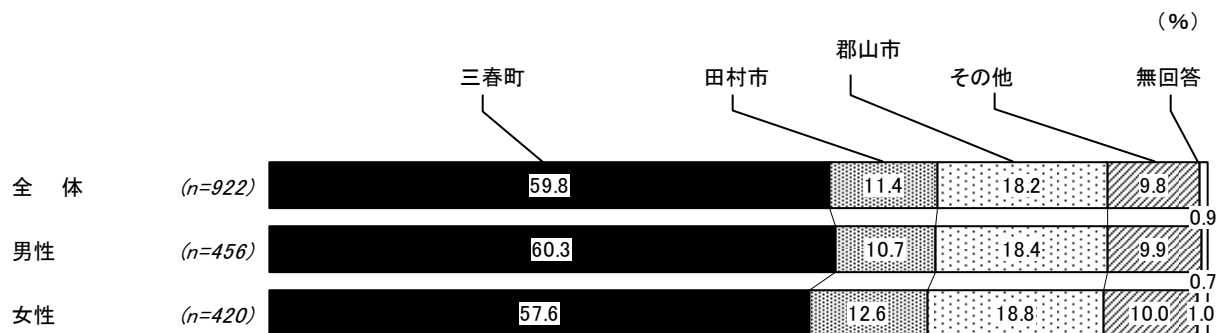
図表 2-4-3 現在避難している先の自治体(都道府県)(現在の世帯での立場別)



福島県内で避難している人(922人)の避難先は、「三春町」が59.8%で最も多く、次いで「郡山市」18.2%、「田村市」(11.4%)の順となっている。(図表 2-4-4)

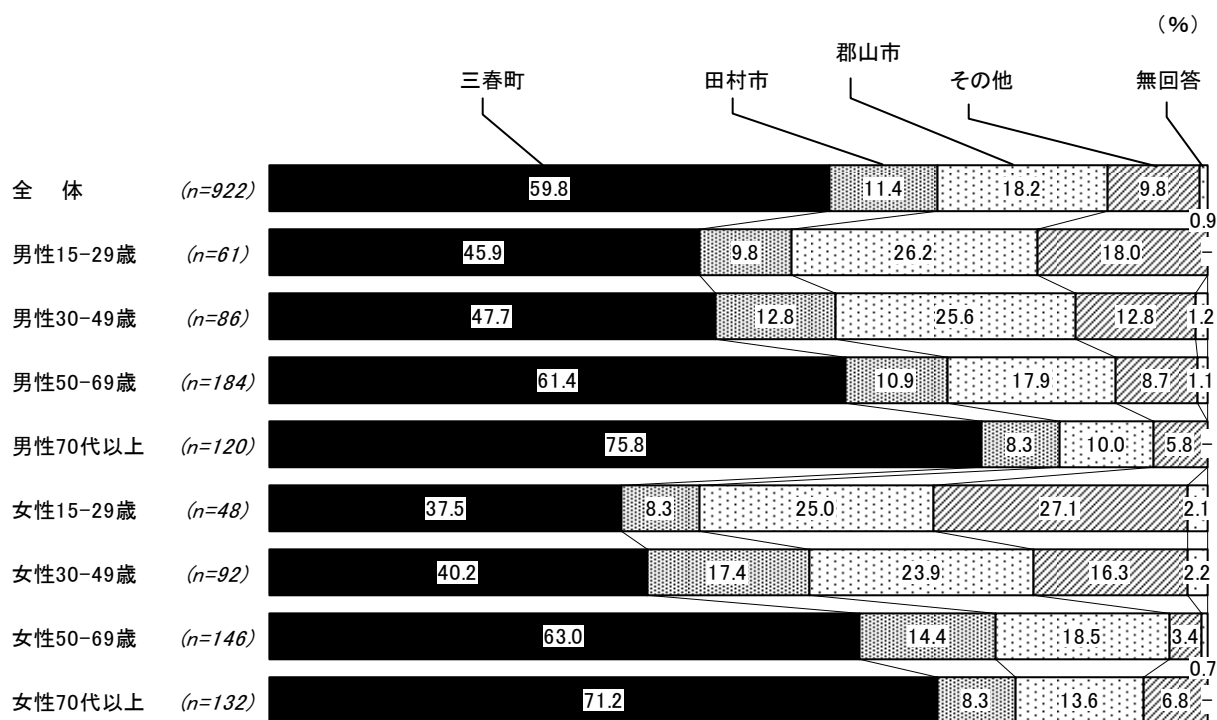
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-4-4)

図表 2-4-4 現在避難している先の自治体(福島県内)(男女別)



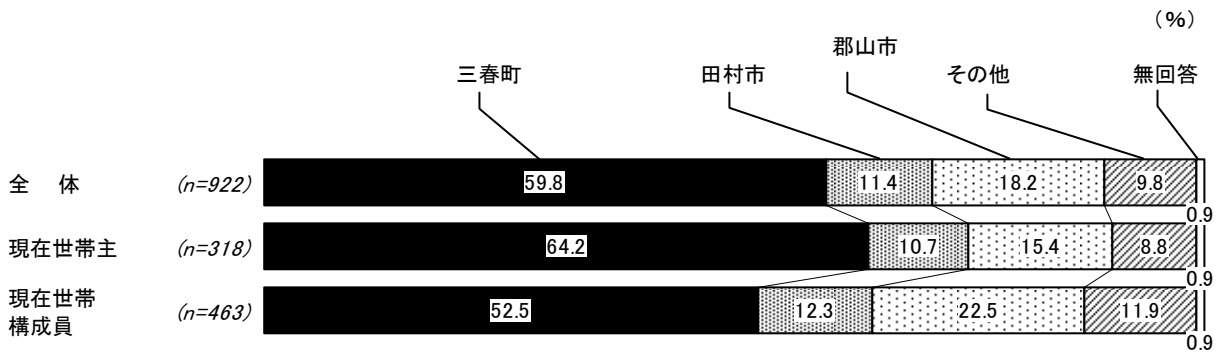
性・年代別に見ると、男女とも70代以上は「三春町」居住者(男性75.8%、女性71.2%)が7割を上回っている。一方、男女とも15~49歳は、「郡山市」居住者が他の性・年代層に比べて多くなっている。(図表 2-4-5)

図表 2-4-5 現在避難している先の自治体(福島県内)(性・年代別)



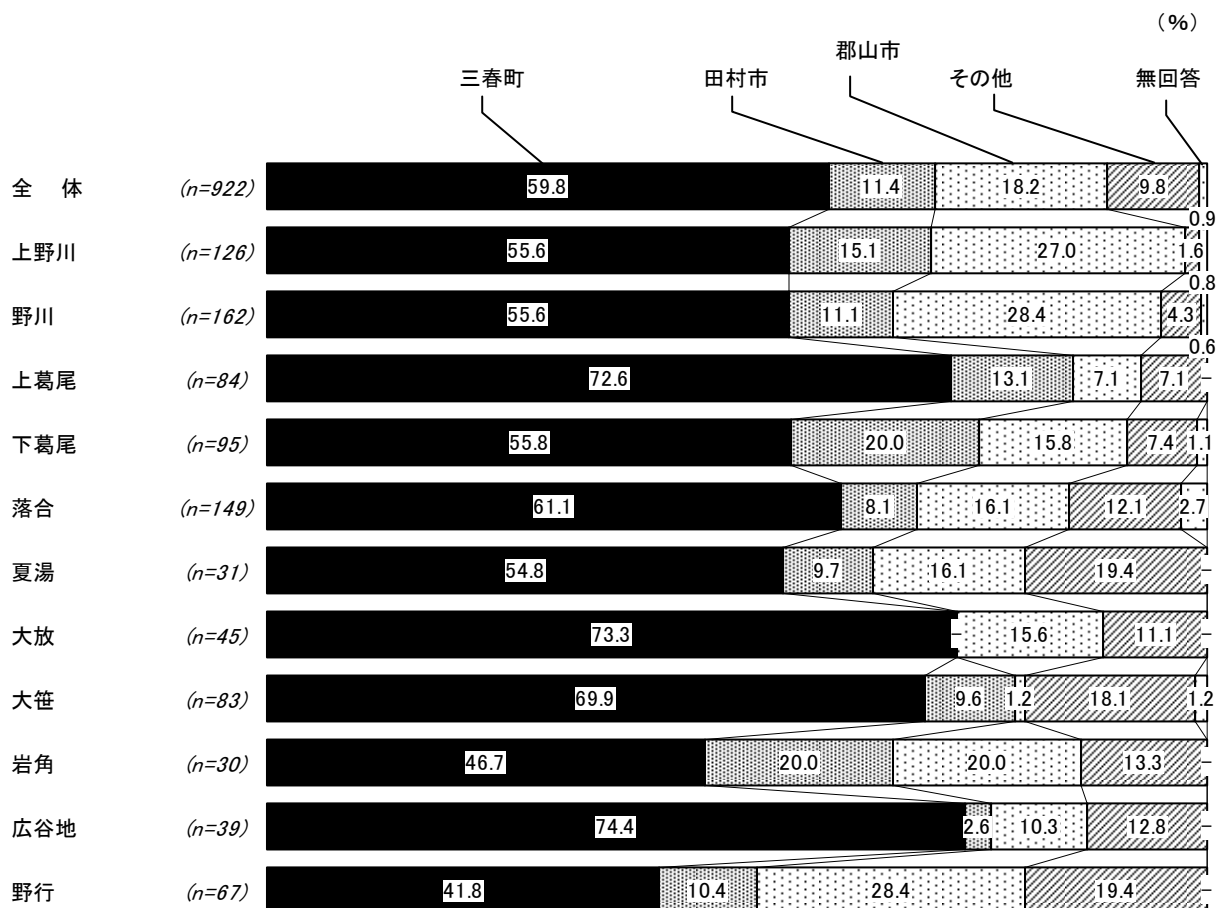
現在の世帯での立場別に見ると、世帯主では「三春町」居住者が 64.2%を占めている。世帯主以外の世帯構成員では、「三春町」居住者(52.5%)に次いで、「郡山市」居住者が 22.5%となっている。(図表 2-4-6)

図表 2-4-6 現在避難している先の自治体(福島県内)(現在の世帯での立場別)



震災発生当時の居住地区別に見ると、上葛尾地区と大笹地区住民は 7 割前後が、現在「三春町」に居住している。上野川地区、野川地区、野行地区の住民では、現在「郡山市」居住者が 3 割弱と他の地区住民より多くなっている。下葛尾地区住民の 2 割は、現在「田村市」に居住している。(図表 2-4-7)

図表 2-4-7 現在避難している先の自治体(福島県内)(震災発生当時の居住地区別)



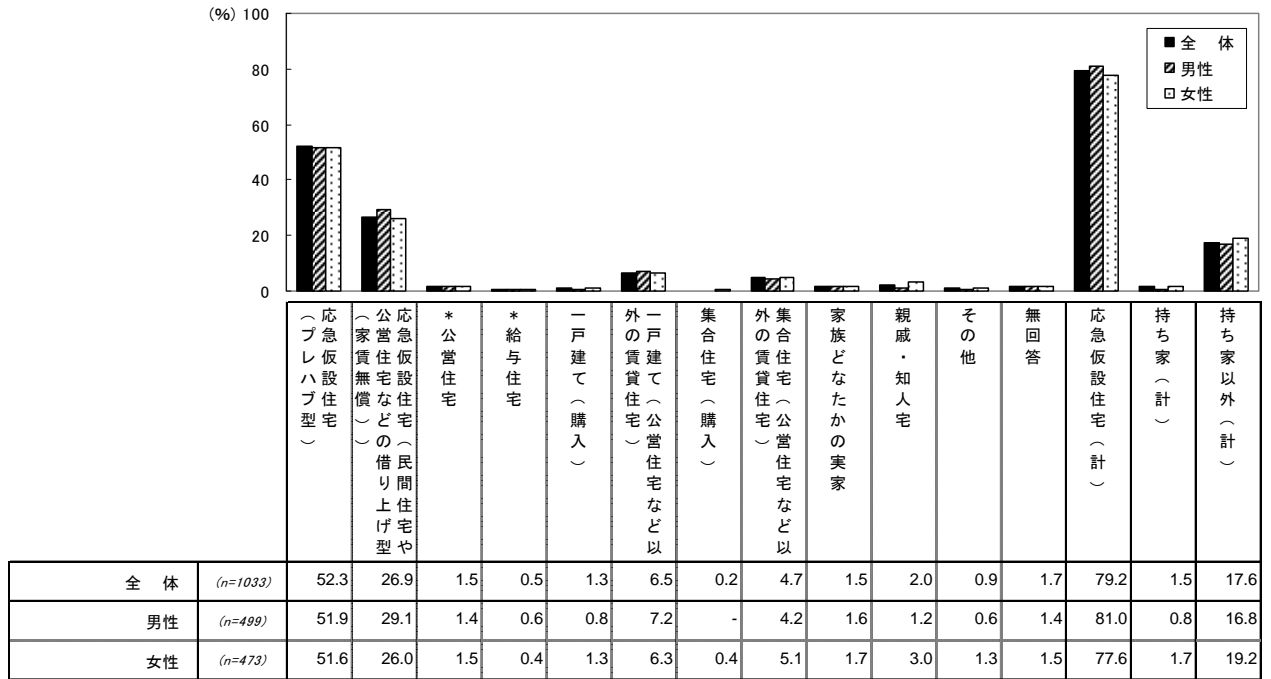
(5) 現在の住居種別

問8 現在お住まいになっている住居種別にもっともあてはまるものを教えてください。(〇は1つ)

現在の住居形態としては、「応急仮設住宅(プレハブ型)」居住者が 52.3%で最も多く、次いで「応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))」が 26.9%である。

男女別に見ても、差はみられない。(図表 2-5-1)

図表 2-5-1 現在の住居種別(男女別)



*公営住宅: (「応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))」による入居の場合を除く)
 *給与住宅: (社宅、公務員宿舎など) (「応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))」による入居の場合を除く)

性・年代別に見ると、男女とも70代以上では「応急仮設住宅(プレハブ型)」居住者が6割を上回って多くなっている。一方、男女とも15～49歳では、「応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))」居住者が、他の性・年代層より多くなっている。(図表2-5-2)

図表2-5-2 現在の住居種別(性・年代別)

		応急仮設住宅(プレハブ型)	借り上げ型(家賃無償)	民間住宅などの借り上げ型(家賃無償)	* 公営住宅	* 給与住宅	一戸建て(購入)	一戸建て(公営住宅など以外の賃貸住宅)	集合住宅(購入)	集合住宅(公営住宅など以外の賃貸住宅)	家族どなたかの実家	親戚・知人宅	その他	無回答	応急仮設住宅(計)	持ち家(計)	持ち家以外(計)
全体	(n=1033)	52.3	26.9	1.5	0.5	1.3	6.5	0.2	4.7	1.5	2.0	0.9	1.7	79.2	1.5	17.6	
男性15-29歳	(n=68)	33.8	48.5	-	1.5	-	10.3	-	4.4	-	-	-	1.5	82.4	-	16.2	
男性30-49歳	(n=93)	36.6	41.9	3.2	2.2	1.1	7.5	-	4.3	2.2	-	-	1.1	78.5	1.1	19.4	
男性50-69歳	(n=201)	53.2	26.4	1.5	-	1.0	8.0	-	5.5	1.5	1.5	1.5	-	79.6	1.0	19.4	
男性70代以上	(n=131)	70.2	14.5	0.8	-	0.8	4.6	-	1.5	2.3	2.3	-	3.1	84.7	0.8	11.5	
女性15-29歳	(n=54)	33.3	35.2	1.9	-	-	7.4	-	9.3	-	3.7	3.7	5.6	68.5	-	25.9	
女性30-49歳	(n=100)	35.0	38.0	4.0	1.0	1.0	7.0	-	9.0	2.0	3.0	-	-	73.0	1.0	26.0	
女性50-69歳	(n=165)	57.0	24.2	0.6	-	2.4	7.9	-	3.6	1.8	1.8	-	0.6	81.2	2.4	15.8	
女性70代以上	(n=152)	83.2	16.4	0.7	0.7	0.7	3.9	1.3	2.6	2.0	3.9	2.6	2.0	79.6	2.0	16.4	

現在の福島県内避難先別に見ると、「三春町」在住者の89.3%は「応急仮設住宅(プレハブ型)」に居住している。一方、田村市、郡山市、その他の市に避難している層では「応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))」居住者が「応急仮設住宅(プレハブ型)」より多くなっている。(図表2-5-3)

図表2-5-3 現在の住居種別(現在の福島県内避難先別)

		応急仮設住宅(プレハブ型)	借り上げ型(家賃無償)	民間住宅などの借り上げ型(家賃無償)	* 公営住宅	* 給与住宅	一戸建て(購入)	一戸建て(公営住宅など以外の賃貸住宅)	集合住宅(購入)	集合住宅(公営住宅など以外の賃貸住宅)	家族どなたかの実家	親戚・知人宅	その他	無回答	応急仮設住宅(計)	持ち家(計)	持ち家以外(計)
全体	(n=922)	56.5	27.2	1.4	0.4	0.5	6.3	0.1	3.6	0.9	1.4	0.8	0.9	83.7	0.7	14.8	
三春町	(n=551)	89.3	7.8	0.5	-	0.2	0.7	0.2	-	0.4	-	-	0.9	97.1	0.4	1.6	
田村市	(n=105)	20.0	43.8	1.9	-	1.9	20.0	-	8.6	-	1.9	1.0	1.0	63.8	1.9	33.3	
郡山市	(n=168)	-	69.0	2.4	0.6	0.6	16.1	-	8.3	-	1.2	1.2	0.6	69.0	0.6	29.8	
その他	(n=90)	7.8	46.7	1.1	3.3	1.1	6.7	-	11.1	6.7	10.0	4.4	1.1	54.4	1.1	43.3	

(6) 震災前からの世帯主との居住状況

問9 現在、震災前からの世帯主と一緒に住んでいますか。(○は1つ)

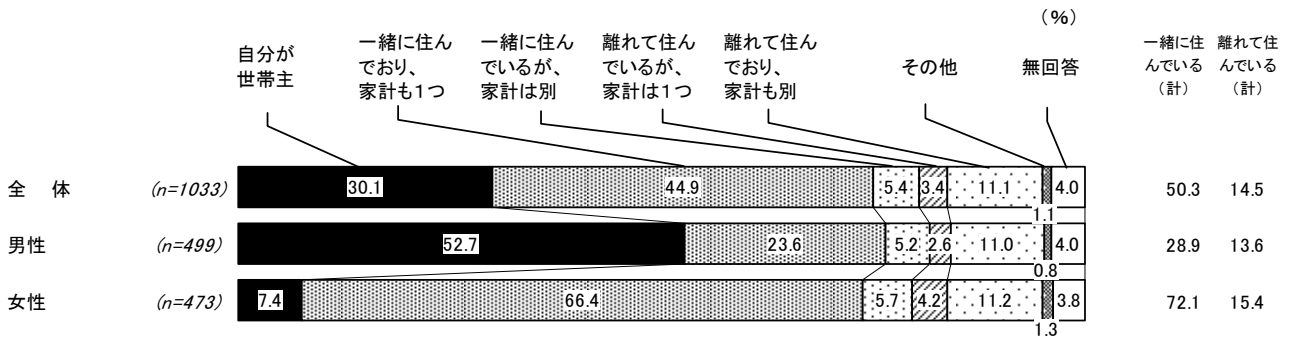
震災発生当時の世帯主との現在の同別居の状況を聞いた。

現在、「一緒に住んでおり、家計も1つ」という回答者は44.9%で、「一緒に住んでいるが、家計は別」(5.4%)を合わせると、半数は震災前から現在まで当時の世帯主と同居している。一方、「離れて住んでいるが、家計は1つ」(3.4%)もしくは「離れて住んでおり、家計も別」(11.1%)と回答した、現在、当時の世帯主と別居している回答者は14.5%となっている。

「自分が世帯主」という回答者は、30.1%である。(図表 2-6-1)

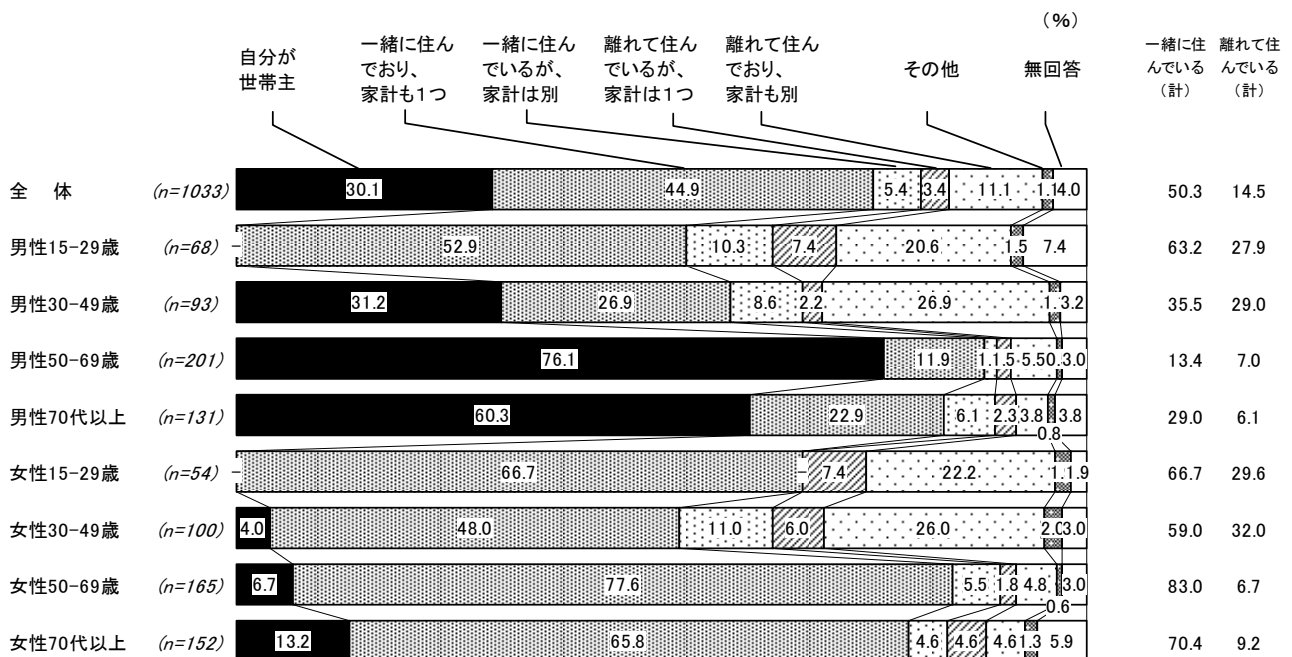
男女別に見ても、「自分が世帯主」である回答者を含めると男女とも8割前後が、当時の世帯主と同居しており、男女差はみられない。(図表 2-6-1)

図表 2-6-1 現在の住居種別(男女別)



性・年代別に見ると、男女とも15~49歳で震災発生当時の世帯主と「離れて住んでおり、家計も別」という回答者が、50代以上よりも多くなっている。(図表 2-6-2)

図表 2-6-2 現在の住居種別(性・年代別)



(7) 現在の職業

1) 現在の職業

問10 現在のあなたの職業を教えてください。
 現在仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

現在の職業を聞いたところ、「無職(退職者も含む)」者が 47.0%で最も多く、「学生」(4.3%)を合わせると過半数が職に就いていない。有職者は、「会社員(労務)」(17.7%)、「パート・アルバイト」(9.6%)、「自営業」(7.7%)の順となっている。(図表 2-7-1①)

有職者(453 人)の業種としては、「卸・小売り・飲食、サービス業」(22.7%)、「建設業」(21.9%)、「製造業」(15.2%)の順となっている。(図表 2-7-1②)

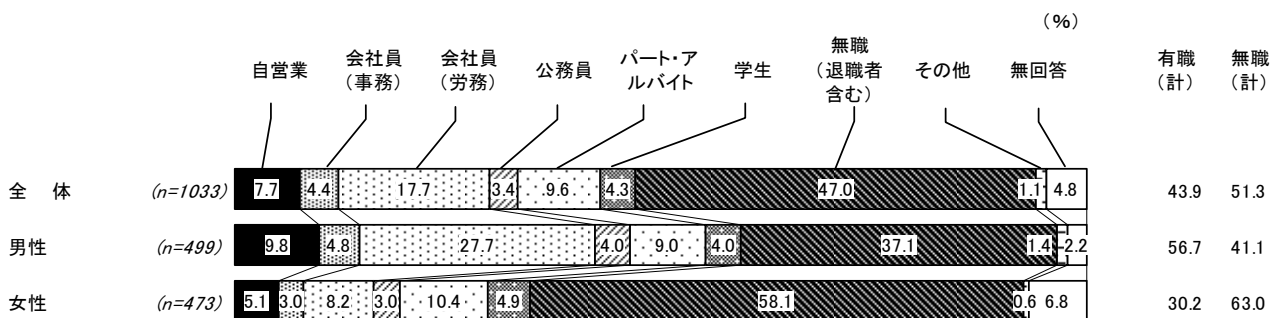
男女別に職業を見ると、「会社員(労務)」(男性 27.7%、女性 8.2%)は女性より男性に多く、男女差が大きくなっている。一方、「無職(退職者も含む)」は、女性で 58.1%と、男性を約 20 ポイント上回っている。(図表 2-7-1①)

さらに業種を見ると、「建設業」従事者(男性 30.0%、女性 4.9%)は女性より男性に多く、「卸・小売り・飲食、サービス業」(同 18.4%、32.2%)もしくは「製造業」従事者(同 12.4%、21.7%)は男性より女性に、それぞれ高くなっている。

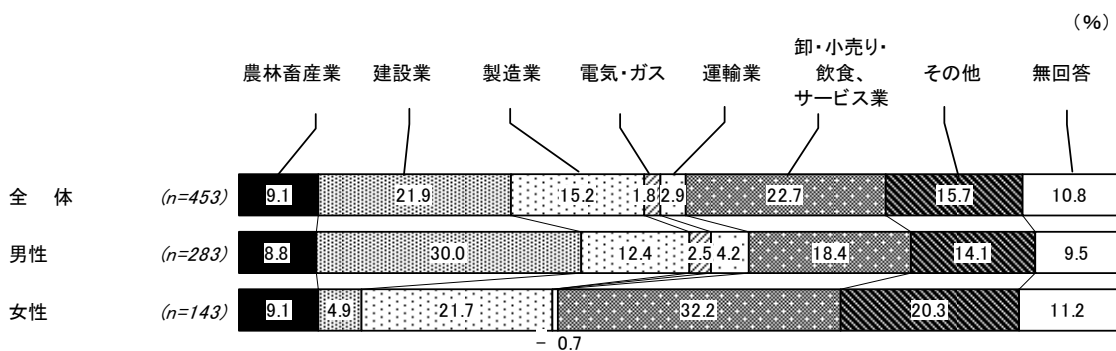
(図表 2-7-1②)

図表 2-7-1 現在の職業(男女別)

①職業



②業種



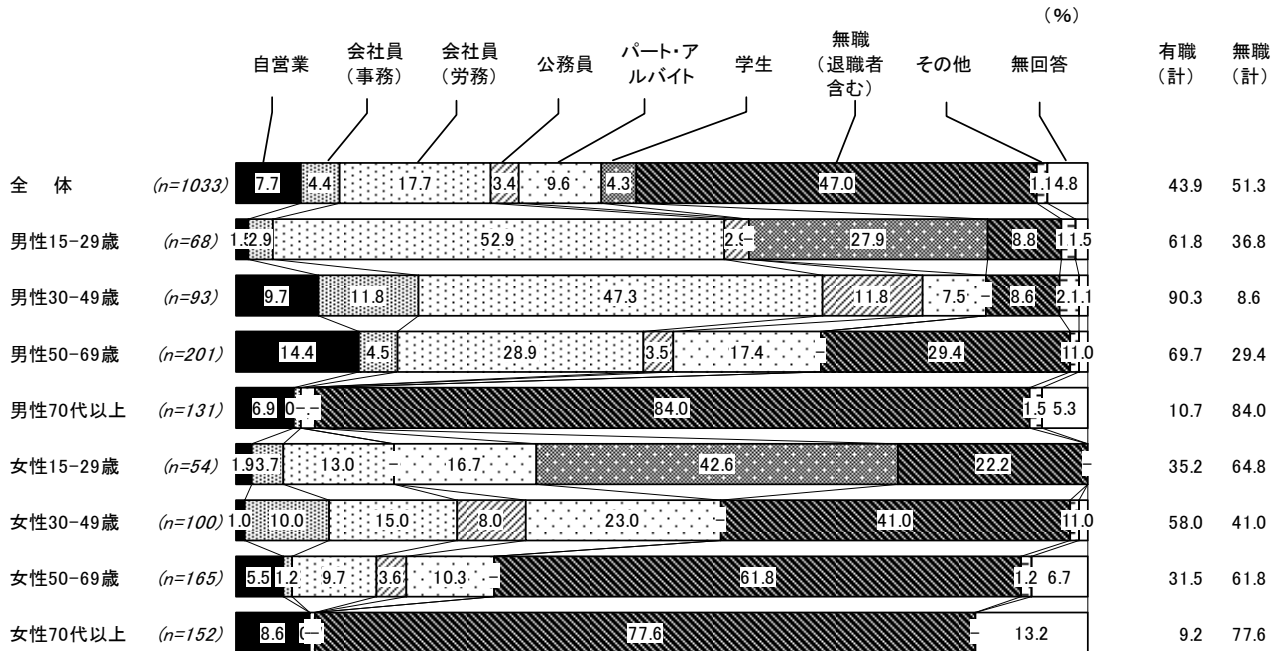
性・年代別に職業を見ると、男性の15～49歳の年齢層では「会社員(労務)」が5割前後を占めている。一方、女性の30～49歳では「パート・アルバイト」(23.0%)で働いている回答者が、他の性・年代層よりやや多い。

「無職(退職者も含む)」は、男女とも70代以上になると8割前後である。(図表2-7-2①)

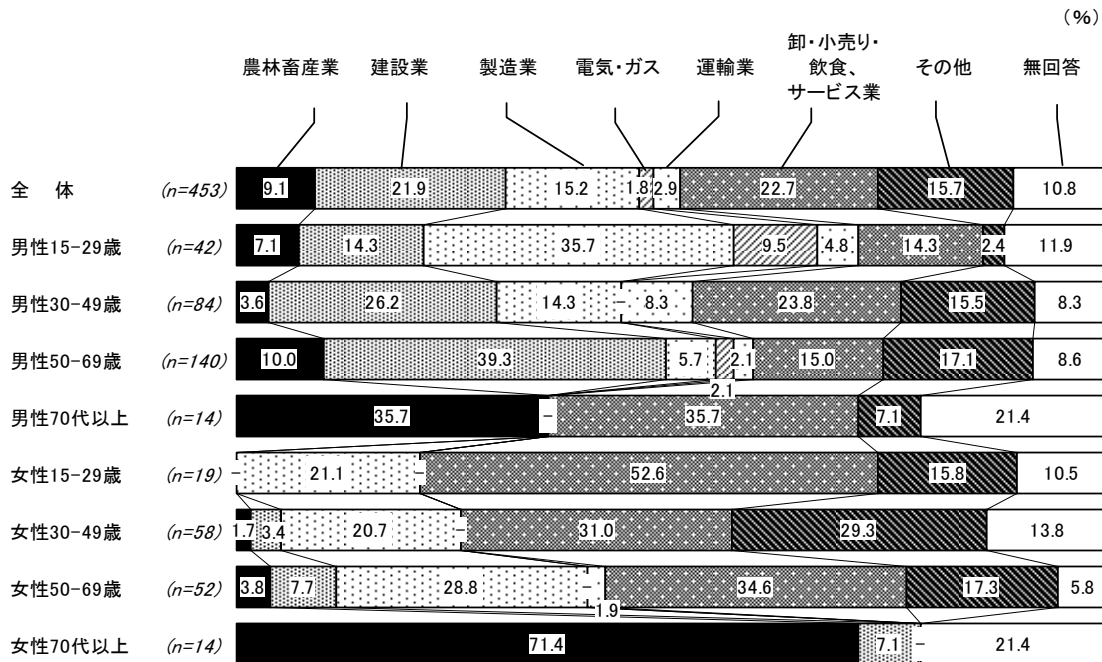
性・年代別に業種を見ると、男性の50～69歳で、「建設業」従事者が39.3%と多くなっている。(図表2-7-2②)

図表2-7-2 震災発生当時の職業(性・年代別)

①職業



②業種



2) 震災発生当時の職業との違い

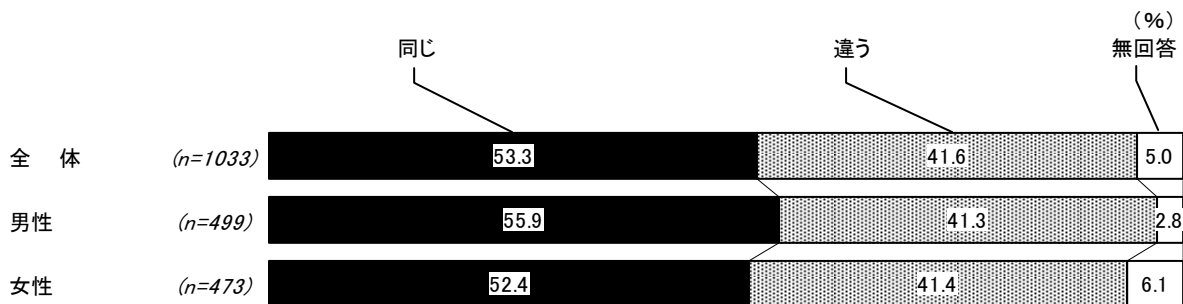
問 10-1 現在の職業は、震災発生当時の職業と同じですか。(○は1つ)

(ただし、同じ会社内で就業形態や内容のみが変わった場合は、「1 同じ」を選択してください。)

就労の有無に関わらず、現在の職業が震災発生当時の職業と同じかどうかを聞いたところ、現在の職業が、震災発生当時と「同じ」である回答者は 53.3%と過半数である。(図表 2-7-3)

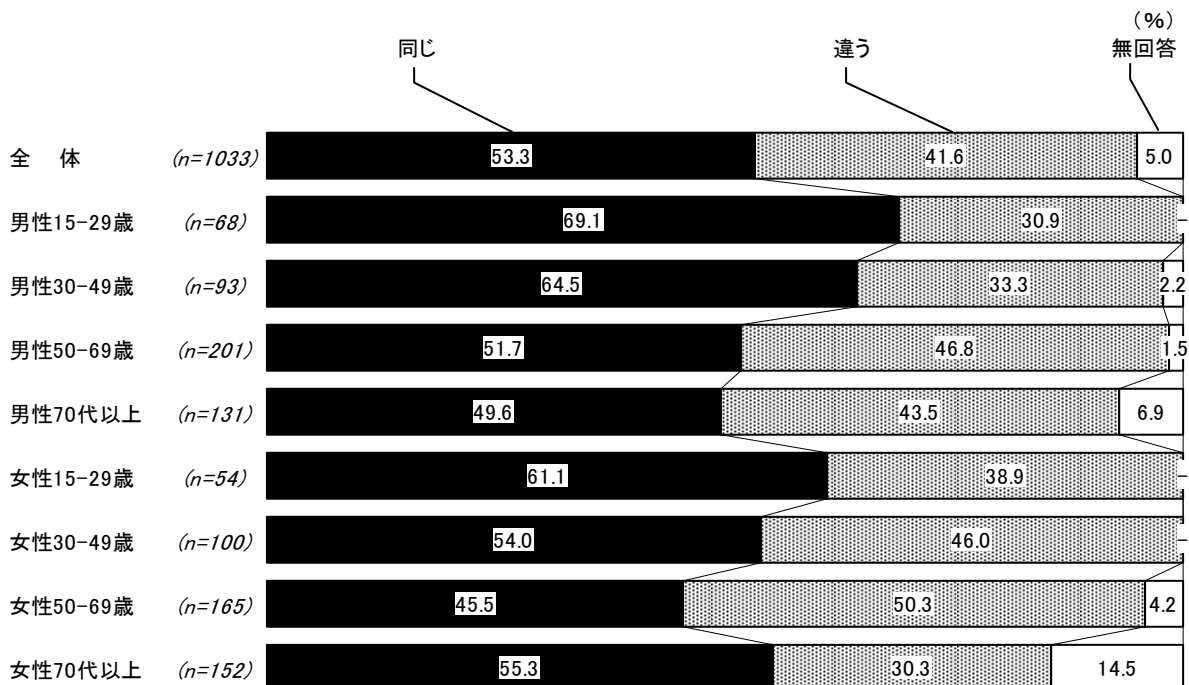
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-7-3)

図表 2-7-3 震災発生当時の職業との違い(男女別)



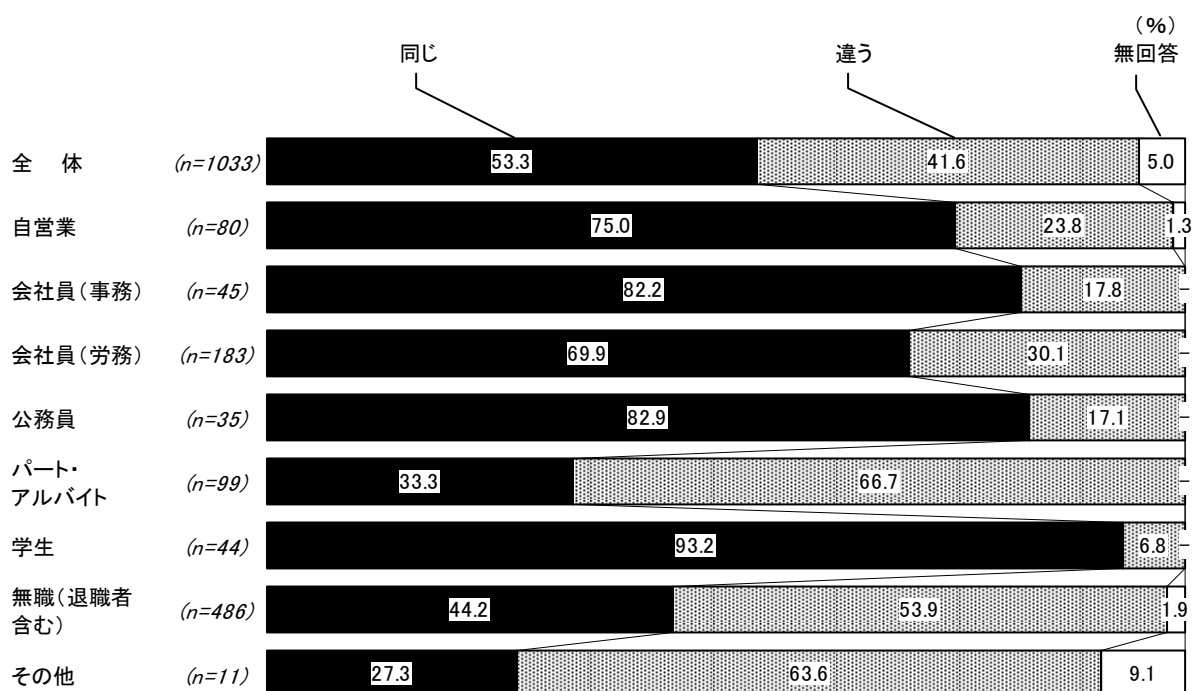
性・年代別に見ると、男性の 15～49 歳と女性の 15～29 歳で、震災発生当時と「同じ」職業に就いているという回答者が多くなっている。(図表 2-7-4)

図表 2-7-4 震災発生当時の職業との違い(性・年代別)



現在の職業別に見ると、現在パート・アルバイトもしくは無職(退職者も含む)の回答者では、震災発生当時とは職業が「違う」という回答者が過半数にのぼる。(図表 2-7-5)

図表 2-7-5 震災発生当時の職業との違い(現在の職業別)



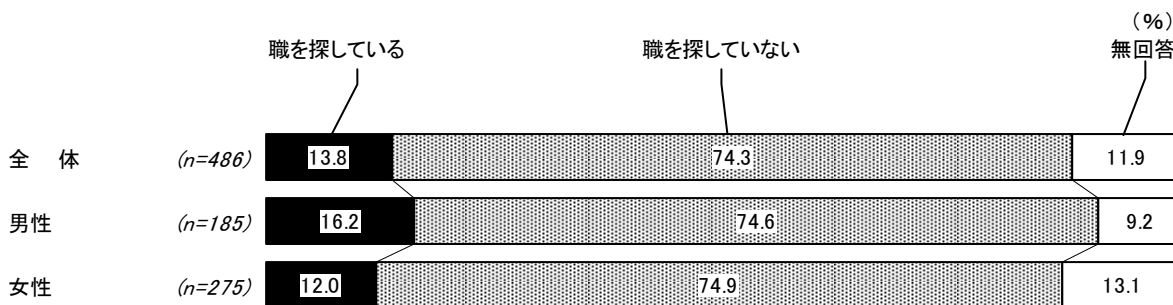
3) 求職状況(無職者)

【問 10 (1)職業で、「7 無職(退職者も含む)」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問 11 へお進みください。】
 問 10-2 あなたは現在、職を探していますか。(○は1つ)

現在無職の回答者(486 人)に求職状況を聞いたところ、「職を探している」という回答は 13.8%にとどまり、多数は「職を探していない」(74.3%)と回答している。(図表 2-7-6)

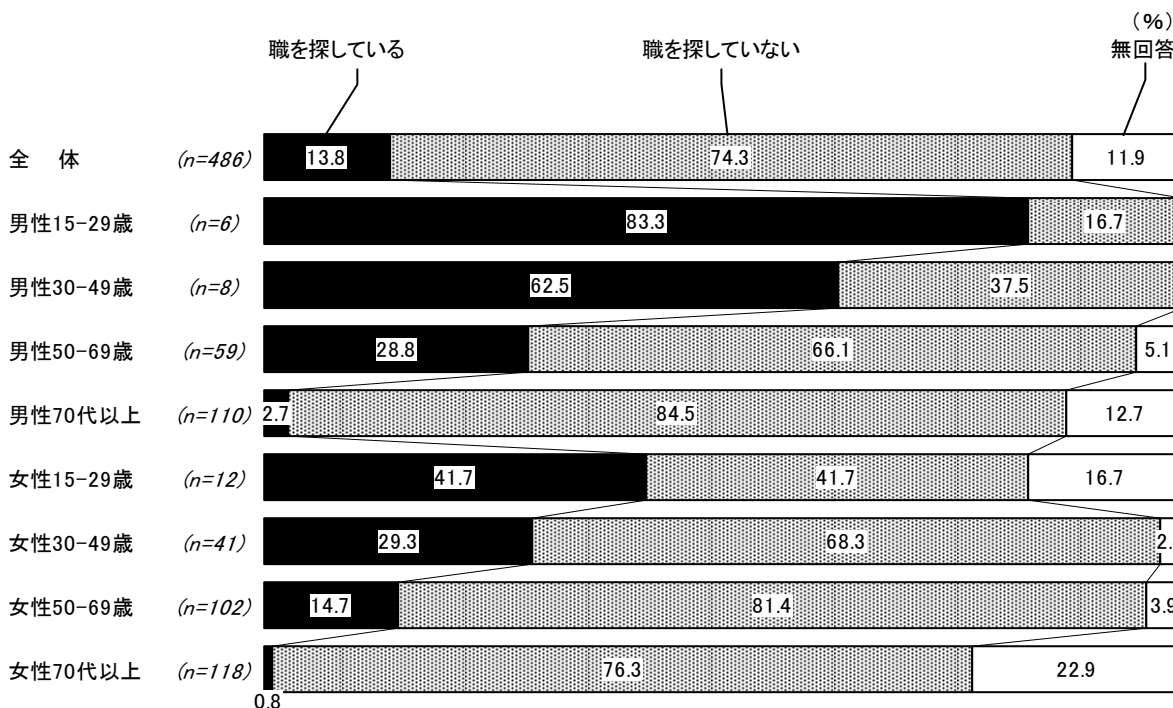
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-7-6)

図表 2-7-6 求職状況(男女別)



性・年代別に見ると、男性の 70 代以上、女性の 50 代以上では 8 割前後が「職を探していない」と回答している。(図表 2-7-7)

図表 2-7-7 求職状況(性・年代別)

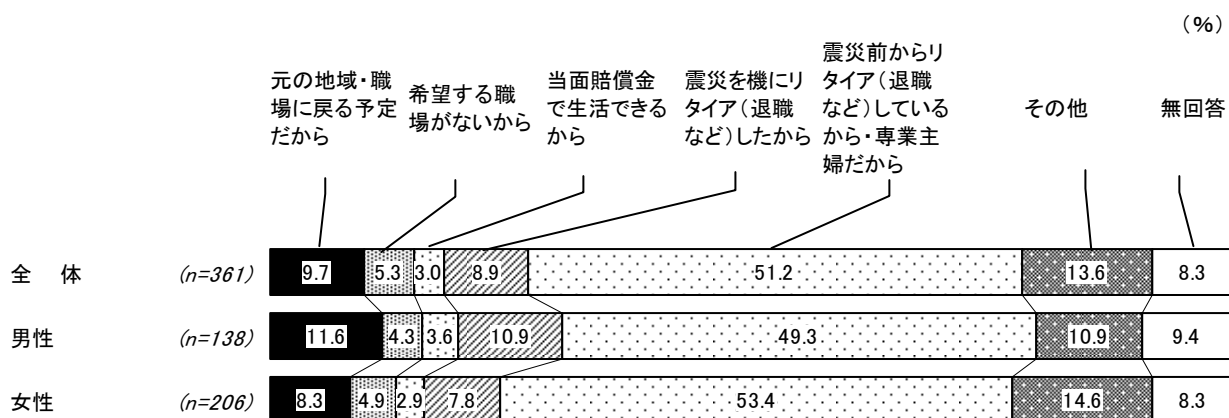


【問 10-2 で「2 職を探していない」と回答した方にうかがいます。
 問 10-3 現在、職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。(〇は1つ)

職を探していない回答者(361人)の理由としては、「震災前からリタイア(退職など)しているから・専業主婦だから」が51.2%で過半数を占め、以下「元の地域・職場に戻る予定だから」(9.7%)、「震災を機にリタイア(退職など)したから」(8.9%)、「希望する職場がないから」(5.3%)、「当面賠償金で生活できるから」(3.0%)の順となっている。(図表2-7-8)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表2-7-8)

図表 2-7-8 職を探していない理由(男女別)



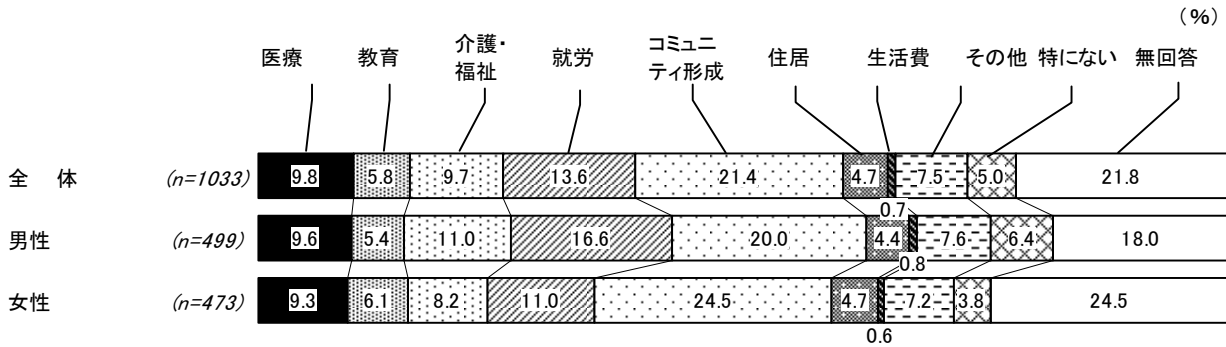
(8) 避難生活の中で困っていること

問 11 現在の避難生活においてもっとも困っていること、改善を求めている分野を1つ教えてください。(〇は1つ)

現在の避難生活で困っていること、改善を求めていることとしては、「コミュニティ形成」という回答が 21.4%で最も多く、次いで「就労」(13.6%)、「医療」(9.8%)、「介護・福祉」(9.7%)の順となっている。(図表 2-8-1)

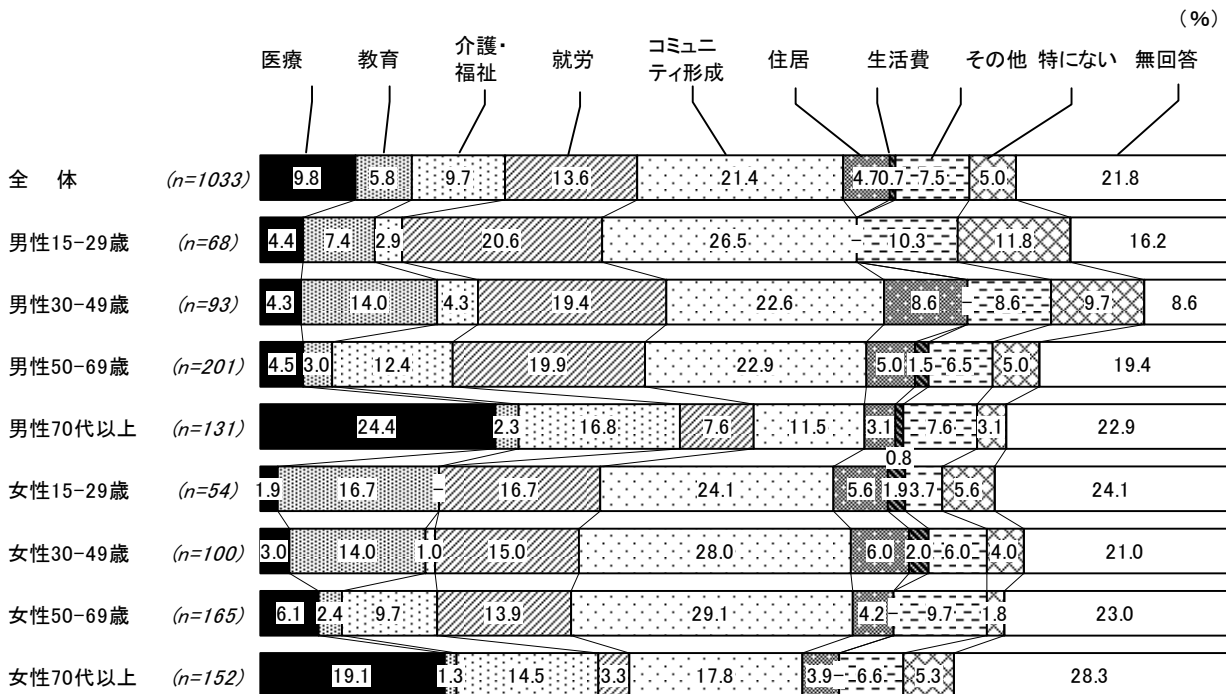
男女別に見ると、「就労」(男性 16.6%、女性 11.0%)は女性より男性に多く、「コミュニティ形成」(同 20.0%、24.5%)は男性より女性にやや多くなっている。(図表 2-8-1)

図表 2-8-1 避難生活の中で困っていること(男女別)



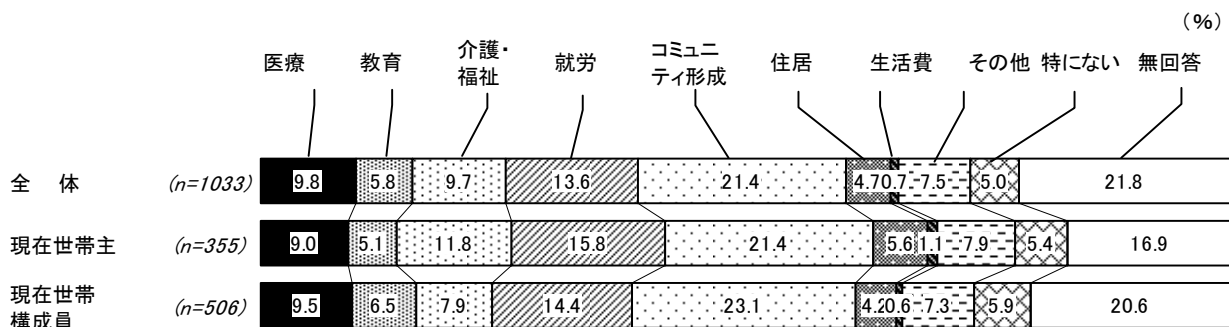
性・年代別に見ると、「コミュニティ形成」は男性の 15～29 歳と女性の 30～69 歳の年代で要望がやや強くなっている。また、男女とも 70 代以上になると「医療」への要望が、他の性・年代に比べて強くなっている。(図表 2-8-2)

図表 2-8-2 避難生活の中で困っていること(性・年代別)



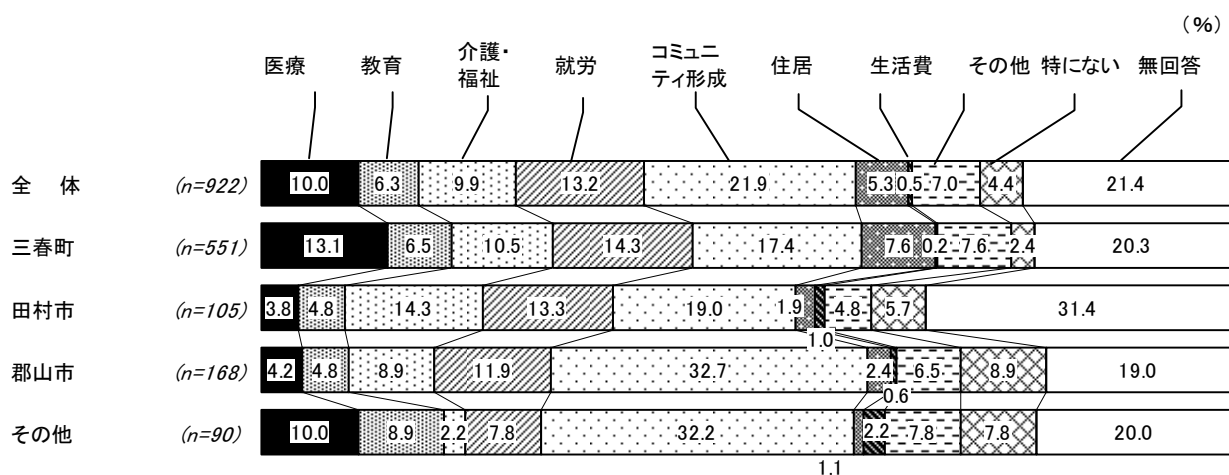
現在の世帯での立場別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-8-3)

図表 2-8-3 避難生活の中で困っていること(現在の世帯での立場別)



現在の福島県内避難先別に見ると、「コミュニティ形成」は、郡山市と三春町・田村市・郡山市以外の福島県内避難者で、ほぼ 3 人に 1 人が要望している。(図表 2-8-4)

図表 2-8-4 避難生活の中で困っていること(現在の福島県内避難先別)



(9) 医療サービスについて困っていること

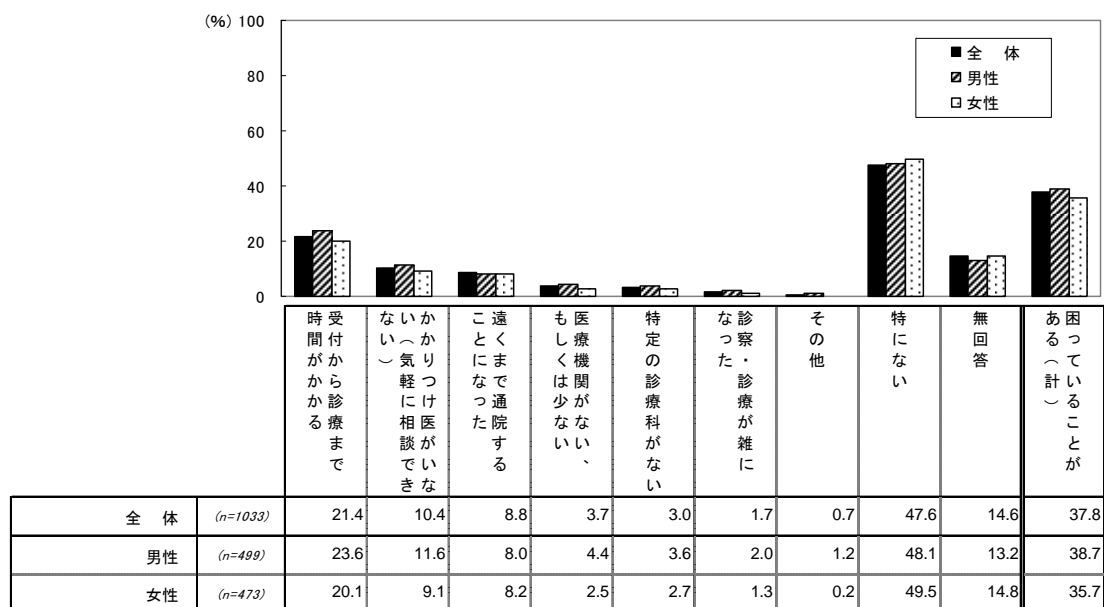
問 12 医療サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

医療サービスについて困っていることを複数回答で聞いたところ、「受付から診療まで時間がかかる」が 21.4%で最も多くあげられ、以下「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)」(10.4%)、「遠くまで通院することになった」(8.8%)などの順にあげられている。(図表 2-9-1)

「特にない」という回答者も、半数近く(47.6%)いる。(図表 2-9-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-9-1)

図表 2-9-1 医療サービスについて困っていること(男女別)



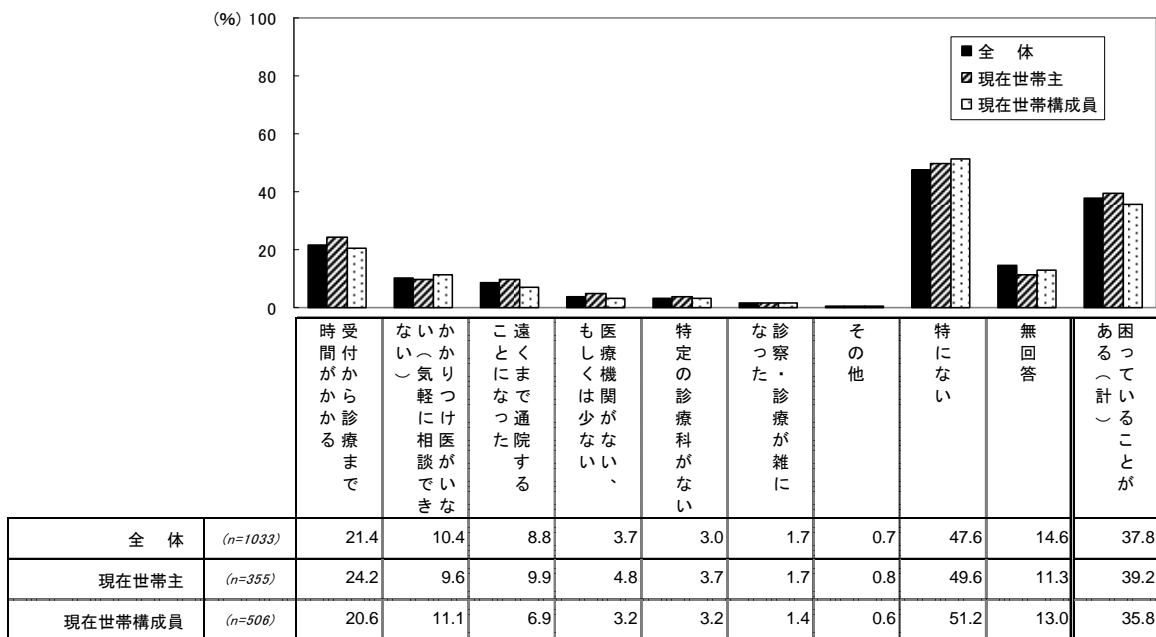
性・年代別に見ると、男性の 70 代以上で、「受付から診療まで時間がかかる」(30.5%)、「遠くまで通院することになった」(17.6%)、「医療機関がない、もしくは少ない」(9.2%)など、医療サービスについての不満が多くあげられている。一方、男女とも若年齢層ほど、「特にない」という回答者が多くなり、特に女性の 15~29 歳では 66.7%である。(図表 2-9-2)

図表 2-9-2 医療サービスについて困っていること(性・年代別)

		受付から診療まで時間がかかる	かかりつけ医がない(気軽に相談できない)	遠くまで通院することになった	医療機関がない、もしくは少ない	特定の診療科がない	診察・診療が雑になった	その他	特にない	無回答	困っていることがある(計)
全体	(n=1033)	21.4	10.4	8.8	3.7	3.0	1.7	0.7	47.6	14.6	37.8
男性 15-29 歳	(n=68)	11.8	17.6	1.5	5.9	2.9	1.5	1.5	57.4	10.3	32.4
男性 30-49 歳	(n=93)	23.7	12.9	4.3	3.2	3.2	3.2	1.1	54.8	8.6	36.6
男性 50-69 歳	(n=201)	22.4	9.0	5.5	1.5	3.0	1.5	1.5	52.2	13.9	33.8
男性 70 代以上	(n=131)	30.5	12.2	17.6	9.2	5.3	2.3	0.8	33.6	16.8	49.6
女性 15-29 歳	(n=54)	11.1	3.7	7.4	1.9	3.7	1.9	-	66.7	9.3	24.1
女性 30-49 歳	(n=100)	21.0	13.0	5.0	2.0	4.0	2.0	-	56.0	7.0	37.0
女性 50-69 歳	(n=165)	20.0	8.5	7.3	1.2	1.8	0.6	-	47.3	20.0	32.7
女性 70 代以上	(n=152)	23.0	9.2	11.8	3.9	2.6	1.3	0.7	42.1	15.8	42.1

現在の世帯での立場別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-9-3)

図表 2-9-3 医療サービスについて困っていること(現在の世帯での立場別)



現在の福島県内避難先別に見ると、三春町居住者で「受付から診療まで時間がかかる」(27.2%)という不満が、他の避難先より多くあげられている。(図表 2-9-4)

図表 2-9-4 医療サービスについて困っていること(現在の福島県内避難先別)

		受付から診療まで時間がかかる	かかりつけ医がいない(気軽に相談できない)	遠くまで通院することになった	医療機関がない、もしくは少ない	特定の診療科がない	診察・診療が雑になった	その他	特にない	無回答	困っていることがある(計)
全体	(n=922)	22.8	9.3	8.2	3.4	2.9	1.6	0.5	48.0	14.5	37.4
三春町	(n=551)	27.2	9.1	9.4	4.2	2.7	1.8	0.4	43.7	14.7	41.6
田村市	(n=105)	21.9	10.5	6.7	1.9	3.8	1.0	1.0	44.8	16.2	39.0
郡山市	(n=168)	17.9	8.9	6.0	2.4	1.8	1.8	1.2	56.5	14.9	28.6
その他	(n=90)	6.7	11.1	7.8	2.2	5.6	1.1	-	58.9	12.2	28.9

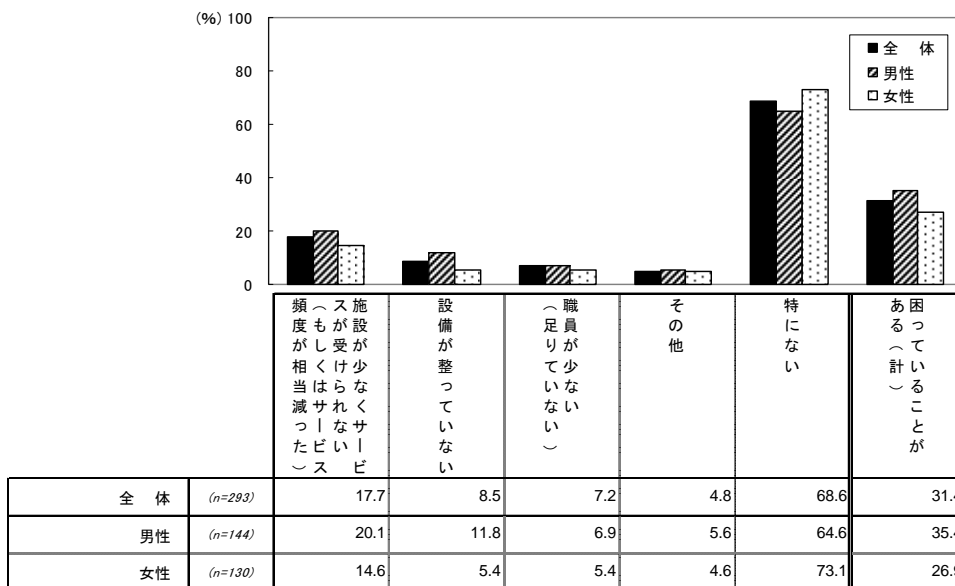
(10) 介護・福祉サービスについて困っていること

【ご自身もしくはご家族が、介護・福祉サービスを受けている方にかがいます。それ以外の方は問 14 へお進みください。】
 問 13 介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

回答者自身もしくは家族が介護・福祉サービスを受けている人(293 人)が、介護・福祉サービスで困っていることとしては、「施設が少なくサービスが受けられない(もしくはサービス頻度が相当減った)」が 17.7%、「設備が整っていない」が 8.5%、「職員が少ない(足りていない)」が 7.2%の順にあげられているが、7 割近くは「特にない」(68.6%)と回答している。(図表 2-10-1)

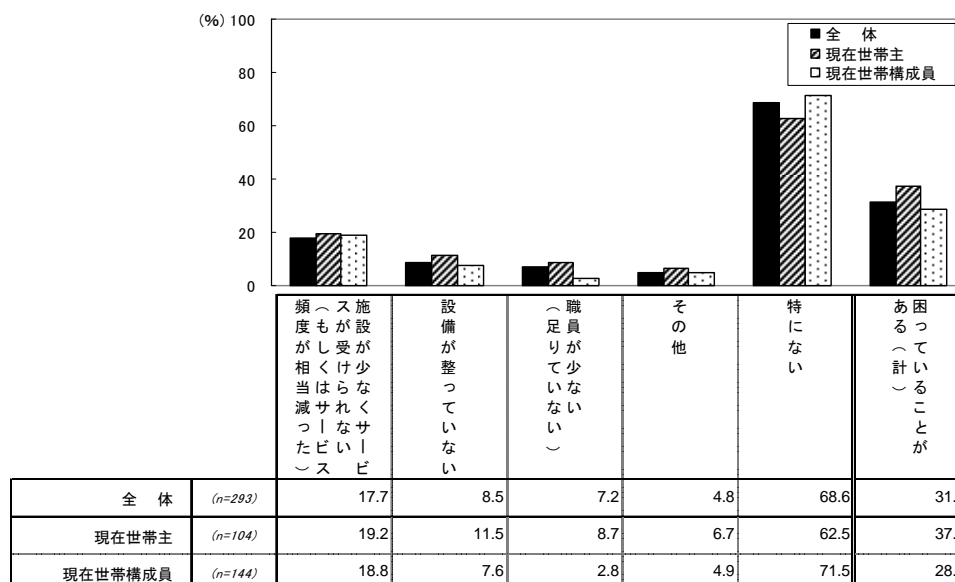
男女別に見ると、「設備が整っていない」(男性 20.1%、女性 14.6%)と「職員が少ない(足りていない)」(同 11.8%、5.4%)という不満は、女性より男性にやや多くあげられている。(図表 2-10-1)

図表 2-10-1 介護・福祉サービスについて困っていること(男女別)



現在の世帯での立場別に見ると、個々の回答に大きな差はみられないが、「特にない」という回答者は、世帯主(62.5%)より世帯主以外の世帯構成員(71.5%)に多くなっており、世帯主の方が不満が強くなっている。(図表 2-10-2)

図表 2-10-2 介護・福祉サービスについて困っていること(現在の世帯での立場別)



(11) 教育(学校)について困っていること

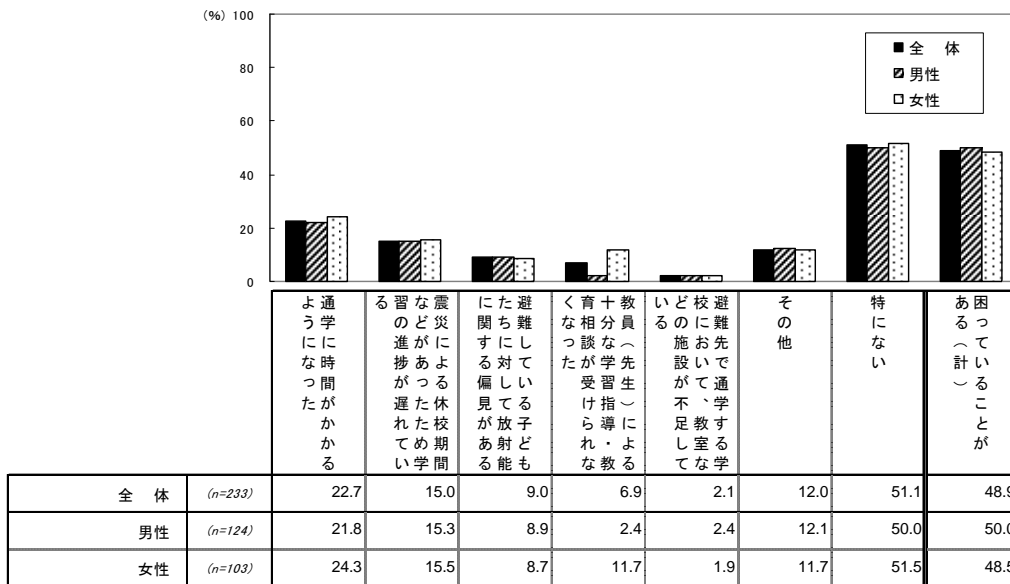
【ご自身が高校生、大学生、専門学校生などで教育を受けている方、もしくはご家族に小学生や中学生、高校生がいる方にうかがいます。それ以外の方は問15へお進みください。】
 問14 教育(学校)について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべてお答えください。(〇はいくつでも)

自分自身が学校教育を受けているか、もしくは家族に小中学生や高校生がいる人(233人)に、教育(学校)について困っていることを聞いたところ、「通学に時間がかかるようになった」が22.7%で最も多くあげられ、「震災による休校期間などがあったため学習の進捗が遅れている」(15.0%)、「避難している子どもたちに対して放射能に関する偏見がある」(9.0%)の順にあげられている。

「特にない」という回答者は、51.1%である。(図表2-11-1)

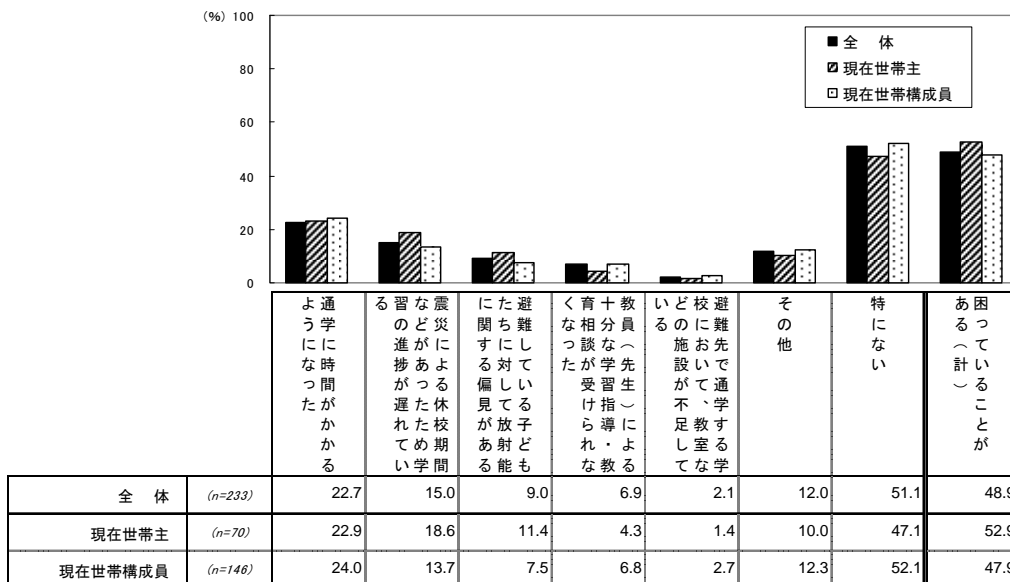
男女別に見ると、男性より女性に「教員(先生)による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった」(男性2.4%、女性11.7%)が多くあげられている。(図表2-11-1)

図表 2-11-1 教育(学校)について困っていること(男女別)



現在の世帯での立場別に見ると、「震災による休校期間などがあったため学習の進捗が遅れている」は、世帯主(18.6%)の方が世帯主以外の世帯構成員(13.7%)よりやや多くあげている。(図表2-11-2)

図表 2-11-2 教育(学校)について困っていること(現在の世帯での立場別)



(12) 就労について困っていること

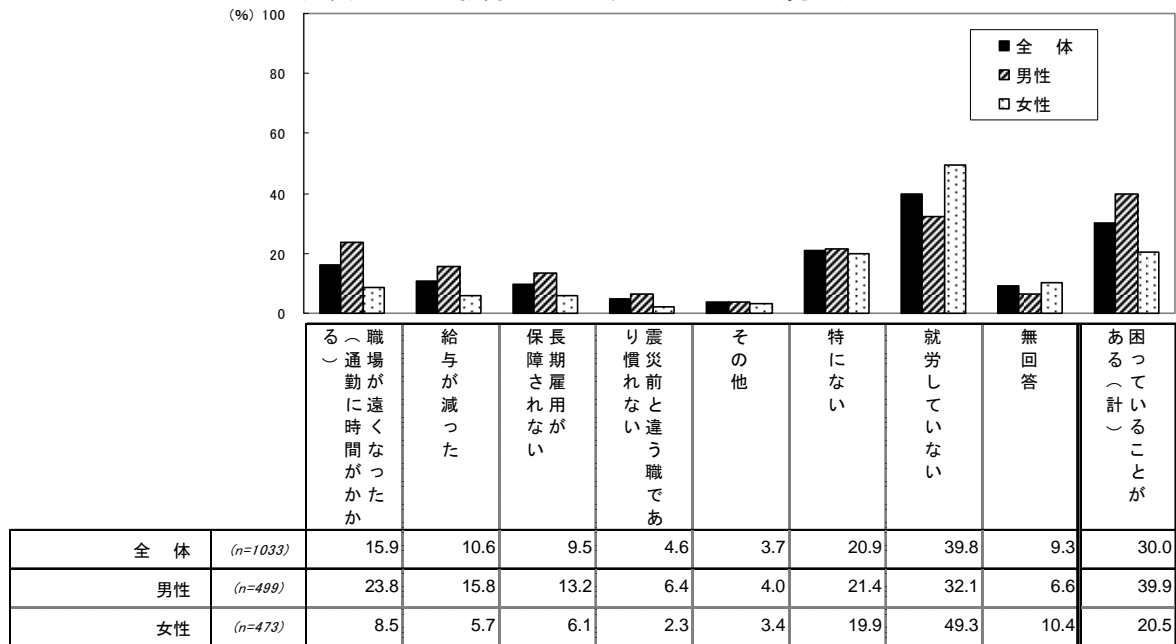
問 15 就労について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

回答者全員に、就労について困っていることを聞いたところ、「職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)」が 15.9% で最も多くあげられ、以下「給与が減った」(10.6%)、「長期雇用が保障されない」(9.5%)、「震災前と違う職であり慣れない」(4.6%)の順となっている。

就労に関して困っていることが「特にない」という回答者は 20.9%、「就労していない」は 39.8%である。(図表 2-12-1)

男女別に見ると、「職場が遠くなった」「給与が減った」「長期雇用が保障されない」などは、いずれも女性より男性に多くあげられている。女性では、ほぼ半数が「就労していない」(49.3%)と回答している。(図表 2-12-1)

図表 2-12-1 就労について困っていること(男女別)



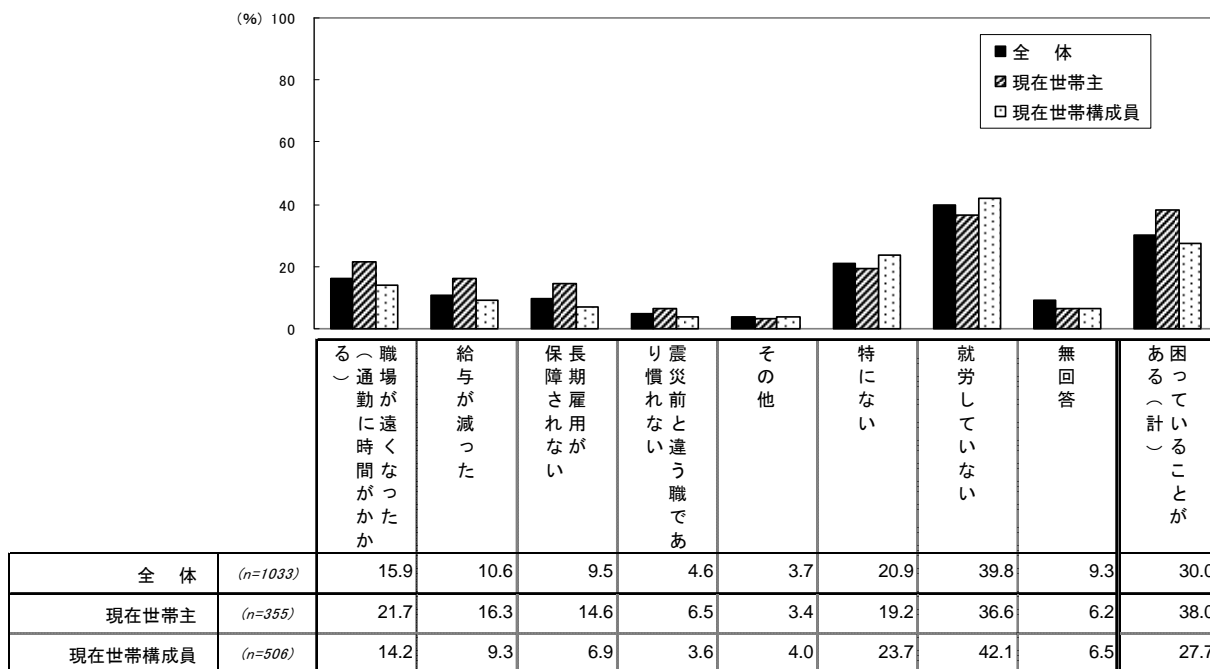
性・年代別に見ると、男性の 15～69 歳では「職場が遠くなった」が 3 割以上、「給与が減った」が 2 割前後あげられている。また、50～69 歳では、「長期雇用が保障されない」(22.9%)ことへの不満も、他の性・年代層より強い。(図表 2-12-2)

図表 2-12-2 就労について困っていること(性・年代別)

		職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)	給与が減った	長期雇用が保障されない	震災前と違う職であり慣れない	その他	特にない	就労していない	無回答	困っていること(計)
全体	(n=1033)	15.9	10.6	9.5	4.6	3.7	20.9	39.8	9.3	30.0
男性15-29歳	(n=68)	32.4	19.1	4.4	5.9	4.4	26.5	22.1	7.4	
男性30-49歳	(n=93)	31.2	19.4	14.0	8.6	7.5	33.3	4.3	7.5	
男性50-69歳	(n=201)	32.3	21.9	22.9	9.5	4.0	18.9	22.9	5.0	
男性70代以上	(n=131)	1.5	3.1	2.3	0.8	1.5	12.2		8.4	6.9
女性15-29歳	(n=54)	5.6	13.0	3.7	3.7	3.7	31.5	37.0	11.1	20.4
女性30-49歳	(n=100)	13.0	9.0	10.0	5.0	7.0	26.0	36.0	4.0	34.0
女性50-69歳	(n=165)	13.9	5.5	9.1	2.4	3.0	16.4	47.3	8.5	27.9
女性70代以上	(n=152)	0.7	1.3	1.3	-	1.3	15.8		16.4	3.9

現在の世帯での立場別に見ると、世帯主の方が、就労に関する不満が大きい。(図表 2-12-3)

図表 2-12-3 就労について困っていること(現在の世帯での立場別)



現在の職業別に見ると、自営業以外の被雇用者で「職場が遠くなった」が多くあげられている。特に、パート・アルバイトで働く回答者は、全般的に就労に関する不満が強くなっている。(図表 2-12-4)

図表 2-12-4 就労について困っていること(現在の職業別)

		職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)	給与が減った	長期雇用が保障されない	震災前と違う職であり慣れない	その他	特にない	就労していない	無回答	困っていることがある(計)
全体	(n=1033)	15.9	10.6	9.5	4.6	3.7	20.9	39.8	9.3	30.0
自営業	(n=80)	16.3	13.8	11.3	3.8	3.8	27.5	-	35.0	
会社員(事務)	(n=45)	33.3	15.6	6.7	4.4	11.1	42.2	-	6.7	
会社員(労務)	(n=183)	43.7	25.7	13.1	7.7	4.4	27.9	-	6.6	
公務員	(n=35)	25.7	11.4	5.7	8.6	20.0	40.0	-	2.9	
パート・アルバイト	(n=99)	32.3	33.3	43.4	20.2	5.1	19.2	-	7.1	
学生	(n=44)	6.8	-	-	-	-	31.8	50.0	11.4	6.8
無職(退職者含む)	(n=486)	1.6	0.8	2.5	0.8	2.1	14.4	-	-	6.4
その他	(n=11)	18.2	18.2	27.3	18.2	-	18.2	-	18.2	
有職(計)	(n=453)	33.3	23.0	18.5	9.7	6.2	28.0	-	11.7	
無職(計)	(n=530)	2.1	0.8	2.3	0.8	1.9	15.8	-	0.9	6.4

(13) 地域のコミュニティについて困っていること

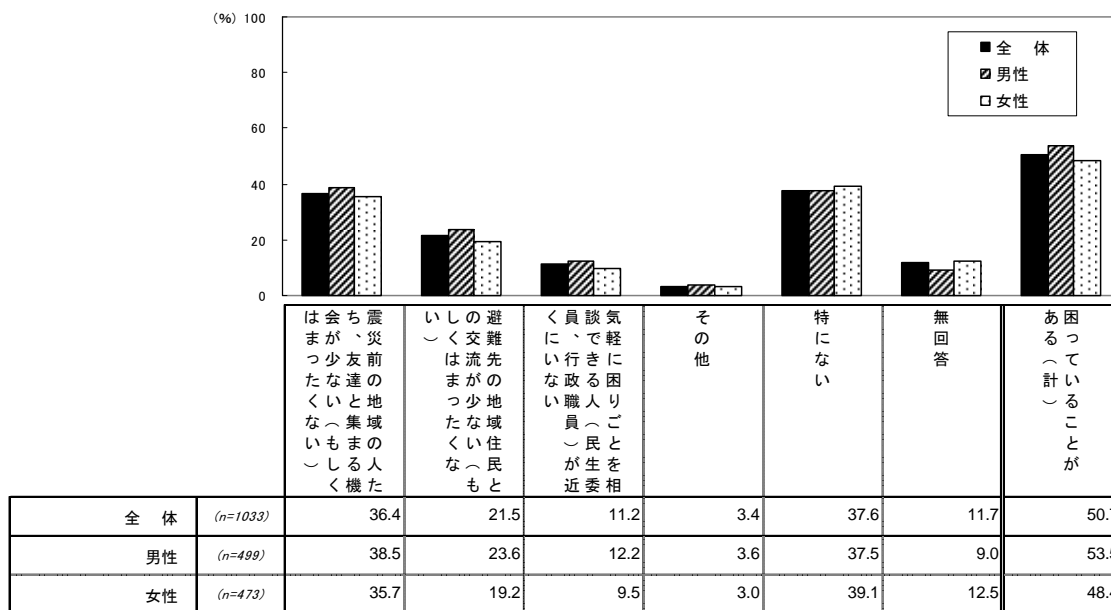
問 16 地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

地域のコミュニティについて困っていることとしては、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」が 36.4%、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」が 21.5%、「気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない」(11.2%)の順にあげられている。

「特にない」という回答者は 37.6%である。(図表 2-13-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-13-1)

図表 2-13-1 地域のコミュニティについて困っていること(男女別)



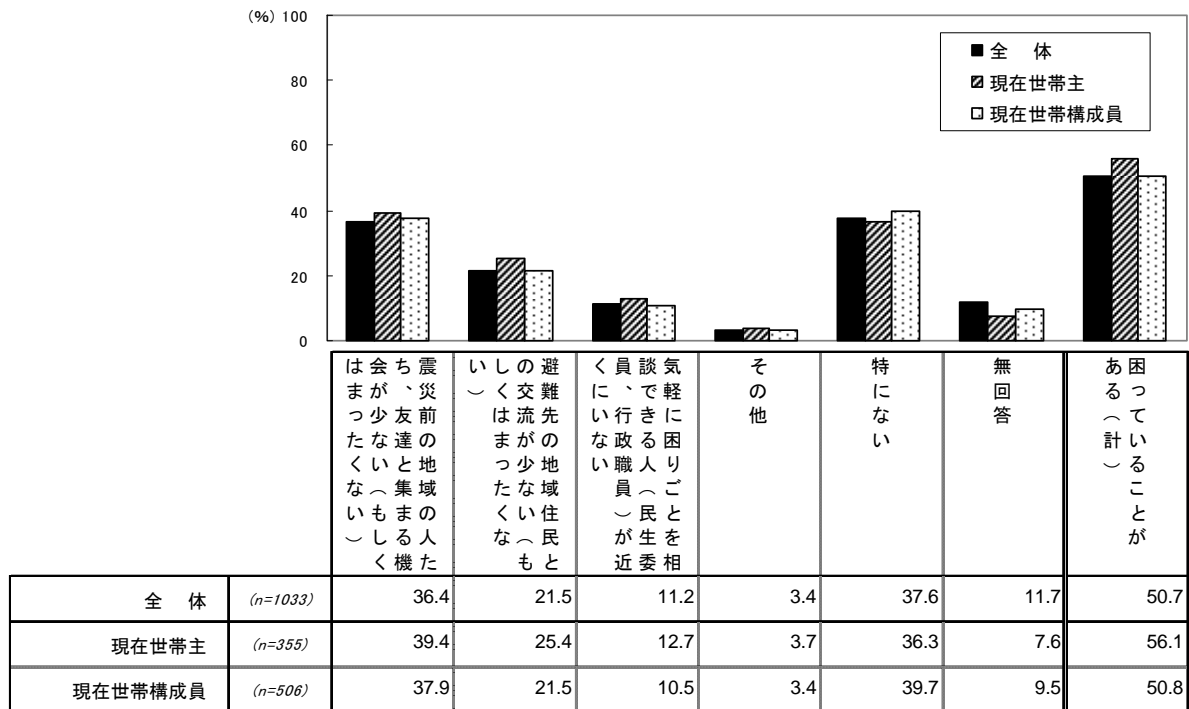
性・年代別に見ると、男性の15～49歳の年齢層では、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない」が、他の性・年代よりも多くあげられている。また、「避難先の地域住民との交流が少ない」は、男性の50～69歳と女性の30～49歳で、不満が強くなっている。(図表 2-13-2)

図表 2-13-2 地域のコミュニティについて困っていること(性・年代別)

	震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)	避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)	気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない	その他	特にない	無回答	困っていることがある(計)
全体 (n=1033)	36.4	21.5	11.2	3.4	37.6	11.7	50.7
男性15-29歳 (n=68)	44.1	14.7	5.9	-	45.6	5.9	48.5
男性30-49歳 (n=93)	43.0	23.7	11.8	7.5	38.7	3.2	58.1
男性50-69歳 (n=201)	40.8	27.4	11.9	3.5	35.3	8.0	56.7
男性70代以上 (n=131)	29.0	22.9	15.3	3.1	35.1	16.8	48.1
女性15-29歳 (n=54)	38.9	9.3	7.4	3.7	38.9	11.1	50.0
女性30-49歳 (n=100)	37.0	29.0	10.0	3.0	43.0	4.0	53.0
女性50-69歳 (n=165)	37.6	20.0	9.7	4.2	34.5	15.8	49.7
女性70代以上 (n=152)	31.6	15.8	9.9	1.3	41.4	15.1	43.4

現在の世帯での立場別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-13-3)

図表 2-13-3 地域のコミュニティについて困っていること(現在の世帯での立場別)



現在の福島県内避難先別に見ると、郡山市居住者に「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない」(47.0%)と「避難先の地域住民との交流が少ない」(31.5%)が多くあげられている。また、三春町・田村市・郡山市以外の県内避難者でも、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない」が51.1%となっている。(図表 2-13-4)

図表 2-13-4 地域のコミュニティについて困っていること(現在の福島県内避難先別)

		震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)	避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)	気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない	その他	特にない	無回答	困っていることがある(計)
全 体	(n=922)	35.7	20.9	11.0	3.7	38.4	11.4	50.2
三春町	(n=551)	27.6	16.3	9.1	4.9	42.8	14.2	43.0
田村市	(n=105)	42.9	22.9	14.3	2.9	31.4	8.6	60.0
郡山市	(n=188)	47.0	31.5	14.3	1.2	32.7	6.0	61.3
その他	(n=90)	51.1	24.4	11.1	2.2	32.2	8.9	58.9

3 将来についての想い

(1) 希望する避難生活のかたち

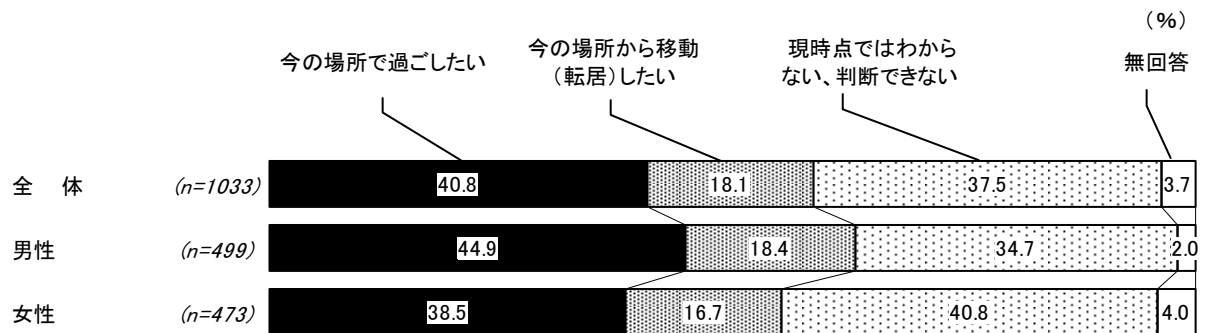
1) 希望する避難居住地と住居形態

問 17 震災前にお住まいだった地区によっては、避難が続くことが考えられます。
 あなたは、これから避難解除までの間の避難生活をどこで過ごしたいですか。また、そこではどのような住居形態を望みますか。
 (1)これからの避難期間中の居住地(○は1つ)
 (2)希望する住居形態(○は1つ)

今後避難解除までの避難生活を過ごしたい場所としては、「今の場所で過ごしたい」という回答者が 40.8%、「今の場所から移動(転居)したい」が 18.1%であるが、「現時点ではわからない、判断できない」という回答者も 37.5%となっており、今後の意向が分散している。(図表 3-1-1)

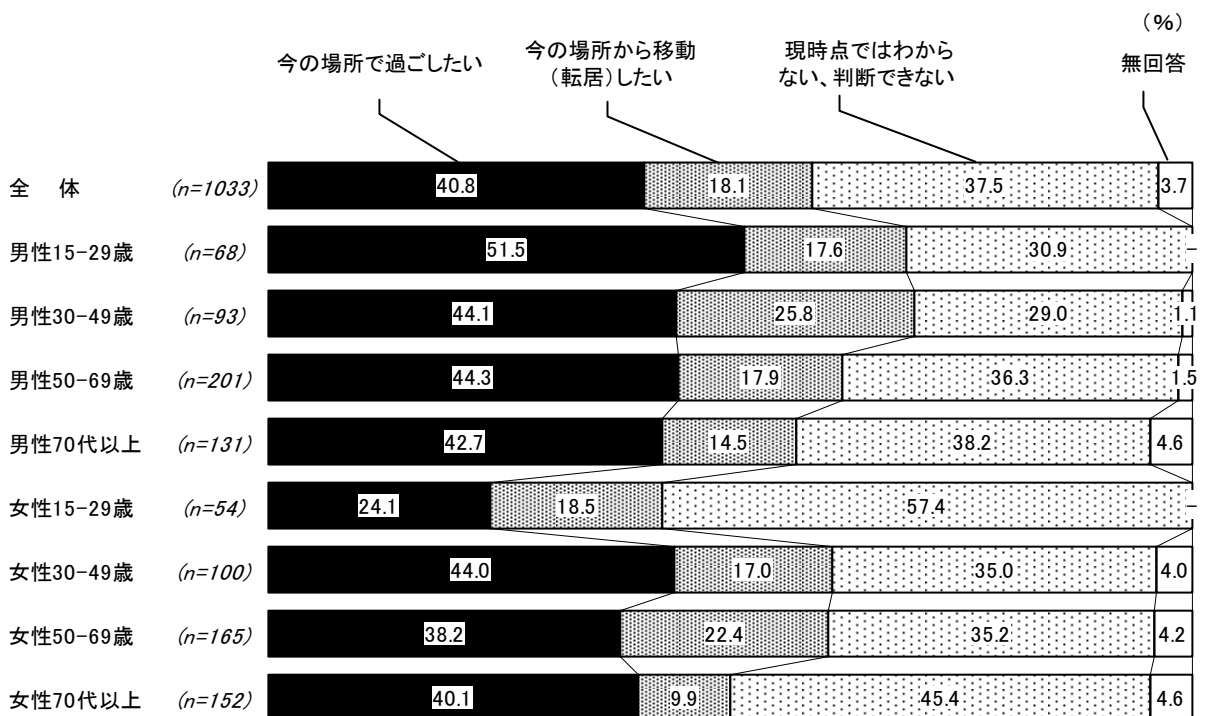
男女別に見ると、「今の場所で過ごしたい」(男性 44.9%、女性 38.5%)という回答者は女性より男性に多く、これに対して「現時点ではわからない、判断できない」(同 34.7%、40.8%)は女性の方が多くなっている。(図表 3-1-1)

図表 3-1-1 希望する避難居住地(男女別)



性・年代別に見ると、15～29歳の若年齢層において、「今の場所で過ごしたい」(男性 51.5%、女性 24.1%)と「現時点ではわからない、判断できない」(同 30.9%、57.4%)の2つの意見で、男女の意向が逆転している。(図表 3-1-2)

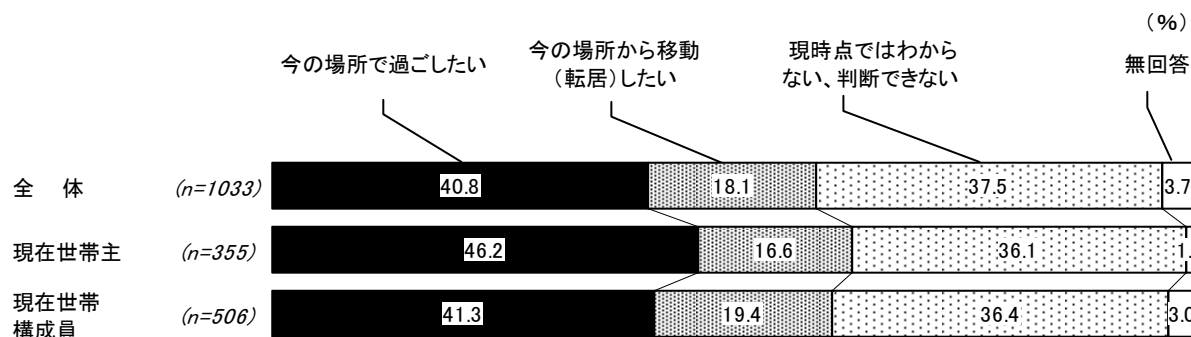
図表 3-1-2 希望する避難居住地(性・年代別)



現在の世帯での立場別に見ると、世帯主の方が「今の場所で過ごしたい」(46.2%)という意向を強く持っている。

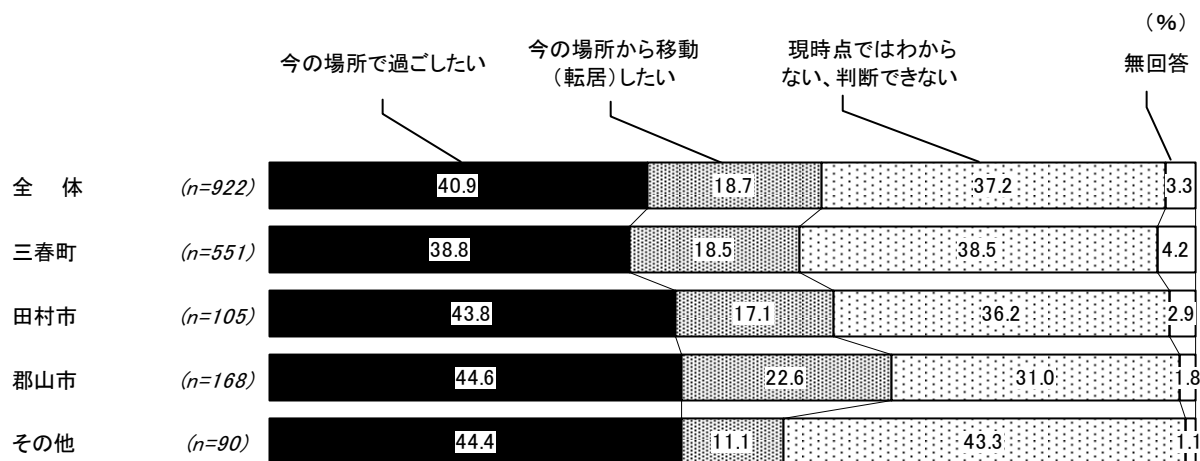
(図表 3-1-3)

図表 3-1-3 希望する避難居住地(現在の世帯での立場別)



現在の福島県内避難先別に見ると、三春町居住者では「今の場所で過ごしたい」(38.8%)と「現時点ではわからない、判断できない」(38.5%)という回答者がほぼ同率であるが、その他の地域では「今の場所で過ごしたい」という意向の方が、やや強くなっている。(図表 3-1-4)

図表 3-1-4 希望する住居形態(現在の福島県内避難先別)



避難解除までの避難生活を過ごす際に希望する住居形態としては、「応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))」を希望する回答者が 26.3%で最も多く、次いで「一戸建て(購入)」(20.0%)、「一戸建て(公営住宅など以外の賃貸住宅)」(11.9%)、「応急仮設住宅(プレハブ型)」(9.7%)などの順となっている。(図表 3-1-5)

男女別に見ると、「応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))」(男性 29.1%、女性 24.1%)に対する希望が、男性より女性に強くなっている。(図表 3-1-5)

図表 3-1-5 希望する住居形態(男女別)

	(%)		
	全 体	男性	女性
n	(1,033)	(499)	(473)
応急仮設住宅(プレハブ型)	9.7	10.0	10.4
応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))	26.3	29.1	24.1
村内の災害公営住宅*	4.0	4.4	3.6
村外の災害公営住宅*	6.8	6.8	7.2
災害公営住宅を除く公営住宅(一般公営住宅、雇用促進住宅など)	1.0	0.6	1.3
給与住宅(社宅、公務員宿舎など)	0.1	0.2	-
一戸建て(購入)	20.0	21.4	18.6
一戸建て(公営住宅など以外の賃貸住宅)	11.9	13.2	10.1
集合住宅(購入)	0.3	-	0.2
集合住宅(公営住宅など以外の賃貸住宅)	1.6	1.2	2.3
家族どなたかの実家	1.9	1.8	2.3
親戚・知人宅	1.4	0.8	1.7
その他	1.3	1.2	1.3
無回答	13.7	9.2	16.9
応急仮設住宅(計)	36.0	39.1	34.5
災害公営住宅(計)	10.7	11.2	10.8
持ち家(計)	20.3	21.4	18.8
持ち家以外(計)	19.2	19.0	19.0

*災害公営住宅…今回の原子力災害による避難地域に指定され、帰宅が困難な方(もしくは住宅を失った方)に対して提供する低廉な家賃で入居できる公営住宅で、将来的には買い取ることも可能

性・年代別に見ると、男女とも30～49歳で「応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))」への入居希望が強い。また、男性の15～29歳の若年層では、「一戸建て(購入)」を29.4%が希望している。(図表3-1-6)

図表 3-1-6 希望する住居形態(性・年代別)

(%)

	全 体	男性15-29歳	男性30-49歳	男性50-69歳	男性70代以上	女性15-29歳	女性30-49歳	女性50-69歳	女性70代以上
n	(1,033)	(68)	(93)	(201)	(131)	(54)	(100)	(165)	(152)
応急仮設住宅(プレハブ型)	9.7	13.2	8.6	9.5	9.9	9.3	8.0	7.9	15.1
応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))	26.3	30.9	34.4	25.9	29.8	27.8	34.0	23.6	16.4
村内の災害公営住宅*	4.0	-	1.1	3.5	9.9	1.9	2.0	2.4	6.6
村外の災害公営住宅*	6.8	1.5	8.6	8.5	6.1	1.9	7.0	10.9	5.3
災害公営住宅を除く公営住宅(一般公営住宅、雇用促進住宅など)	1.0	1.5	-	1.0	-	1.9	-	1.2	1.3
給与住宅(社宅、公務員宿舎など)	0.1	-	1.1	-	-	-	-	-	-
一戸建て(購入)	20.0	29.4	21.5	23.4	14.5	22.2	24.0	19.4	13.2
一戸建て(公営住宅など以外の賃貸住宅)	11.9	10.3	15.1	16.4	9.2	5.6	10.0	14.5	7.2
集合住宅(購入)	0.3	-	-	-	-	-	-	0.6	-
集合住宅(公営住宅など以外の賃貸住宅)	1.6	5.9	1.1	-	0.8	5.6	5.0	0.6	1.3
家族どなたかの実家	1.9	-	2.2	1.0	3.1	3.7	1.0	2.4	2.6
親戚・知人宅	1.4	-	-	1.0	1.5	-	1.0	1.2	3.3
その他	1.3	-	1.1	1.0	2.3	-	-	1.8	2.0
無回答	13.7	7.4	5.4	9.0	13.0	20.4	8.0	13.3	25.7
応急仮設住宅(計)	36.0	44.1	43.0	35.3	39.7	37.0	42.0	31.5	31.6
災害公営住宅(計)	10.7	1.5	9.7	11.9	16.0	3.7	9.0	13.3	11.8
持ち家(計)	20.3	29.4	21.5	23.4	14.5	22.2	24.0	20.0	13.2
持ち家以外(計)	19.2	17.6	20.4	20.4	16.8	16.7	17.0	21.8	17.8

現在の世帯での立場別に見ても、大きな差はみられない。(図表3-1-7)

図表 3-1-7 希望する住居形態(現在の世帯での立場別)

(%)

	全 体	現在世帯主	現在世帯構成員
n	(1,033)	(355)	(506)
応急仮設住宅(プレハブ型)	9.7	10.4	10.7
応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))	26.3	27.0	27.9
村内の災害公営住宅*	4.0	6.2	1.8
村外の災害公営住宅*	6.8	7.9	6.1
災害公営住宅を除く公営住宅(一般公営住宅、雇用促進住宅など)	1.0	0.6	1.0
給与住宅(社宅、公務員宿舎など)	0.1	0.3	-
一戸建て(購入)	20.0	19.4	22.5
一戸建て(公営住宅など以外の賃貸住宅)	11.9	13.2	10.7
集合住宅(購入)	0.3	-	0.2
集合住宅(公営住宅など以外の賃貸住宅)	1.6	0.8	2.8
家族どなたかの実家	1.9	2.0	1.8
親戚・知人宅	1.4	1.7	1.2
その他	1.3	1.4	1.0
無回答	13.7	9.0	12.5
応急仮設住宅(計)	36.0	37.5	38.5
災害公営住宅(計)	10.7	14.1	7.9
持ち家(計)	20.3	19.4	22.7
持ち家以外(計)	19.2	20.0	18.4

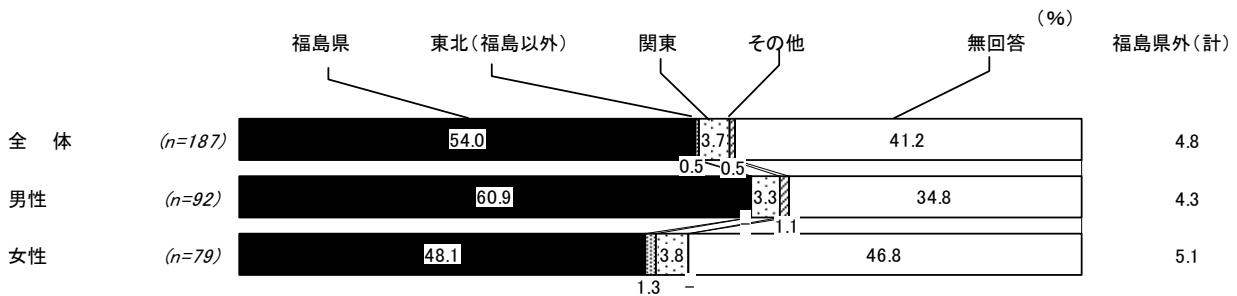
2) 避難期間中の転居予定先

【問 17(1)で「2 今の場所から移動(転居)したい」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は、問 18 へお進みください。】
 問 17-1 これからの避難期間中に、さらに転居をされる予定先があれば、その自治体名を教えてください。(具体的に)

避難解除までの避難生活のために今の場所から移動(転居)したいと考える人(187人)の避難予定先を聞いたところ、「福島県」が54.0%で多数を占めている。一方、具体的な地名を記入していない「無回答」も4割以上あり、この中には、転居先についてはまだ予定がない回答者も含まれるものと推測される。(図表 3-1-8)

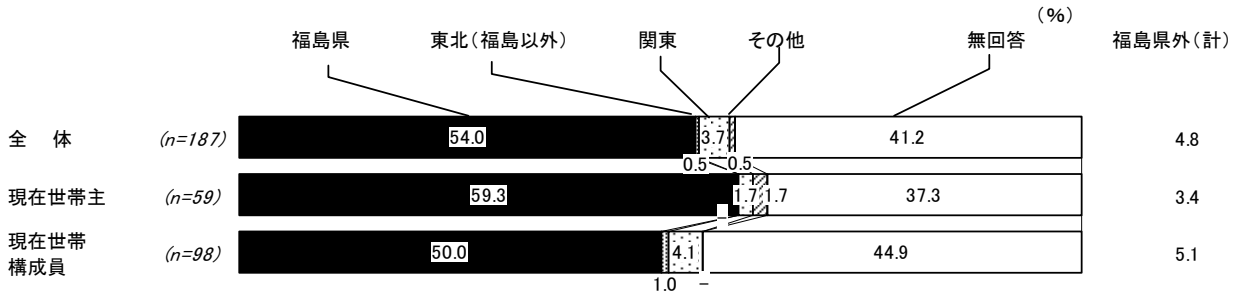
男女別に見ると、具体的に「福島県」(男性60.9%、女性48.1%)という記入した回答者は女性より男性に多く、男性は半数近くが「無回答」となっている。(図表 3-1-8)

図表 3-1-8 避難期間中の転居予定先(都道府県)(男女別)



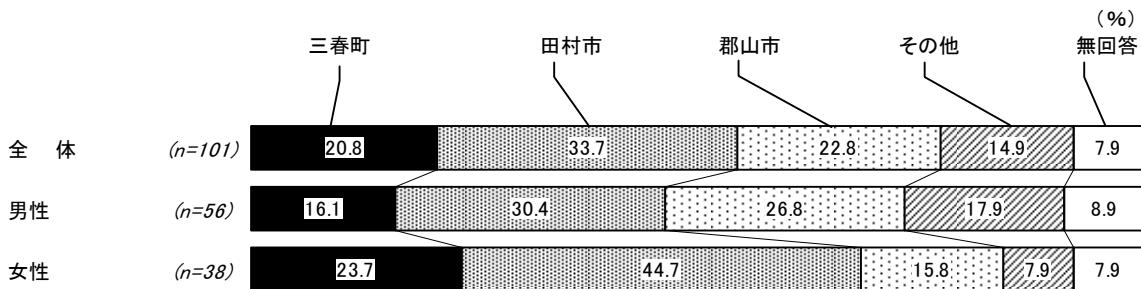
現在の世帯での立場別に見ると、世帯主の6割は「福島県」(59.3%)と回答している。(図表 3-1-9)

図表 3-1-9 避難期間中の転居予定先(都道府県)(現在の世帯での立場別)



福島県内での転居を希望する人(101人)に具体的な自治体名を聞いたところ、「田村市」が33.7%で最も多く、次いで「郡山市」(22.8%)、「三春町」(20.8%)の順となっている。(図表 3-1-10)

図表 3-1-10 避難期間中の転居予定先(福島県内)(男女別)



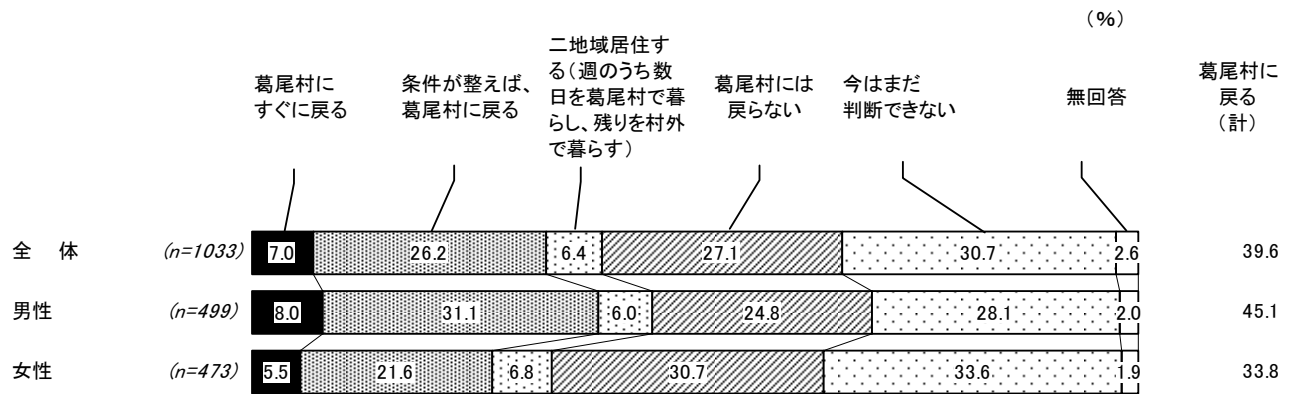
(2) 葛尾村への帰還意向

問 18 将来、葛尾村の避難指示が解除され、戻ることができるようになった場合、あなたは葛尾村に戻りますか。(○は1つ)

将来、避難指示が解除された際の葛尾村への帰還意向を聞いたところ、「葛尾村にすぐ戻る」という回答者は 7.0% で、「条件を整えば、葛尾村に戻る」(26.2%) または「二地域居住する(週のうち数日を葛尾村で暮らし、残りを村外で暮らす)」(6.4%) を合わせると、『葛尾村に戻る』という“帰還意向”のある人はほぼ 4 割(39.6%)である。一方、「葛尾村には戻らない」という回答者は 27.1% で、3 割は「今はまだ判断できない」(30.7%) と回答している。(図表 3-2-1)

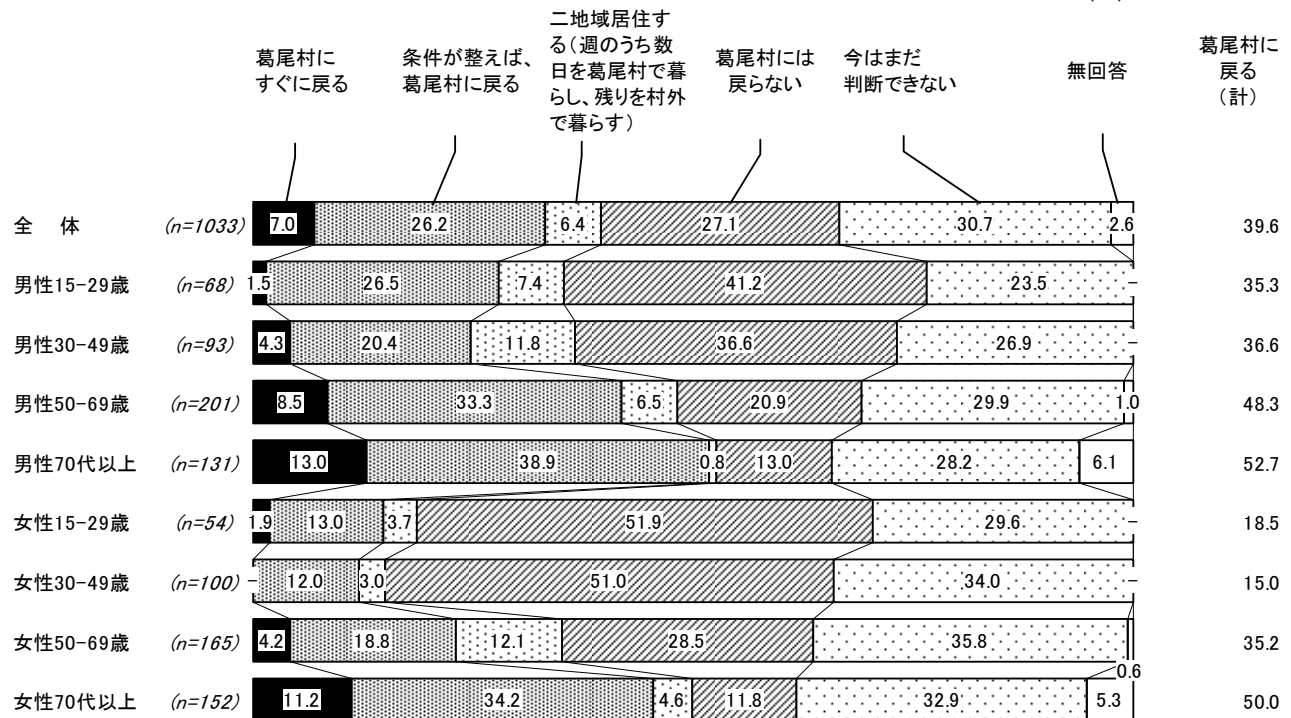
男女別に見ると、「条件を整えば、葛尾村に戻る」(男性 31.1%、女性 21.6%) という回答者は女性より男性に多く、帰還意向が強くなっている。(図表 3-2-1)

図表 3-2-1 葛尾村への帰還意向(男女別)



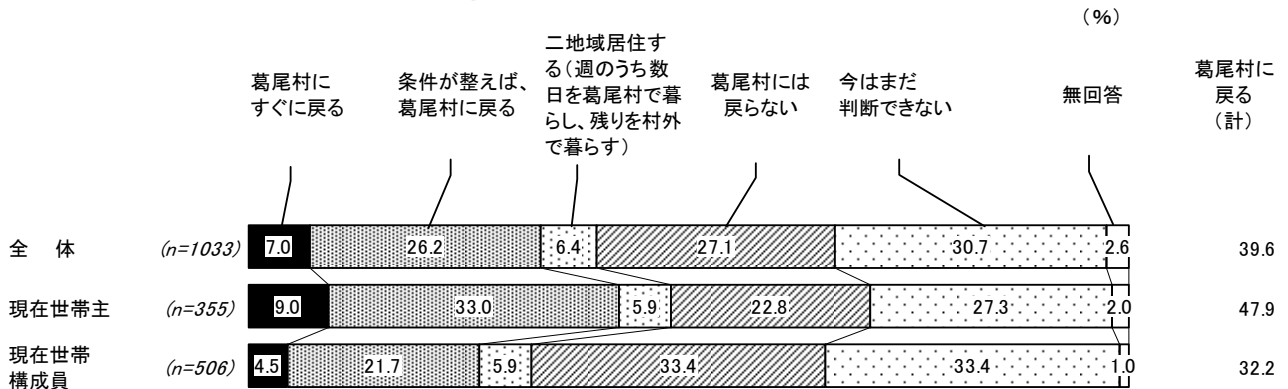
性・年代別に見ると、“帰還意向”は男女とも年齢の高い層ほど強い傾向があり、特に男女とも 70 代以上では半数が、避難指示が解除された場合に『葛尾村に戻る』と考えている。一方、女性の 15~49 歳までは、過半数が「葛尾村には戻らない」と回答している。(図表 3-2-2)

図表 3-2-2 葛尾村への帰還意向(性・年代別)



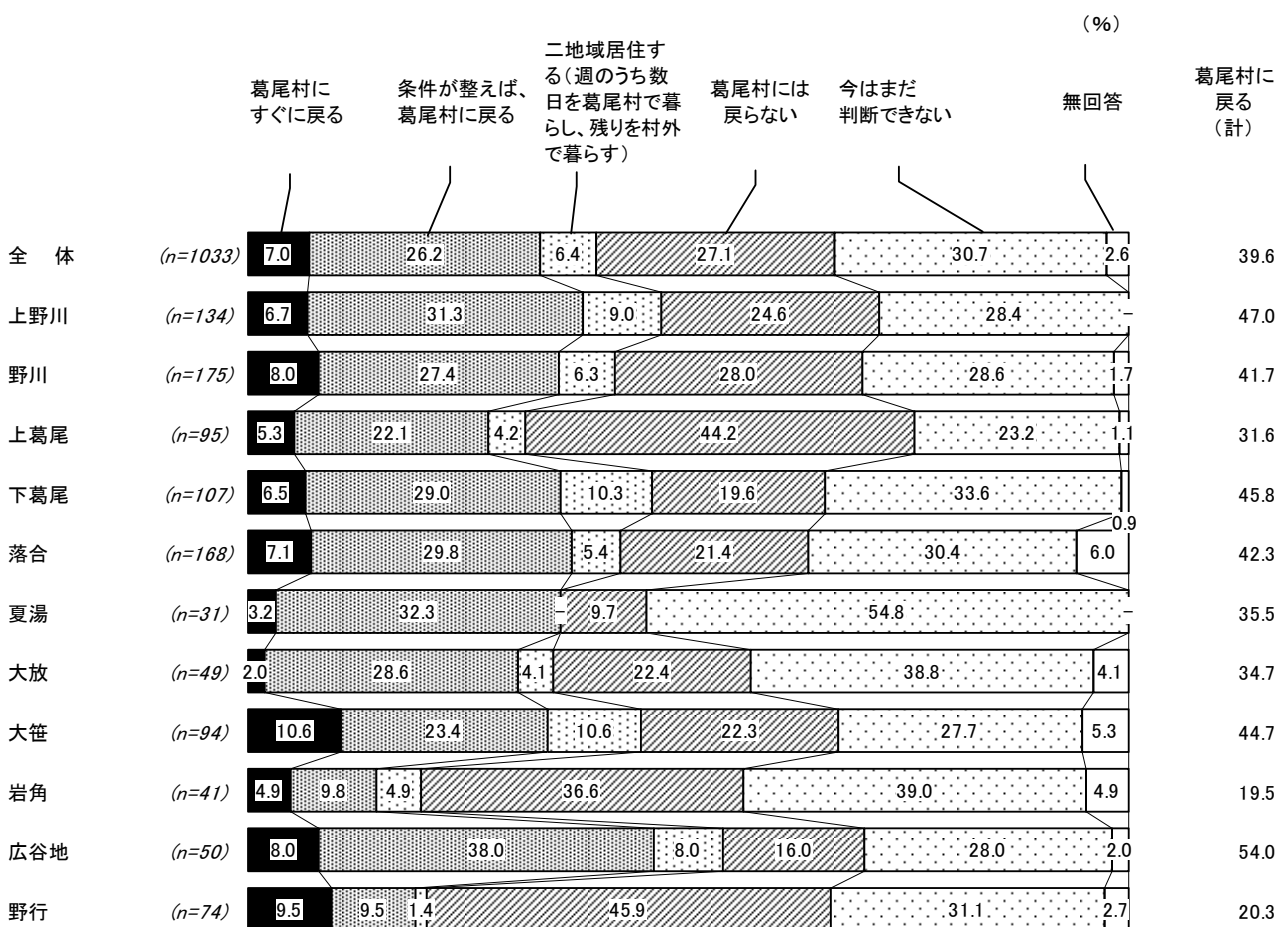
現在の世帯での立場別に見ると、世帯主の方が“帰還意向”が強く、47.9%が『葛尾村に戻る』と回答しているが、世帯主以外の構成員では 32.2%で、「葛尾村には戻らない」と「今はまだ判断できない」がともに 33.4%と、帰還についての意向が分かれている。(図表 3-2-3)

図表 3-2-3 葛尾村への帰還意向(現在の世帯での立場別)



さらに、震災発生当時の居住地区別に見ると、上野川、大笹、広谷地地区の住民には“帰還意向”が5割前後あるが、上葛尾と野行地区の住民は、4割以上が「葛尾村には戻らない」と回答している。(図表 3-2-4)

図表 3-2-4 葛尾村への帰還意向(震災発生当時の居住地区別)



(3) 帰還後の葛尾村に必要なもの

【問 18 で「1 葛尾村にすぐに戻る」と回答した方にかかっています。】

問 19 葛尾村に戻った時に、村内に必要なものは何ですか。最も必要と思うものから、3番目に必要と思うものまでを、それぞれ1つずつ教えてください。(〇は1つずつ)

葛尾村の避難指示が解除された場合、「葛尾村にすぐに戻る」という人(72 人)に、葛尾村に戻った時に、村内に必要なものを聞いた。

最も必要なものとしては、「医療機関」(38.9%)が、2 番目に必要なものとしては「介護・福祉施設」と「商業施設(商店、コンビニエンスストアなど)」(ともに 23.6%)が、3 番目に必要なものとしては「介護・福祉施設」と「雇用・就労の場」(ともに 13.9%)があげられている。(図表 3-3-1)

図表 3-3-1 帰還後の葛尾村に必要なもの

		医療機関	介護・福祉施設	学校	雇用・就労の場	商業施設	地域コミュニティ	その他	無回答
1 番目	(n=72)	38.9	11.1	4.2	5.6	19.4	4.2	-	16.7
2 番目	(n=72)	12.5	23.6	4.2	6.9	23.6	1.4	-	27.8
3 番目	(n=72)	6.9	13.9	6.9	13.9	12.5	9.7	2.8	33.3

(4) 帰還時に行政に要望する支援

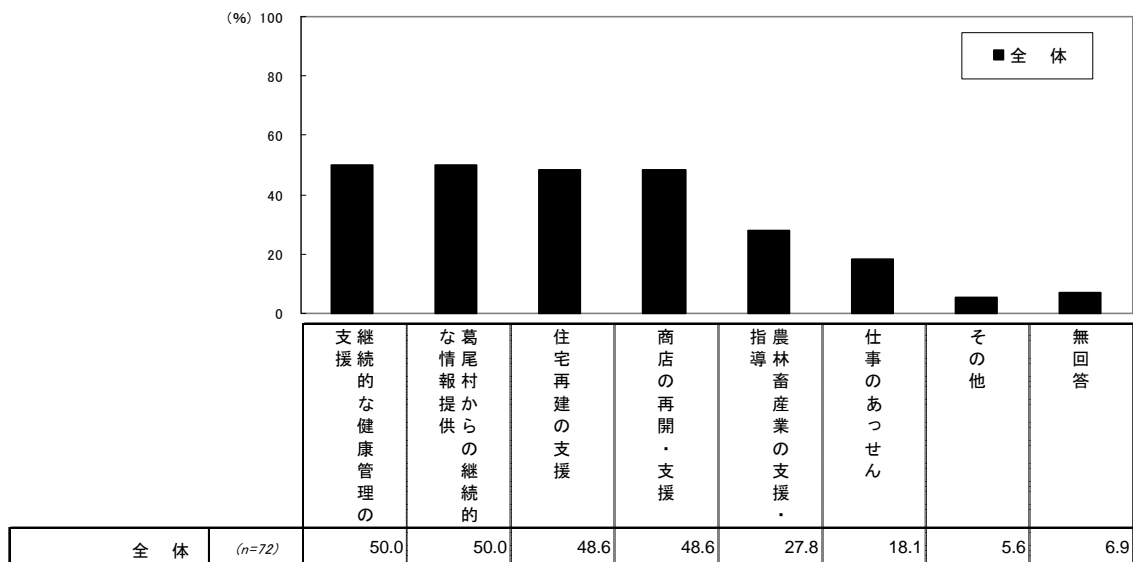
【問 18 で「1 葛尾村にすぐに戻る」と回答した方にかかっています。】

問 20 避難指示が解除され葛尾村に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。あてはまるものをすべて教えてください。

(〇はいくつでも)

葛尾村の避難指示が解除された場合、「葛尾村にすぐに戻る」という人(72 人)が、行政に望む支援としては、「継続的な健康管理の支援」と「葛尾村からの継続的な情報提供」がともに 50.0%、「住宅再建の支援」と「商店の再開・支援」がともに 48.6%などの順となっている。(図表 3-4-1)

図表 3-4-1 帰還時に行政に要望する支援



(5) 帰還のための必要条件

【問 18 で「2 条件が整えば、葛尾村に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 21 避難指示が解除された際のあなたの考えを教えてください。

葛尾村に戻る条件として、最も必要と思うものから、3番目に必要と思うものまでを、それぞれ1つずつ教えてください。

(○は1つずつ)

葛尾村の避難指示が解除された場合、「条件が整えば、葛尾村に戻る」と回答した人(271 人)に、帰還のための条件として必要だと考えるものを聞いた。

最も必要なものとしては「放射線量がある程度低下すること」(35.8%)が、2 番目に必要なものとしては「水道水などの生活用水が安全であることが確認されること」(22.9%)が、3 番目に必要なものとしては「医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること」(14.4%)が、それぞれあげられている。(図表 3-5-1)

図表 3-5-1 帰還のための必要条件

		放射線量がある程度低下すること	原子力発電所の安全性が確保されること	水道水などの生活用水が安全であることが確認されること	葛尾村内もしくは葛尾村から通勤できる範囲での雇用が確保されること	災害公営住宅が整備されること	交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	村内の学校が再開されること	村内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	他の住民がある程度戻ること	その他	無回答
1 番目	(n=271)	35.8	16.6	12.9	3.0	0.7	4.1	5.9	1.8	5.5	5.2	1.8	6.6
2 番目	(n=271)	10.0	11.4	22.9	4.8	2.6	5.9	7.7	2.2	9.6	4.1	1.1	17.7
3 番目	(n=271)	3.7	5.9	10.7	5.2	3.0	5.9	14.4	1.5	11.1	13.7	2.2	22.9

最も必要な条件を男女別に見ると、「放射線量がある程度低下すること」(男性 39.4%、女性 30.4%)は女性より男性に、「水道水などの生活用水が安全であることが確認されること」(同 9.0%、18.6%)は男性より女性に、それぞれ多くあげられている。(図表 3-5-2)

また、2 番目に必要な条件としては、「医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること」(同 3.9%、13.7%)が、男性より女性に多くあげられている。(図表 3-5-3)

さらに 3 番目に必要な条件としては、「他の住民がある程度戻ること」(同 8.4%、22.5%)を女性の 2 割以上があげており、男女差がみられる。(図表 3-5-4)

図表 3-5-2 帰還のための必要条件(最も必要な条件)(男女別)

		放射線量がある程度低下すること	原子力発電所の安全性が確保されること	水道水などの生活用水が安全であることが確認されること	医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	村内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	他の住民がある程度戻ること	交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	葛尾村内もしくは葛尾村から通勤できる範囲での雇用が確保されること	村内の学校が再開されること	災害公営住宅が整備されること	その他	無回答
全体	(n=271)	35.8	16.6	12.9	5.9	5.5	5.2	4.1	3.0	1.8	0.7	1.8	6.6
男性	(n=155)	39.4	17.4	9.0	6.5	3.9	4.5	3.2	5.2	1.3	-	1.9	7.7
女性	(n=102)	30.4	15.7	18.6	5.9	6.9	5.9	5.9	-	2.9	1.0	2.0	4.9

図表 3-5-3 帰還のための必要条件(2 番目に必要な条件)(男女別)

		水道水などの生活用水が安全であることが確認されること	原子力発電所の安全性が確保されること	放射線量がある程度低下すること	村内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	葛尾村内もしくは葛尾村から通勤できる範囲での雇用が確保されること	他の住民がある程度戻ること	災害公営住宅が整備されること	村内の学校が再開されること	その他	無回答
全体	(n=271)	22.9	11.4	10.0	9.6	7.7	5.9	4.8	4.1	2.6	2.2	1.1	17.7
男性	(n=155)	25.2	12.9	9.7	9.7	3.9	8.4	5.8	1.9	1.9	1.3	1.3	18.1
女性	(n=102)	20.6	8.8	11.8	10.8	13.7	2.9	2.9	4.9	2.9	2.9	1.0	16.7

図表 3-5-4 帰還のための必要条件(3 番目に必要な条件)(男女別)

		医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	他の住民がある程度戻ること	村内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	水道水などの生活用水が安全であることが確認されること	原子力発電所の安全性が確保されること	交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	葛尾村内もしくは葛尾村から通勤できる範囲での雇用が確保されること	放射線量がある程度低下すること	災害公営住宅が整備されること	村内の学校が再開されること	その他	無回答
全体	(n=271)	14.4	13.7	11.1	10.7	5.9	5.9	5.2	3.7	3.0	1.5	2.2	22.9
男性	(n=155)	12.3	8.4	11.6	10.3	5.2	7.1	6.5	4.5	3.2	1.9	2.6	26.5
女性	(n=102)	16.7	22.5	10.8	11.8	7.8	4.9	2.9	2.0	1.0	-	2.0	17.6

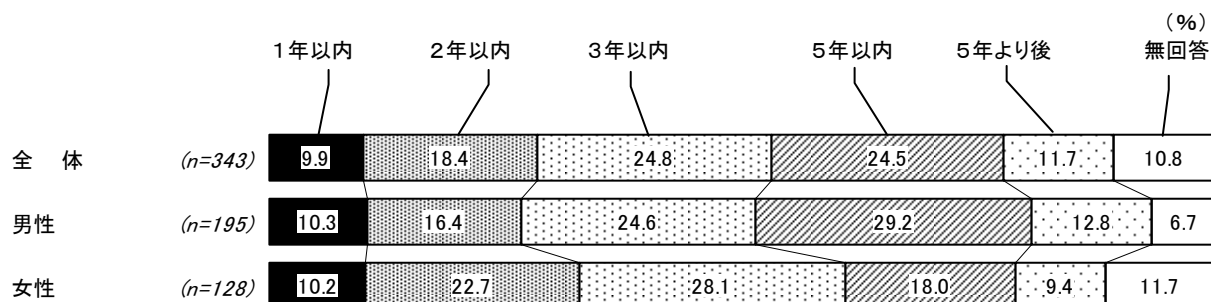
(6) 帰還までの猶予年数

【問 18 で「1 葛尾村にすぐに戻る」「2 条件が整えば、葛尾村に戻る」と回答した方にうかがいます。】
 問 22 葛尾村に戻る場合、現時点から何年以内に戻りたいとお考えですか。(○は 1 つ)

葛尾村の避難指示が解除された場合、「葛尾村にすぐに戻る」もしくは「条件が整えば、葛尾村に戻る」と回答した人(343 人)に、何年以内に戻りたいかを聞いたところ、過半数は『3 年以内』の帰還を希望している。(図表 3-6-1)

男女別に見ると、男性より女性の方が早期帰還を希望しており、女性の 61.0%は『3 年以内』に戻りたいと考えている。(図表 3-6-1)

図表 3-6-1 帰還までの猶予年数(男女別)

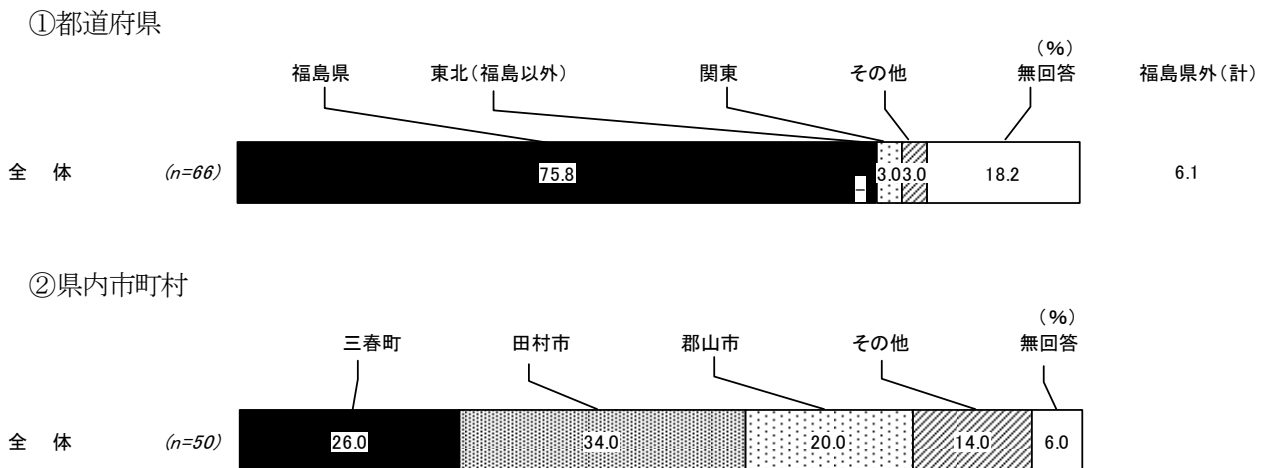


(7) 葛尾村以外の居住自治体候補と希望住居形態

【問 18 で「3 二地域居住する」と回答した方にかかっています。】
 問 23 葛尾村以外であなたがお考えになっている自治体名と住居形態を教えてください。

葛尾村の避難指示が解除された場合、「二地域居住する」と回答した人(66人)が、葛尾村以外で希望する自治体としては、福島県(75.8%)が多数を占め、福島県内(50人)では、「田村市」(34.0%)、「三春町」(26.0%)、「郡山市」(20.0%)の順にあげられている。(図表 3-7-1)

図表 3-7-1 葛尾村以外の居住自治体候補(都道府県と福島県内市町)



二地域居住意向者(66人)が、葛尾村以外で希望する住居形態としては、「一戸建て(購入)」(36.4%)や「一戸建て(公営住宅など以外の賃貸住宅)」(21.2%)などがあげられている。(図表 3-7-2)

図表 3-7-2 葛尾村以外の希望住居形態(男女別)

	(%)		
	全 体	男性	女性
n	(66)	(30)	(32)
一戸建て(購入)	36.4	30.0	34.4
一戸建て(公営住宅など以外の賃貸住宅)	21.2	26.7	18.8
集合住宅(購入)	1.5	3.3	-
集合住宅(公営住宅など以外の賃貸住宅)	10.6	16.7	6.3
公営住宅	7.6	6.7	9.4
給与住宅*(社宅、公務員宿舎など)	-	-	-
ご家族どなたかの実家	-	-	-
親戚・知人宅	4.5	-	9.4
その他	1.5	3.3	-
無回答	16.7	13.3	21.9
持ち家(計)	37.9	33.3	34.4
持ち家以外(計)	45.5	53.3	43.8

(8) 二地域居住意向の理由

【問 18 で「3 二地域居住する」と回答した方にうかがいます。】

問 24 二地域居住を希望される理由を教えてください。(ご自由にご記入ください。)

葛尾村の避難指示が解除された場合、「二地域居住する」と回答した人(66 人)に二地域居住を希望する理由を聞いたところ、52 人から回答を得た。

最も多くあげられたのは、帰還後の「子どもの生活や健康」を考慮する意見(18 件)で、次いで「仕事の関係」「安全性の不安」などの順となっている。(図表 3-8-1)

図表 3-8-1 二地域居住を希望する理由

(件)	
	全 体
子供たちの生活、健康	18
仕事の関係	10
安全性の不安	10
村への愛着	6
先行きの不安	4
村は不便だから	3
その他	3

上位の意見の具体的記述は、以下のとおり。

●子供たちの生活、健康

- ・子供は村外に住ませたい。
- ・親は帰村したいがっているが、自分の子供の生活は心配。
- ・放射線を気にしないで、子供や孫達と一緒に過ごせる場所がほしいです。

●仕事の関係

- ・職場が近いから。
- ・帰っても農業が出来ないから。
- ・仕事の関係上、やむを得ない。

●安全性の不安

- ・安心安全でなく、住人もいないから。
- ・放射線量が下がらないから。
- ・村には野生動物が多く、線量も心配。行ったり来たりする家が、避難先と村の両方にほしい。

(9) 帰還後の村内での事業再開

1) 帰還後の村内での事業再開意向

【問 18 で「1 葛尾村にすぐに戻る」「2 条件が整えば、葛尾村に戻る」「3 二地域居住する」と回答し、避難前に自営業（農林畜産業、商業等）をされていた方にうかがいます。それ以外の方は、問 31 へお進みください。】
 問 25 避難指示が解除になって戻った場合、村内で事業を再開したいと思いますか。（○は1つ）

葛尾村の避難指示が解除された場合に“帰還意向”がある、震災発生当時の自営業者(142 人)に、事業再開意向を聞いたところ、「再開したい」という回答者は 26.1%で、33.8%は「まだ判断できない」と回答している。(図表 3-9-1)

図表 3-9-1 帰還後の村内での事業再開意向

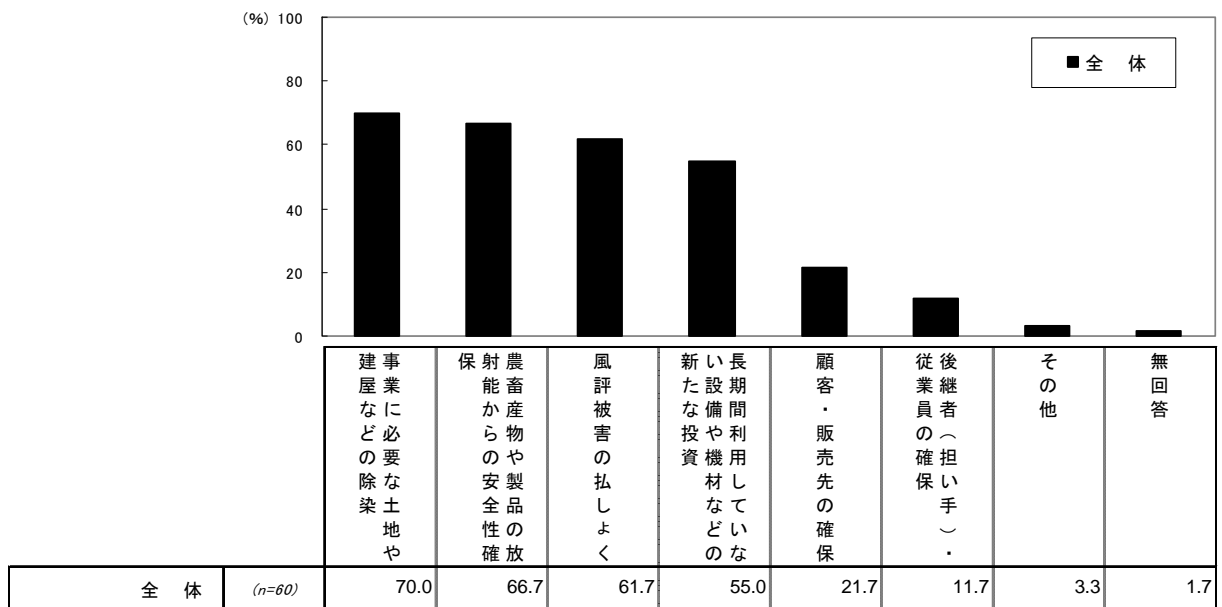


2) 事業再開の課題

【問 25 で「1 再開したい」と回答した方にうかがいます。】
 問 25-1 村内で事業を再開する際の課題があれば教えてください。（○はいくつでも）

帰還後に村内で事業再開意向がある震災発生当時の自営業者(60 人)の、事業再開にあたっての課題としては、「事業に必要な土地や建屋などの除染」(70.0%)、「農畜産物や製品の放射能からの安全性確保」(66.7%)、「風評被害の払しょく」(61.7%)、「長期間利用していない設備や機材などの新たな投資」(55.0%)などがあげられている。(図表 3-9-2)

図表 3-9-2 事業再開の課題



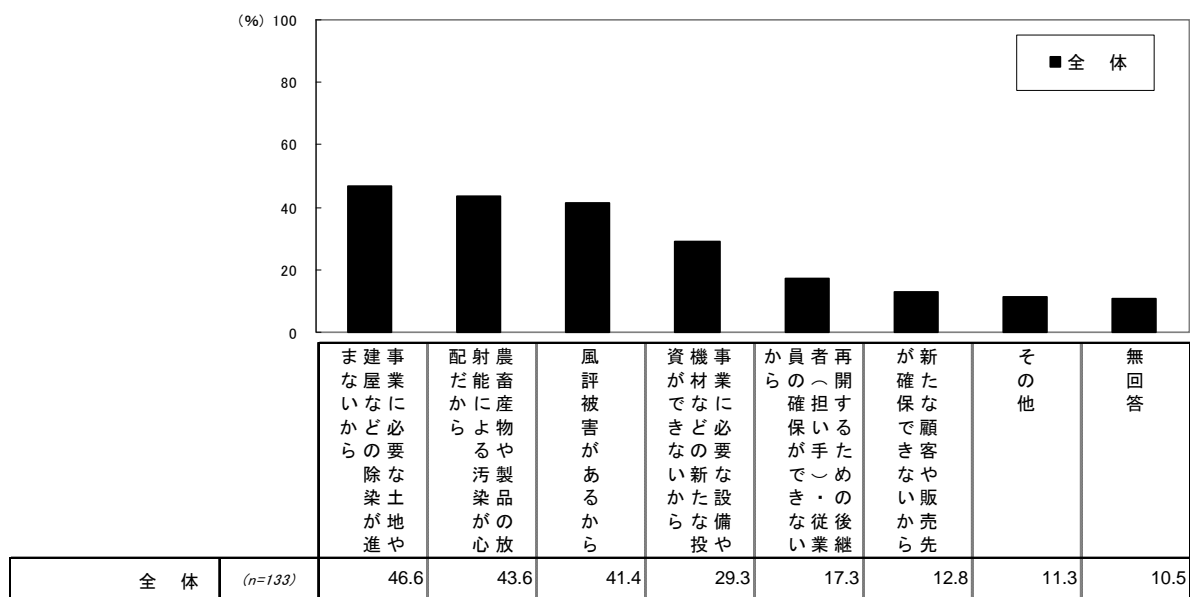
3) 事業を再開しない理由

【問 25 で「2 再開するつもりはない」「3 まだ判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 25-2 事業を再開しない理由、判断できない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

帰還後に村内で事業を「再開するつもりはない」もしくは「まだ判断できない」と回答した震災発生当時の自営業者(133人)の理由としては、「事業に必要な土地や建屋などの除染が進まないから」(46.6%)、「農畜産物や製品の放射能による汚染が心配だから」(43.6%)、「風評被害があるから」(41.4%)が主にあげられている。(図表 3-9-3)

図表 3-9-3 事業を再開しない理由



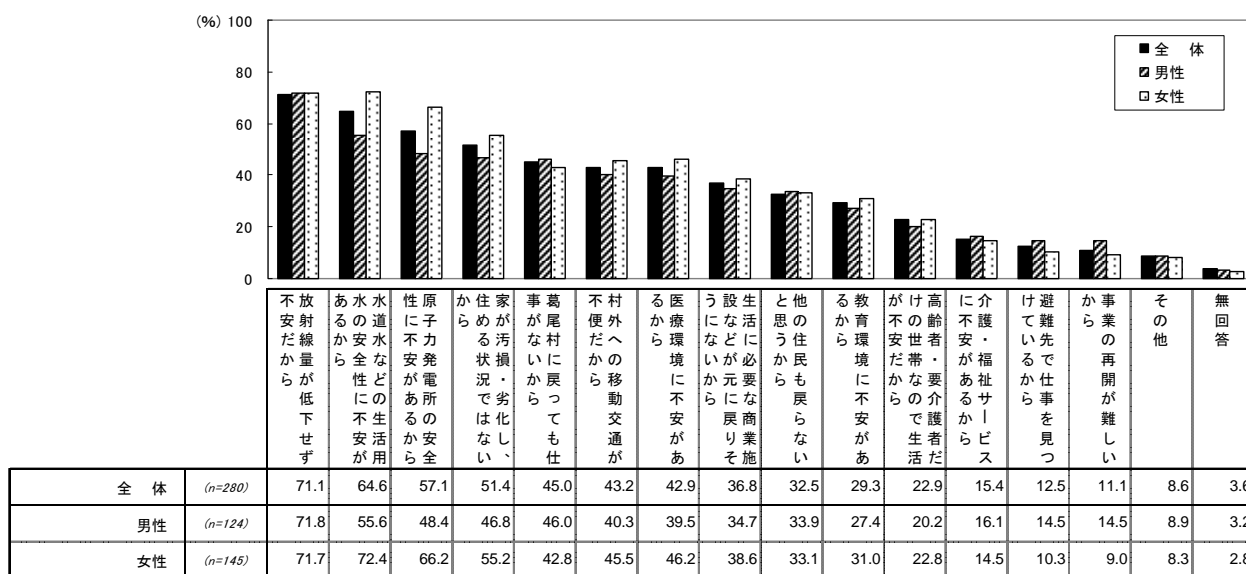
(10) 葛尾村に帰還しない理由

【問 18 で「4 葛尾村には戻らない」と回答した方にかがいます。】
 問 26 戻らない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

葛尾村の避難指示が解除された場合にも「葛尾村には戻らない」という回答者(280 人)が、帰還しない理由としては、「放射線量が低下せず不安だから」が 71.1%で最も多くあげられ、以下「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」(64.6%)、「原子力発電所の安全性に不安があるから」(57.1%)、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」(51.4%)などの順にあげられている。(図表 3-10-1)

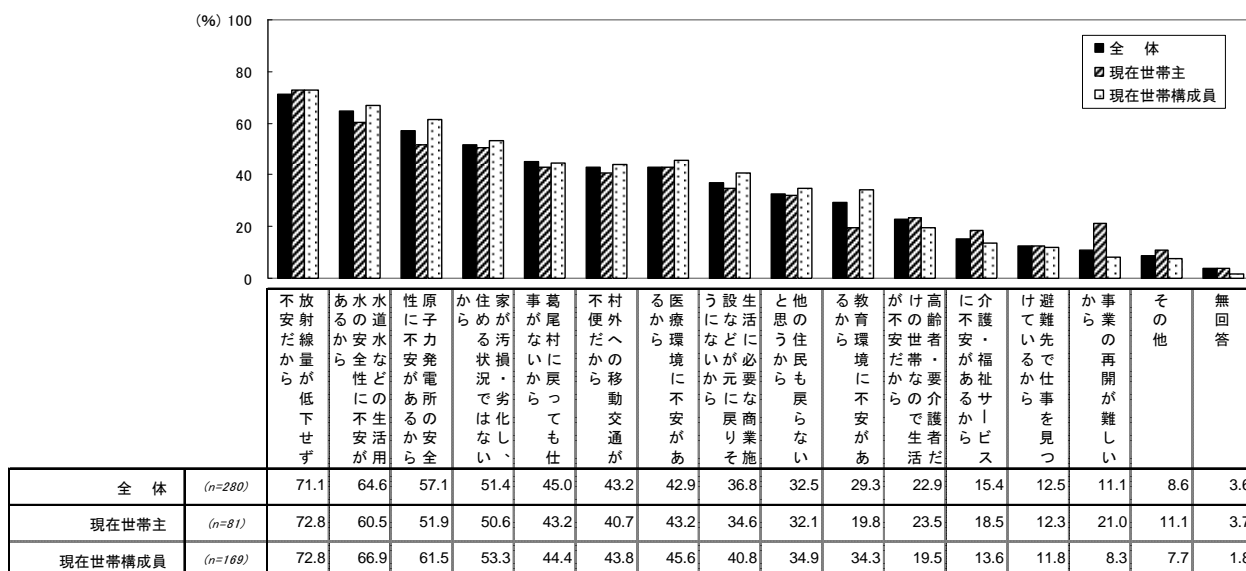
男女別に見ると、「放射線量が低下せず不安だから」(男性 71.8%、女性 71.7%)は、男女とも 7 割以上があげ差がみられないが、女性は「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」(72.4%)と「原子力発電所の安全性に不安があるから」(66.2%)も 7 割前後となっており、男性よりも不安が大きい。(図表 3-10-1)

図表 3-10-1 葛尾村に帰還しない理由(男女別)



現在の世帯での立場別に見ても、「放射線量が低下せず不安だから」が最も多くあげられているが、世帯主では「事業の再開が難しいから」(21.0%)という理由も全体で上位ではないものの、世帯主以外の構成員より多くあげられている。一方、「教育環境に不安があるから」は世帯構成員(34.3%)に多くあげられている。(図表 3-10-2)

図表 3-10-2 葛尾村に帰還しない理由(現在の世帯での立場別)



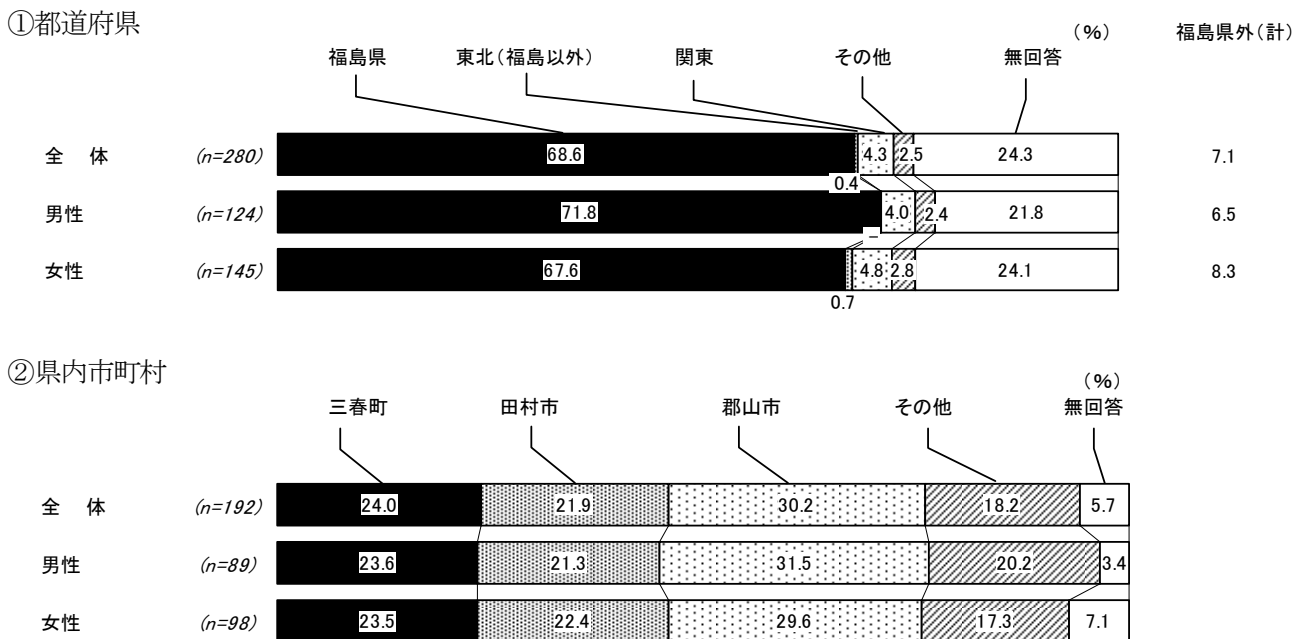
(11) 今後の生活拠候補の自治体

【問 18 で「4 葛尾村には戻らない」と回答した方にうかがいます。】
 問 27 今後の生活拠点としてどちらをお考えですか。自治体名を教えてください。

葛尾村の避難指示が解除された場合にも「葛尾村には戻らない」という回答者(280 人)の、今後の生活拠点として考える自治体は「福島県」(68.6%)が多数を占めており、福島県内(192 人)の中では、「郡山市」(30.2%)、「三春町」(24.0%)、「田村市」(21.9%)の順となっている。(図表 3-11-1)

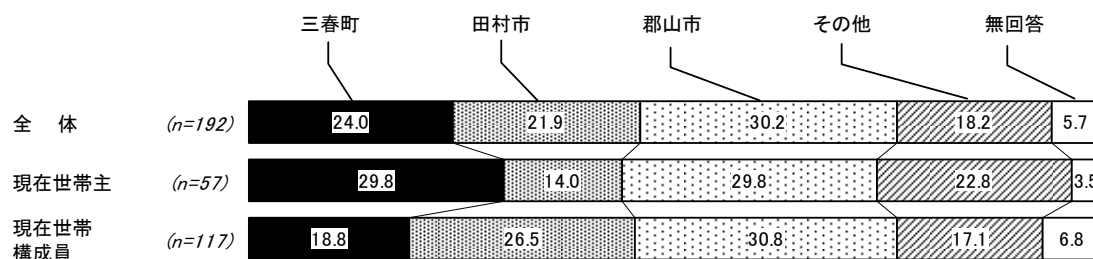
男女別に見ても、差はみられない。(図表 3-11-1)

図表 3-11-1 今後の生活拠候補の自治体(男女別)



現在の世帯での立場別に見ると、世帯主では「三春町」と「郡山市」がともに 29.8%で、意向が分かれている。世帯主以外の世帯構成員では、「郡山市」(30.8%)、「田村市」(26.5%)、「三春町」(18.8%)の順となっている。(図表 3-11-2)

図表 3-11-2 今後の生活拠候補の自治体(現在の世帯での立場別)



(12) 今後の生活拠点への転居の時期と判断のタイミング

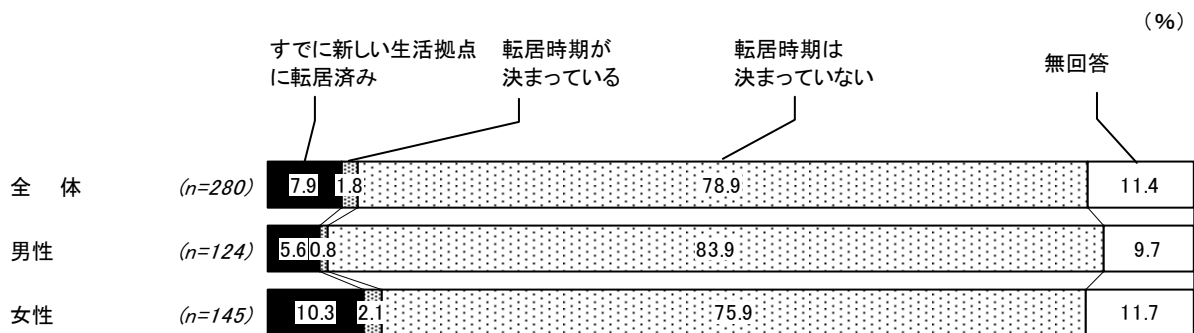
【問 18 で「4 葛尾村には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 28 今後の生活拠点に転居する時期は、決まっていますか。(○は1つ)

葛尾村の避難指示が解除された場合にも「葛尾村には戻らない」という回答者(280 人)の今後の生活拠点への転居の時期を聞いたところ、「転居時期は決まっていない」(78.9%)が多数を占め、「すでに新しい生活拠点に転居済み」もしくは「転居時期が決まっている」という回答者は1割に満たない。(図表 3-12-1)

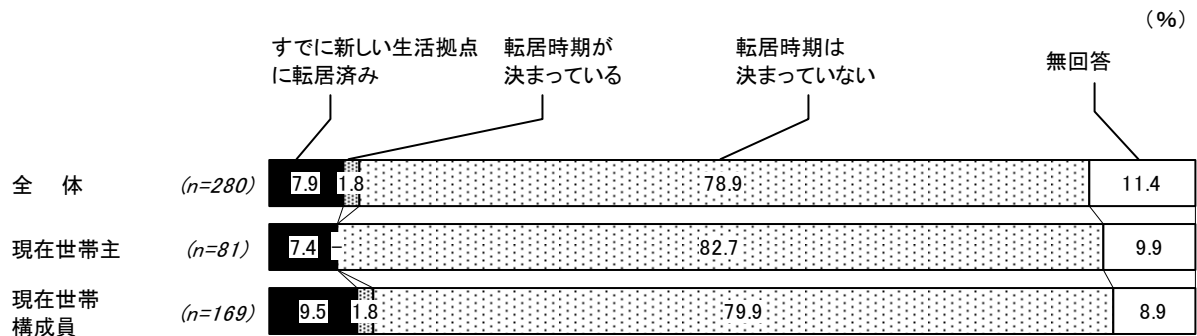
男女別に見ると、「すでに新しい生活拠点に転居済み」(男性 5.6%、女性 10.3%)という回答者は、女性にやや多くなっている。(図表 3-12-1)

図表 3-12-1 今後の生活拠点への転居の時期(男女別)



現在の世帯での立場別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-12-2)

図表 3-12-2 今後の生活拠点への転居の時期(現在の世帯での立場別)



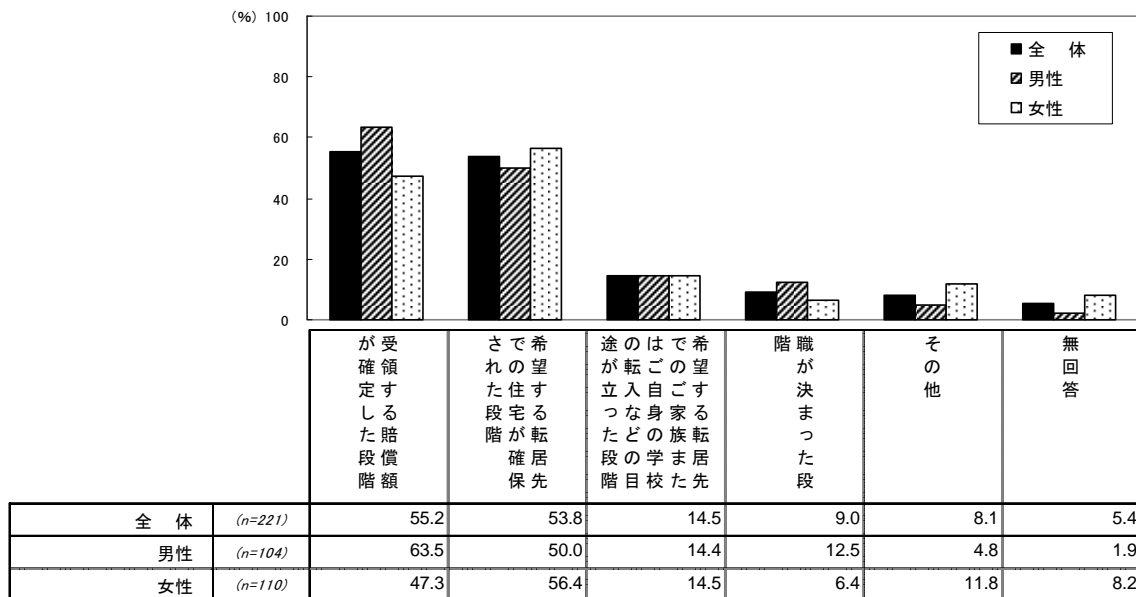
【問 28 で「3 転居時期は決まっていない」と回答した方にうかがいます。】

問 28-1 転居時期を判断するタイミングについて、どのようにお考えですか。(〇はいくつでも)

葛尾村への帰還意向はないが、今後の生活拠点への転居時期が決まっていない人(221 人)が時期を判断するタイミングとしては、「受領する賠償額が確定した段階」(55.2%)と「希望する転居先での住宅が確保された段階」(53.8%)がともに5割台で上位にあげられている。(図表 3-12-3)

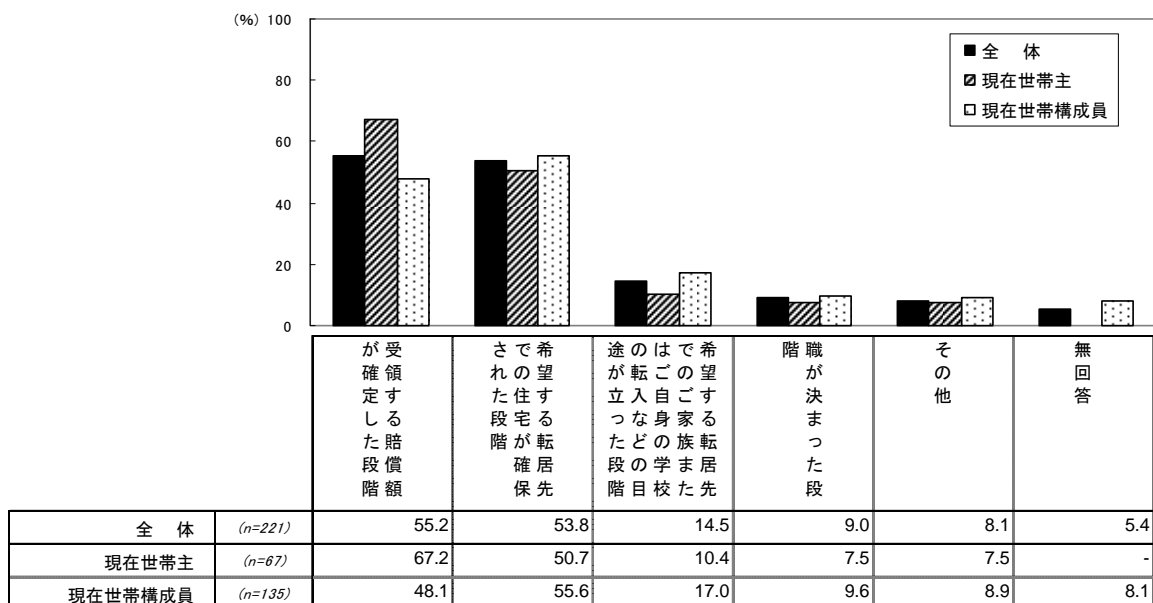
男女別に見ると、男性は「受領する賠償額が確定した段階」(63.5%)を最も重視しているが、女性では「希望する転居先での住宅が確保された段階」(56.4%)が最も多くあげられている。(図表 3-12-3)

図表 3-12-3 今後の生活拠点への転居の判断のタイミング(男女別)



現在の世帯での立場別に見ると、世帯主の 67.2%は、「受領する賠償額が確定した段階」を転居時期判断のタイミングとしてあげている。(図表 3-12-4)

図表 3-12-4 今後の生活拠点への転居の判断のタイミング(現在の世帯での立場別)



(13) 今後の生活において行政に望む支援

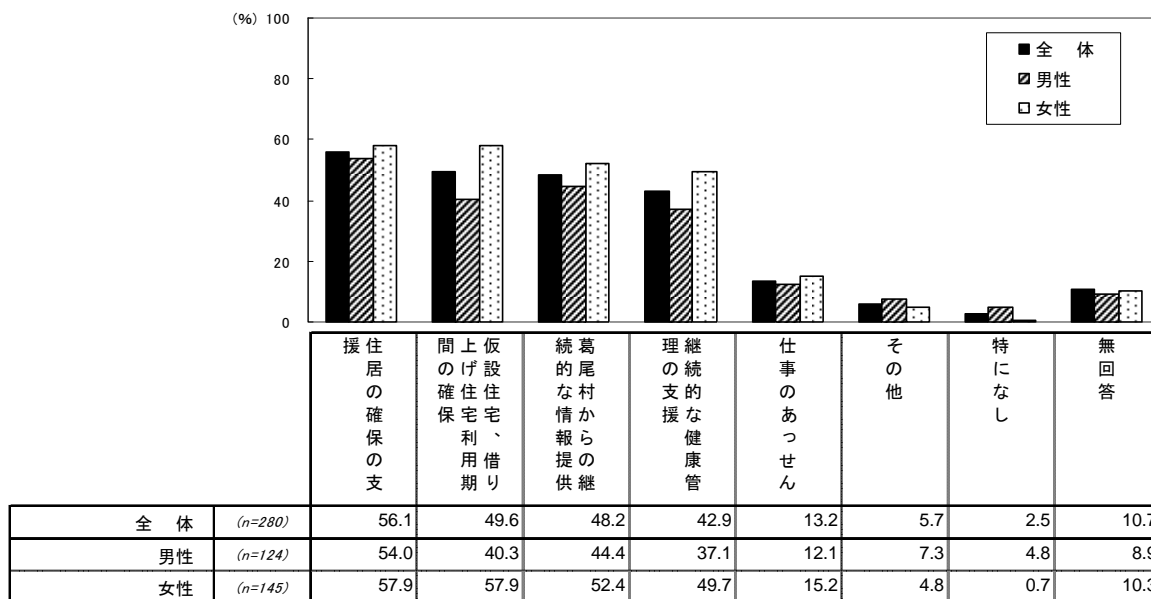
【問 18 で「4 葛尾村には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 29 今後の生活において、行政に支援を望む事項を教えてください。(〇はいくつでも)

葛尾村の避難指示が解除された場合にも、「葛尾村には戻らない」という回答者(280人)が、今後の生活において行政に望む事項としては、「住居の確保の支援」が最も多くあげられ、以下、「仮設住宅、借り上げ住宅利用期間の確保」(46.6%)、「葛尾村からの継続的な情報提供」(48.2%)、「継続的な健康管理の支援」(42.9%)が4割台で続く。「仕事のあっせん」は13.2%である。(図表 3-13-1)

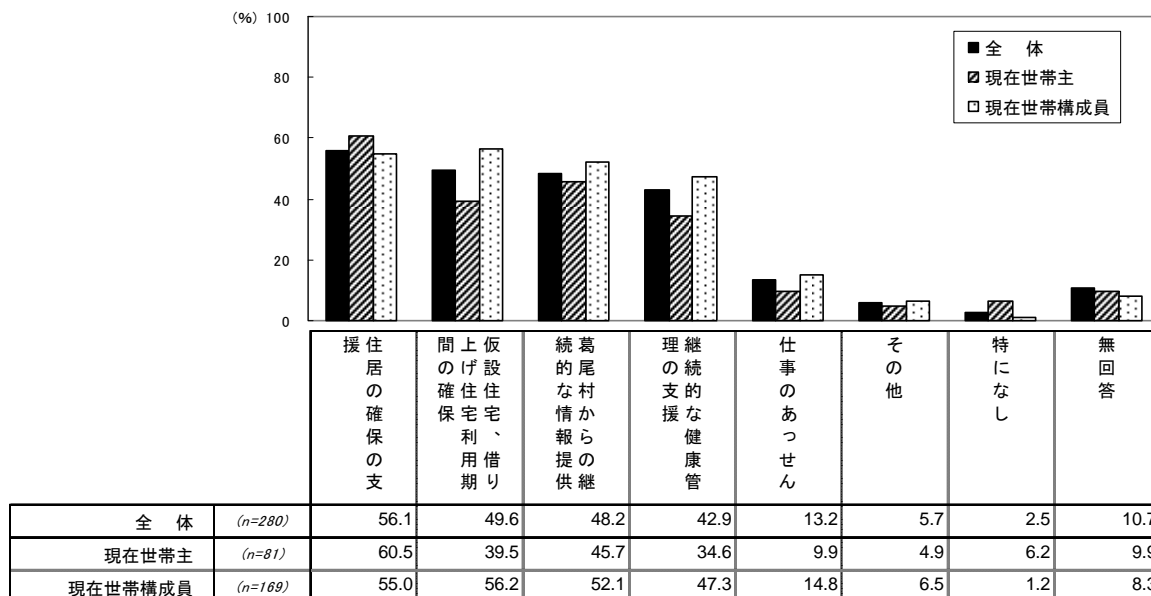
男女別に見ると、全般的に女性の方が強く行政の支援を望んでいる。(図表 3-13-1)

図表 3-13-1 今後の生活において行政に望む支援(男女別)



現在の世帯での立場別に見ると、「住居の確保の支援」以外は、世帯主以外の世帯構成員の要望が強くなっている。(図表 3-13-2)

図表 3-13-2 今後の生活において行政に望む支援(現在の世帯での立場別)



(14) 帰還を判断する条件

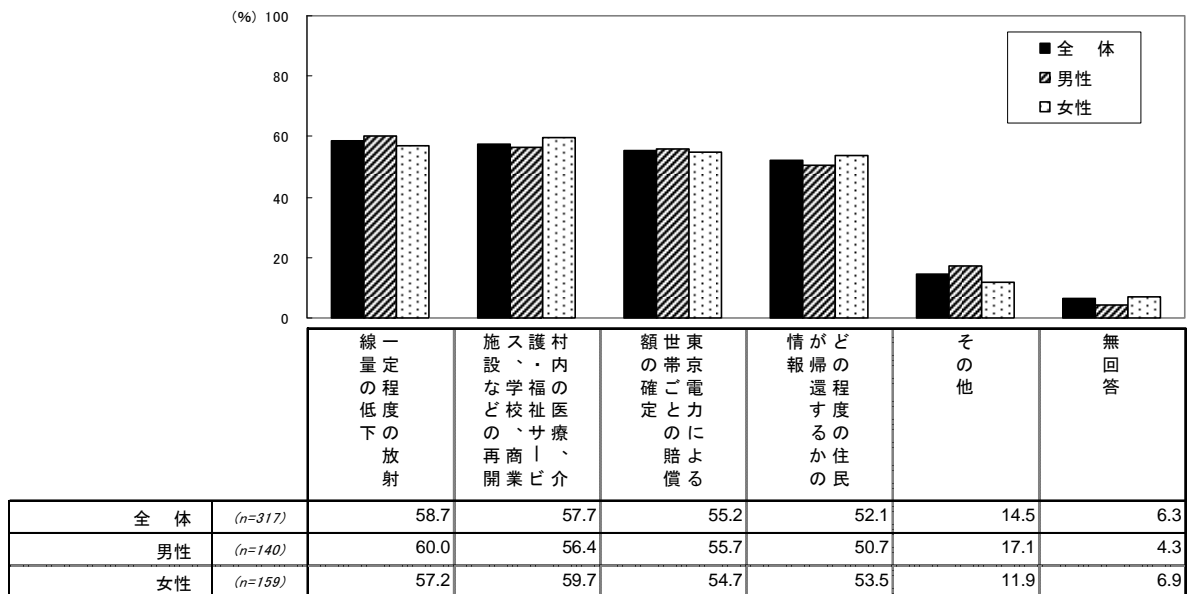
【問 18 で「5 今はまだ判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 30 どのような条件が提示されれば、葛尾村に戻るかどうかの判断ができますか。(○はいくつでも)

葛尾村の避難指示が解除された場合にも、帰還について「今はまだ判断できない」という回答者(317人)が、帰還を判断するために必要な条件を聞いたところ、「一定程度の放射線量の低下」(58.7%)、「どの程度の住民が帰還するかの情報」(57.7%)、「東京電力による世帯ごとの賠償額の確定」(55.2%)、「村内の医療、介護・福祉サービス、学校、商業施設などの再開」(52.1%)のいずれも5割以上で要望が高く、条件による回答率の差は小さい。(図表 3-14-1)

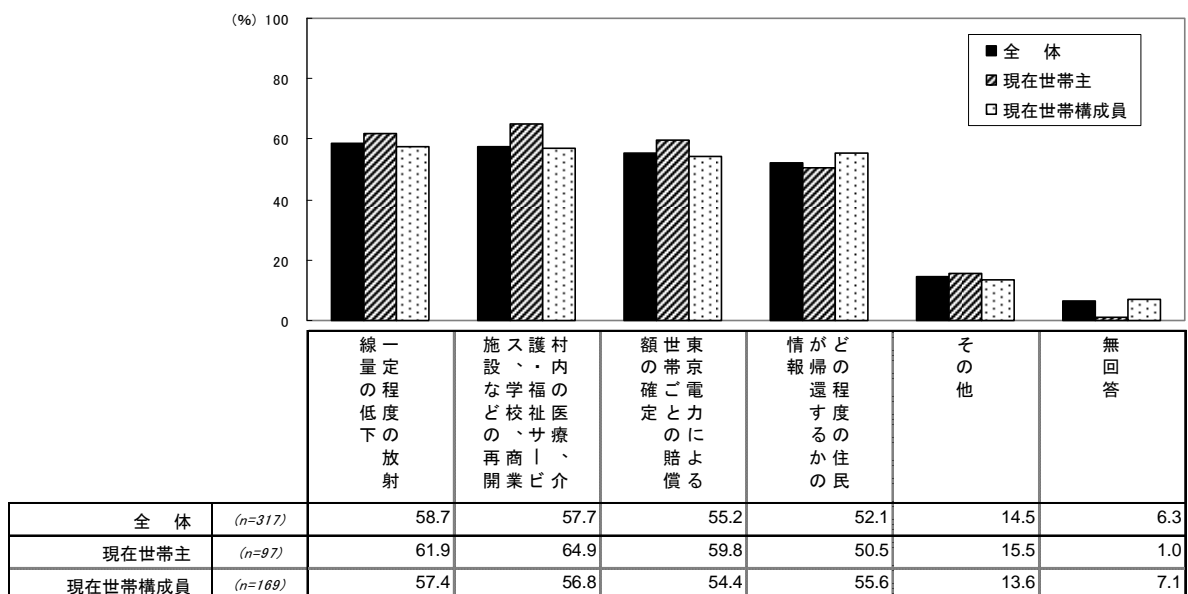
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-14-1)

図表 3-14-1 帰還を判断する条件(男女別)



現在の世帯での立場別に見ると、「村内の医療、介護・福祉サービス、学校、商業施設などの再開」を世帯主の64.9%があげ、世帯主以外の世帯構成員(56.8%)との差が大きくなっている。(図表 3-14-2)

図表 3-14-2 帰還を判断する条件(現在の世帯での立場別)



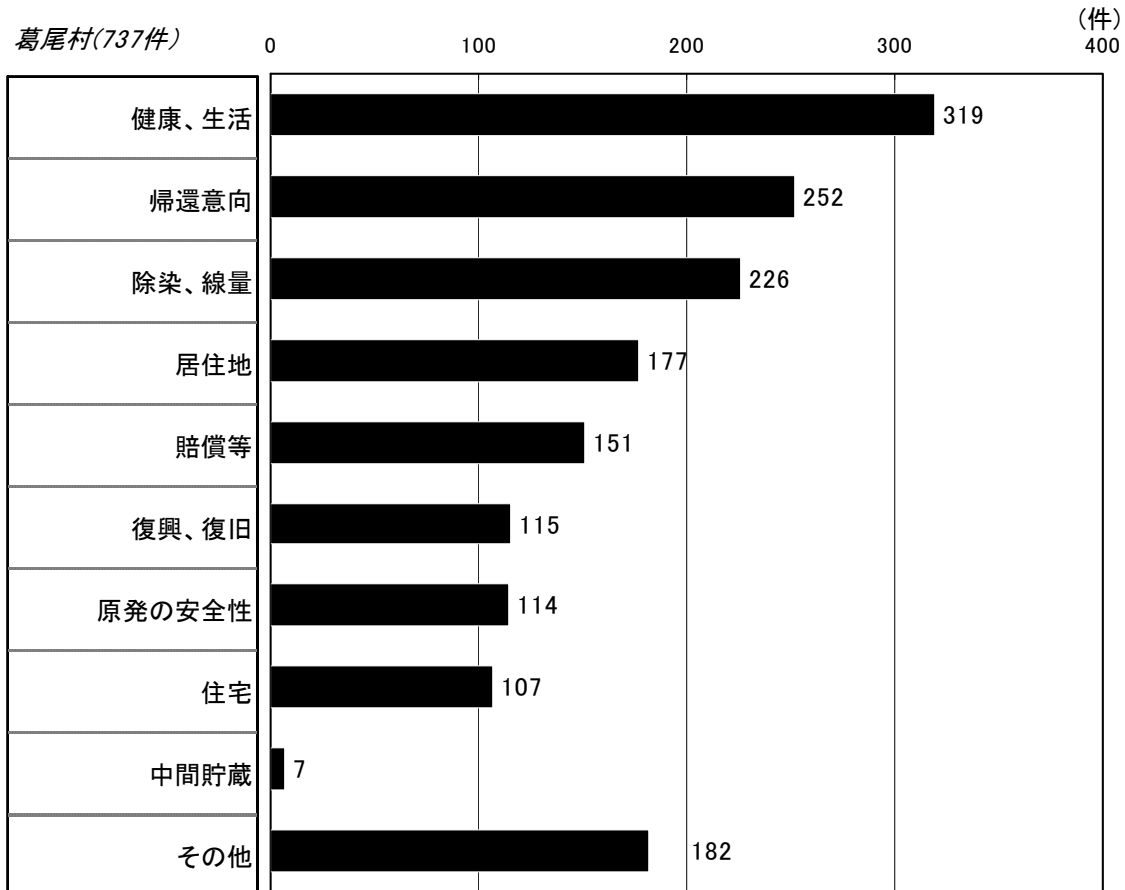
4 国・自治体への要望、復興に対する展望や想いについて

(1) 国・自治体への要望、復興に対する展望や想い

問 31 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望や想いなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて尋ねたところ、737 件の自由回答を得た。最も発言の多いのは「健康、生活」(319 件)に関する内容で、以下、「帰還意向」(252 件)、「除染、線量」(226 件)、「居住地」(177 件)、「賠償等」(151 件)、「復興、復旧」(115 件)、「原発の安全性」(114 件)、「住宅」(107 件)、「中間貯蔵」(7 件)という順となっている。(図表 4-1)

図表 4-1-1 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(自由回答)



(同一対象者の発言が複数内容にわたっている場合は、件数として内容ごとに件数カウントしている。)

図表 4-1-2 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(代表的意見抜粋)

●健康、生活

性別	年齢	記載内容
男性	20歳代	区域の区分の分け方でも補償金の違いによる問題が出てくると思いますし、まわりの浜通りが復興しないので、帰村しても病院や買い物が不便になるだけだと思います。ホールボディーカウンターも数値が下回っていることで異常なしとしか言われず、どのくらい内部被爆しているのかすらわからない。除染しても線量、汚染は下がらないです。だから帰れません。
女性	20歳代	国や自治体は帰る事を最終目的として事を進めているようであるが、どちらかと言えば、それで早くこの問題を終わらせよう、風化させようと思っているようにしか感じられない。今、私達が求めているのは、今後の生活をどう立て直していくか、そのきっかけ、手助けであって、帰る事が全てだとは思えない。生まれ育った環境であるから、帰りたいかと問われたら帰りたいとしか言いようがない。だが、それは元の環境・生活であって、放射能汚染されたふるさとではない。
男性	30歳代	葛尾村に戻るだけが復興ではない。原発事故で抱えた不安が全て無くなった生活ができることが、本当の復興である。村は問題山積で、避難先で生活の基盤ができた今は、葛尾村に帰ることは無理だと思っています。皆が自分の足でまた歩き出す『復興』を望むのであれば、膨大な除染費用を一人一人に分配して、送り出してもらったほうが、前を向くことができると思います。
女性	30歳代	賠償や補償金を早く出してもらって、個々が方向性を出しやすくしてもらいたい。(若い人達が安心して子育て生活ができるように。)
女性	30歳代	線量の高い低いで帰れるかどうかの判断をされても困る。あれから1年以上が経ち、私は新しい生活を始めた。線量が低いから帰りますよ、と言われても今の生活を捨てるわけにはいかない。葛尾村は大好きだ。本当にそう思う。そのふるさとを離れる覚悟をした。辛い選択である。住所も新しい自治体に移す事にし、東電からの補償も受けられなくなった。それでもやはり進む事を考えれば、帰るという選択は、自分の中に出て来なかった。
男性	40歳代	国や東京電力による、安全対策の甘さゆえの今回の事故であると思う。国は十分その責任を認識して、生涯にわたっての住民の健康管理をしていくと共に、必要な支援を継続的にすべきである。
女性	50歳代	村には戻りたいし、その思いは、日を追うごとに強くなっていますが、現実的ではないことも十分わかっています。子供達が安心して住める場所を、定住できる場をさがさなくてはと考えます。両親が眠るお墓のあまり遠くには住みたくないとも考えます。村で行政区ごとの仮の町の土地を買い上げてくれるか、その行政区の人達の意見をきき、負担額を決め、皆でまとまった土地を三春地区あたりに買い上げることはできないでしょうか。
女性	50歳代	避難生活にはとても疲れしました。1日も早く元に戻るようしてほしいです。まず井戸水の確保(ボーリング)。震災前の放射線量に戻してほしいです。これらが達成出来た時には、葛尾村に戻ります。
女性	50歳代	避難して一年位で戻れるなら、葛尾村で仕事をしたいと思っていましたが、帰るたびに荒れる我が家を見て、このまま帰る事は不可能です。今まで投資した機械類、建物、全部、錆ついて使い物にならなくなりました。あと2年で、まだまだひどくなる事を考えると、避難が長くなればなるほど帰れなくなると思います。気力も体力も無くなってきました。すべてを賠償してほしいと思います。
男性	60歳代	交通が不便、医療施設がない、買物が不便な避難元から、全て満されている避難先の生活に慣れてしまった住民が帰還するためには、本人の相当の覚悟が必要で、行政がしっかり答えられるかにかかっている。
女性	80歳代以上	葛尾村復興計画が夢物語にならないように願います。後期高齢者には残された時間が少ないので、一日も早く元の静かで、おだやかな暮らしに戻りたい。
女性	80歳代以上	今生活はとても良いとは言えません。戻ることはばかりでなく、少しは新しい道も考えてほしいと思います。戻って何をしますのですか。村民の前に村関係の仕事をしている人が、村から通勤しますか、村外からですか。それを聞きたいと思います。それから村民も考えるべきだと思います。

●帰還意向

性別	年齢	記載内容
女性	30歳代	本当に、子供達を連れて、葛尾村に戻ろうと考えているのでしょうか。現在まで、日本は、このような状況に立たされた事はありません。将来、子供達に、健康被害がどのように出るかも分かりません。戻れというなら、実験されているような気がしてなりません。私達大人は、子供が死ぬまで生きて、面倒をみてあげられません。後々不安が残るような帰村は、求めません。
女性	30歳代	村に帰るためとがんばっていますが…帰れるようになったとして、前の生活と同じよう、暮らせますか？田畑で野菜を作り、山で山菜をとり、山水や井戸水を飲んだり、牛を飼ったり。まずは、葛尾村で野菜や米を作り、村の水で料理した物を、東電のみなさんに1年間食べていただき、本当の安全を見せてほしいです。目に見えない物は本当にこわいです。
女性	40歳代	健康が第一だから、安全性が保障されない限り、不安で戻れない。病院、生活そのものが不安だし、家の中だけにしかいられず外に出て何もできないのであれば、帰る意味がないし、かえって苦しいと思う。
男性	50歳代	何年か先、帰宅出来る環境が整った場合に、果たしてどれ位の村民が帰宅するだろうか。若い人は戻らないと思うし、年寄りだけの村民で、葛尾村はやっていけるだろうか、学校を戻しても先生の方が多く、子供達はどの位の人数になるか。いずれにせよ、葛尾村という自治体が無くならない様、万全の努力をして欲しい。
男性	60歳代	チェルノブイリでは、葛尾村の私のところは「避難義務」地域です。そのような状態の中で、国・自治体は展望のない除染という、まやかしの言葉だけで帰還させようとしている。その場しのぎの説明も全く納得がいかず、全く信用できない。
男性	60歳代	子供達が将来の放射線の不安から村で生活出来ないため、戻らないとしたが、区域見直しにかかわらず仮の村を作るなら、二地域居住も行いながら村に戻る事も検討している所である。現状で帰還しても一部の高齢者のみであり、若い人を戻せない事から仮の村をつくり、2次、3次と次に帰還出来る村民を支援育成していかなければ、村そのものが消えてしまう。不安がある以上、農地の除染が終わってもすぐに作付けする考えはない。再開する事は、精神的苦痛が増大するだけである。
女性	80歳代以上	除染して村に戻るの果たしてどの位か？また、高齢者だけになってしまうのか不安が残ります。村として、運営して行けるのか？高齢者である私も、医療、商業等にしても足(車)がなく、とても不安です。放射線量にしても、雨どいから流れ落ちた所はすごく高く(20~35)、びっくりです。今だにですよ。この歳で家に住めない事程、悲しい事はないです。

●除染、線量

性別	年齢	記載内容
男性	20歳代	年間20mSv未満という理由で解除になるとして、村に何年も住み続ければ20mSv未満でも蓄積し、健康に害がないという保証もなく、除染した所で雨や雪が降れば線量は元に戻るの、除染の意味はないと思います。原発事故前の線量がゼロの所に住んでいて、元の線量ゼロで帰れと言うなら理解できますが、20mSvに満たないから大丈夫と言う理由がわかりません。建物の除染はできたとしても森林や土壌は除染は無理でしょう。
女性	20歳代	除染をしていると言うが、その実体や効果が分からないのに、そこに安全性があるとは思えない。また、社会資源が皆無となった場所で生活していけるのか、子供のいない村に未来があるのかも分からない。
女性	20歳代	人口の多さ、面積の広さで、線量の高い所が低い所に、合わせなきやいけないのか。全員で帰るのは不可能なから、低い所は帰宅解除準備区域。濃い所は、居住制限区域、もしくは帰宅困難区域にしてください！！国も村も、あたしら住民の命、どう思ってるんだ！！
女性	30歳代	避難指示から解除に移すタイミングが早い。本当に放射線量が1年で低下しているのか疑問。高くても低い数字で示したり、安全な数字を国が発表していると思えない。
女性	30歳代	原発について色々な情報が飛び交っており、本当の意味で正しい情報がほしい(放射線量やその安全性について)。情報を信じられない状況で避難指示が解除されても、葛尾村に戻ることは考えられない。
女性	30歳代	セシウムだけでなく、他の線種についても情報公開してもらいたい。
女性	40歳代	チェルノブイリの事故を挙げているのにもかかわらず、避難地域、線量の基準が低すぎる。チェルノブイリを参考にすると葛尾村に帰れない。除染にお金を使っても無駄使いだ。国の考え方がおかしい。
男性	50歳代	除染は、山から、農地もしっかりと除染。1mSvもしくは、元の線量になればすぐにも帰ります。
男性	50歳代	除染、除染とするのは良いと思うが、本当に効果があるのか？やらないよりは、やった方が良いと言う位の考えでは困る。山林から何から何までやらなくては、意味がないと思うし、せっかく除染したのに数パーセント下がっただけでは、効果があったとは言えないと思う。大金をかけて除染をしても数パーセントでは、大手ゼネコンの利益だけで終わると思う。効果が数パーセント位であれば違う方法もあるのではないかとと思う。
女性	50歳代	説明会資料によれば、帰村できる放射性基準、年間20mSvの科学的根拠はICRPの勧告を基準とした「低線量被ばくリスクに関するワーキンググループ」の報告に基づくとされていますが、ICRP内でも低線量被ばくについては議論が行われており、またワーキンググループ自体、低線量被ばく健康被害に否定的なメンバー構成になっています。空間線量20mSvは緊急時被ばく状況での下限を採ったもので、そこに住み続ける人の安全性が確認されているわけではありません。現行法で空間線量年間5.2mSv以上の場所は放射線管理区域とされていることからしても、帰村の基準空間線量を年間20mSvとするのは住民の健康を最優先としているとは思えません。
男性	60歳代	住民の周囲20メートル除染では放射線の線量が下がらないので、もっと延ばしてほしい。土地や山林の除染は必ずやってほしい。
男性	70歳代	原発政策は国策として推進してきたものであり、それが破綻して環境を汚染させたのである以上、放射能を除去し葛尾村を事故前と同様の状況に戻すことは、政府・東京電力の当然の責務である。現在進めている除染作業は有効な手段とは考えられず、小手先程度の表土の剥ぎ取りや洗浄は、新たな汚染源を生み出す結果にしかならない。現代化学を駆使して、もっと根本的な除去方法を模索し、真に有効な除染に取り組むべきである。

●居住地

性別	年齢	記載内容
女性	15～19歳	“葛尾”という地も恋しいが、復興のために赤字になってしまうのであれば、また別な土地を利用して、新しく村をつくっていくのもありだと思う。
女性	30歳代	事故前の葛尾村に戻るのは無理だと思う。新しい地で仮の村を作るか、合併などした方が良くと思う。
女性	30歳代	葛尾村にもどるのではなく、放射線量の少ない土地に村全体を移動してほしい。
男性	40歳代	自分としては線量の低い県外を望むが、子供が転校をいやがるので、これから郡山で生活をやり直したい。
男性	40歳代	双葉地方の復興は、夢物語としか思えません。原発が廃炉となり、中間貯蔵施設があちこちにある土地に、人が集まるとは思えません。かつて、全国の市町村が合併していった時も、双葉郡だけはしなかったように、原発があるだけの町だったというのがよくわかります。海を失った双葉に他に何の取り柄があるでしょうか。
女性	40歳代	今の土地にこだわるのではなく、新しく作っていくと言う考え方も大事だと思います。
女性	40歳代	子供達が安全に暮らせる場所を確保して欲しい。子供達の将来を守って欲しいので、安全な所に住まわせて欲しい。
男性	50歳代	双葉郡は国有化し、代替地を県内に作ってほしい。
女性	50歳代	除染の効果があるようには思えない。そのような予算をいち早く復興にまわし、老人が安心して住める場所確保に利用して欲しい。
女性	50歳代	村は帰村をする考えのようですが、若い世代は、現在の住居、仕事、子供の学校とかの問題で、葛尾村には戻らない気がします。村に戻ったとしても、今の仮設住宅からの利便性はなくなり、医療、商業施設、学校に時間をかけて通うようになると思います。このような状況でも帰村する価値があるのか、もう少し考えてみてはどうでしょうか。私達は1年ごとに年を取って老いていくのです。少しでも便利な地域で生活したいと思います。
女性	50歳代	地区の編成が決まったので、少しでも早く村の災害公営住宅をどこに建設するのか決めてほしい。遅ければ、葛尾へ戻りにくくなる。
男性	60歳代	近隣町村の帰宅困難者に葛尾村の土地を分譲して村の人口を増し、新たな村造りを目差し復興に協力していきたいです。
男性	60歳代	二地域居住で暮らす方法として、合併などの手続きを復興優先に簡単に出来るようにしてほしい。
女性	60歳代	村内全域を帰還困難区域にすべき。他市町村と比べ面積も人口も少ない村を3つに分けてどうするか。

●賠償等

性別	年齢	記載内容
男性	20歳代	除染に無駄な金を使うなら、違うお金の使い道考えた方が良く。仮に除染で線量が下がっても、絶対に人体に害が無いと、国が断言して、もし何かあったらこの先何十年も賠償すると約束して欲しい。
女性	20歳代	子どもの健康のため、家族が別々に暮らすようになったら、その補償をしてほしいです。
女性	30歳代	精神的賠償が少ないと思う。納得できない。実際に生活してみしてほしい。
女性	40歳代	葛尾の住宅ローンが残高が残っているのに、またリフォームをする費用がない為、全額補償して欲しい。
男性	50歳代	除染に高額な金をかけて下がらないなら、土地の金額の補償をしてもらってよそに行きたいです。30年は大変です。葛尾はあきらめてもいいです。
女性	50歳代	新しく生活を始める為に、早く十分な賠償を要望する。
男性	60歳代	国の土地の賠償基準があまりにも低い。これでは賠償になりません。我々は田んぼで生きてきた。この土地が永久に犠牲になり、末代にいたるまで生命が絶たれる。賠償問題算定の見直しを望む。
男性	70歳代	双葉郡八町村を原発事故汚染地帯としてすべて税金を無税とし、若者の定着する企業立地を進めていただきたい。
男性	80歳代以上	高速道無料継続
女性	80歳代以上	賠償に頼るしかないのです。お願いします。

●復興、復旧

性別	年齢	記載内容
男性	30歳代	今まで不便だった道路等の整備(特に冬の日かげの凍結、峠の凍結対策)をし、病院、買物等の施設の整備、若い人が勤められる所を確保する。
女性	30歳代	震災の有無に関わらず、葛尾村は不便な所です。被災したことにより、葛尾村がもっと不便な所になってしまいました。国道6号に行く道の整備を希望。(114号を使用できるようにしてほしい。)迂回路で30km以上多く遠回りしては、体がいつくあっても足りない。
女性	40歳代	帰村を急ぐのではなく、きちんと除染をして何十年も先を見て復興できるようにしてほしい。
男性	50歳代	村民が戻らないと葛尾村がなくなってしまうと思う。そうならないようにするために安全安心して生活できる放射線量の確保、学校の再開、安全な生活用水の確保、働く場所の確保、介護・福祉サービス、生活に必要な商業施設etc、早急に実現させてほしいと思います
男性	50歳代	復興に対する展望や想い、私達が努力して福島に活気をとっても国や自治体の動きが悪すぎます。福島に人口を戻したり、新たに来た人に対しての特典の様な物を考えたりして、福島に来ればこんな良い事がある、また、この様な場所で住めるといような事、医療に関しては、市民に対して心配のない事を示す事が必要である。
男性	50歳代	今後は、国道、県道の早期改良、整備、標識の拡充、海拔の看板など災害に強い村、町づくりになるよう考えてほしいものです。
女性	50歳代	震災前以上にインフラを整備をして、他市町村からの住民も受け入れる、魅力的な村を作してほしい。
男性	60歳代	震災前の家族が一つ屋根の下で暮らせるように、早く復興してください。
男性	60歳代	農業再建(基盤整備、水路の整備)あぜ道も含む
女性	80歳代以上	三春町と合併して、除染に余計なお金をかけず、新しい土地での復興のため使ってもらいたい。

●原発の安全性

性別	年齢	記載内容
女性	20歳代	安心して生活できるように、重要なのは原発廃炉です。
男性	30歳代	村へ戻る事が出来ても原子力発電所があるので、放射線対策で、1人1個防護マスク等を配布してもらえれば良いです。事故がまた発生しても準備あれば、恐れる必要はないから。
女性	30歳代	即原発ゼロ!!汚染された土地を元に戻すことは不可能です。原発が無くならない限り、危険との隣り合わせで生きてる限り、不安がつきまとう。もうこんな苦しい生活をするような人達を増やさない為に全廃炉!失ったモノは計り知れないけれど、未来はある。苦しんでいる人達の立場になって思いやりをもって復興を考えて欲しい。
女性	30歳代	1日も早く原子力の安定を望みます。政府は、原子力は安定したと言っているが、国民からすると安定は、していないと思います。
女性	30歳代	原発事故の収束、そして廃炉を求めます。
男性	40歳代	原子力発電所の早期の安全性の確保が何よりの要望です。全てのスタートはそこからだと思います。
女性	50歳代	現在の福島第一原子力発電所の状況は、野田首相が昨年発表した収束宣言から遠くかけ離れています。地震や台風が来るたびに4号機の倒壊を恐れ、大量の使用済み核燃料の無事を日々願いながら毎日を過ごすなんて、耐えられません。
女性	70歳代	原発が40年にもなっているのに、国ではなぜ廃炉にしないのか。安全だと言いながら、またこのようになったら、日本に住む所がなくなってしまう。

●住宅

性別	年齢	記載内容
男性	20歳代	葛尾村に帰ったとしても、元に戻すことは無理があると思います。葛尾村にある家はとても住めるような状態ではないので、葛尾村以外の場所に建てた方が古くなった家を直すよりもいいように思うし、医療なども充実しているので葛尾村に帰ることは考えられない
女性	20歳代	長期間、避難していると葛尾村の家は湿気やカビ等で住めない。家の周辺の除染と同じく、家の内の除染等もしてもらいたい。
女性	20歳代	避難が解除されてもすぐに戻らない。今、住んでいる仮設住宅の利用期間を延長するか、ある程度落ち着いて暮らせるような住宅を、村外にまとめて作ってほしい。
女性	30歳代	住めるための住宅が早くほしい。もう、仮設よりも新しい所に家族で暮らしたい。
女性	30歳代	例え、除染が終了しなくても、村での宿泊が出来るようになったら、戻りたい。村の生活の晴々しさとか、清々しさとか、他の所、とくに仮設住宅では得られないものがある。
男性	40歳代	中山間地域は古い住宅が多く、3年程度で住む事は困難な状況になると思われるため、6年で全損ではなく、3年で全損として賠償をして頂きたい。
男性	40歳代	戻らない希望者で、土地家屋等は国が買い上げてほしい。
女性	40歳代	この狭い部屋では、まるで刑務所の中にいるような感じです。国の人達も何年か住んでみたら、私達の気持ち分かると思います。大人3人で四畳半2つに住んでるんですよ。早く何とか決めて欲しいです。
女性	50歳代	住宅は古くて避難している間に、かびくさくなりネズミやヘビなどが入りこんでいて、とても住める状態ではない。
女性	50歳代	家の周りは草だらけ。畑も荒れ、田は柳の木だらけで、セイタカアワダチソウが、いっぱいになっている。家も雨もりがひどく、帰っても生活ができそうにない。帰れるまで何年かかるのか。1年半でこのような状態では、帰る頃は、どんなふうになっているのか？私も、何才になっているのでしょうか？
無回答	無回答	家が古いので、家を除染をしないで壊してほしい。

●中間貯蔵

性別	年齢	記載内容
男性	20歳代	放射性廃棄物の中間・最終処分場を双葉郡に作るべき。安全性も確認できない状況で戻されるくらいなら、いっそのことその方がいい。
女性	40歳代	除染を進めるのであれば、中間貯蔵施設を早期に立ち上げるべきだと思う。
男性	60歳代	再生可能エネルギー基地化するか、中間貯蔵施設の設置などで、今後の生活の収入源になればいい。
男性	70歳代	中間貯蔵施設の問題で解決できていない現在、国が安全宣言をしたとしても帰村はできないと思っている。
女性	70歳代	すべての面(除染、処分場の建設の状況etc)での情報が、全然知らされないことに不満です。葛尾の家、敷地に茂る草木は刈っても処理出来ません。

●その他

性別	年齢	記載内容
女性	15～19歳	国や自治体へ。悪いことも隠さず、正直に言ってほしい。
男性	20歳代	国の責任で事故当事者である東電に積極的に除染させ、以前の状態に少しでも近づけてほしい。
男性	20歳代	具体案が示されない説明会に行くのがわずらわしい。こちらの意見が呑めないなら、いっそ既成事実作りのための説明会など開くべきでない。
女性	20歳代	国にすべてさせるという事はない。私達にもやるべき事があるのなら教えてほしい。何もかくさずに。

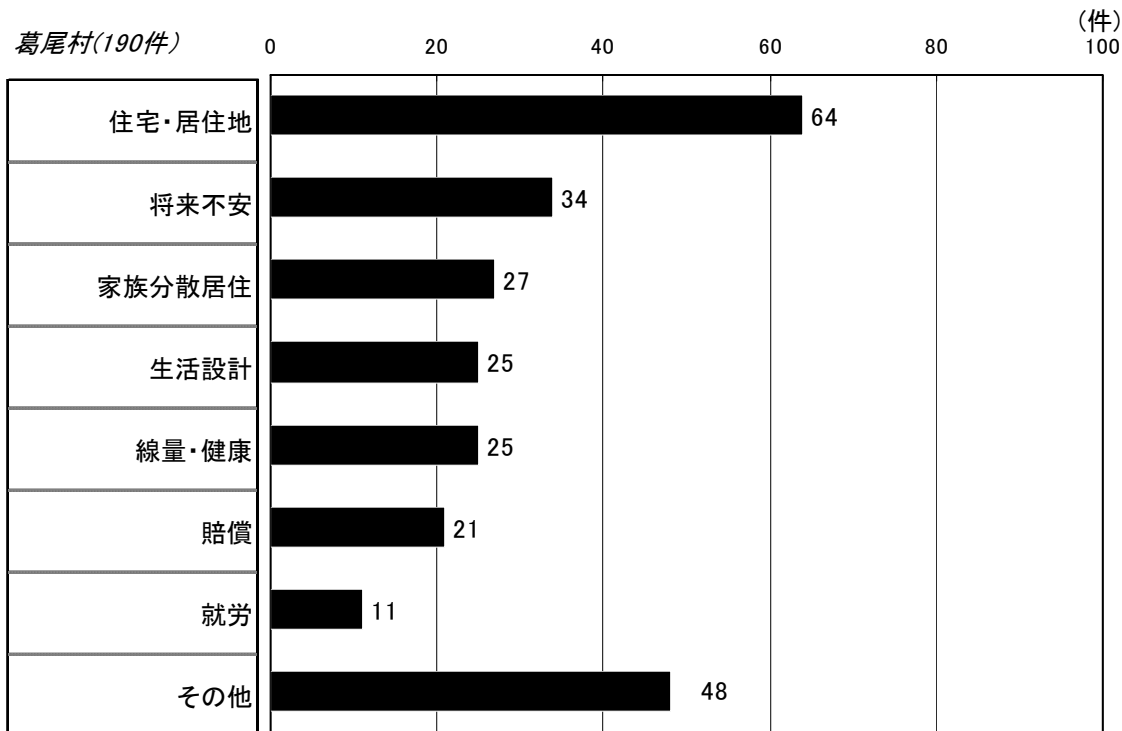
(2)今後の生活展望について困っていること（現世帯主）

【問 34 で「1 現在世帯主」と回答した方にうかがいます。】

問 40 世帯としての今後の生活展望について、お困りのことをご自由にお書きください。

現在世帯主(355人)に、世帯としての今後の生活展望について困っていることを聞いたところ、190件の意見が寄せられた。内容としては、「住宅・居住地」に関する内容が64件、「将来不安」については34件、「家族分散居住」については27件、「生活設計」、「線量・健康」はともに25件、「賠償」については21件、「就労」については11件といった順となっている。(図表4-2-1)

図表 4-2-1 世帯としての今後の生活展望について困っていること(自由回答)



(同一対象者の発言が複数内容にわたっている場合は、件数として内容ごとに件数カウントしている。)

図表 4-2-2 世帯としての今後の生活展望について困っていること(代表的意見抜粋)

●住宅・居住地

性別	年齢	記載内容
女性	30歳代	仮設住宅は、周りの人々から監視されているようで嫌な気分になる。子供の遊び場がないし、仮設住宅の周りに川、ダムがあり、密集しているので道がせまいので、子供には危ない。子供の飛び出し注意の看板など、色々すべての事に対して子供の目線に立ってやってほしい。
男性	40歳代	果たして葛尾村に戻れるのでしょうか。戻っても、そこで生活・経済活動、更には世代の交代を行っていただけるのでしょうか。現在の避難生活は、間借りや仮設の不便さはあっても葛尾にはなかった利便性はあります。この生活と引き替えに、葛尾村に戻ることのメリットが少しずつ薄れていっているような気がします。「生まれ育ったふるさとだから」などという精神論だけではなく、現実的かつ具体的な「葛尾村へ戻ることの必要性」を出して頂きたいと考えます。正直なところ、大変悩んでいます。高齢者しか居ない、人口は600人程度。そんな地域を想い描くときに「帰ってどうするんだ」という気持ちが台頭してくるのは、私だけではないのではないのでしょうか。
男性	40歳代	これから先の子供達の高校進学場所をどこにすれば良いか。解除後、何も無い村で高齢者だけで生活していけるか。職場が遠く、家族に会えない。
男性	40歳代	家のローンがある為、新しく家を建てる事が出来ない。
男性	50歳代	今は借りに住んでいます。何年このままの状態ですら不安であります。何年かかっても福島を元に戻す事はかなり大変な事であるので。
男性	50歳代	長男夫婦と孫達は、現在別世帯となってしまいました。これから先、小さい孫達を思うと、前と同様に葛尾村で一諸に生活する事も望めないし、いつまでも借りに住み続ける事も出来ないと思う。家を新築するといっても容易ではない。何年も住んでいない葛尾の実家は傷みもひどくなるばかりで、わずかな賠償金では修復する事も出来ない。今後どうしたら良いものか、不安である。
男性	60歳代	現在の住宅が狭くて困っております。
女性	60歳代	住宅です。3年帰れなければ家に住めませんので、一番困ります。

●将来不安

性別	年齢	記載内容
男性	40歳代	生活面でのこれからの資金がどうなるか、心配です。
男性	40歳代	帰村して仕事が続けられるか、判断がつかえません。生活していけるのか、将来に対しての不安があります。
男性	50歳代	事故当時、家畜(鶏)を飼育していたが、エサが無く死なせてしまったショックが大きく、前の仕事をする気になれない。今後、何をすれば良いのか思案中。先が見えない。つらい。
男性	60歳代	先が見えないので、生活設計ができない。
男性	60歳代	困難区域となる予定で、どうなるのか先の展望が見えなくて困る。
女性	70歳代	世帯主と言っても、私1人です。これからどこに行って生活すれば良いか不安定です。早く老人ホーム、ケアハウスを探したいです。
男性	80歳代以上	葛尾に戻っても放射線量が低下せず 何も作付はできず、生活はととても不安です。除染も5年～10年後と言っておりますが、その時はもう人生終わりです。

●家族分散居住

性別	年齢	記載内容
男性	20歳代	原発事故で家族がバラバラに暮らすようになったので、皆で暮らせるようにしていきたいです。
男性	50歳代	仕事の都合により、家族と分かれて生活していますが、年老いた両親の体のことが心配です。
男性	50歳代	家族と一緒に住むことを希望し、仕事を新たに探したいと思っていますが、なかなか見つかりません。また家族皆で住める家建てたいと思っているが、東電の賠償がしっかり行なわれないかぎり無理です。本当なら家へ帰りたいけど帰れません。確実な除染をお願いします。
男性	60歳代	これから、一生家族とは一緒に暮らせない なぜならば家の子供達は、子供が小さいので葛尾村にはもどらないと思うから。これから、どうやって生活していけるのか。この先不安でいっぱいです。
男性	60歳代	家族と一緒に住みたい。住まいが3ヶ所に分散しているので、生活費がかさむので大変である。
男性	60歳代	家族全員揃って生活できる場所、家がほしい。

●生活設計

性別	年齢	記載内容
男性	40歳代	とにかく、この先の展望が見えない。素案で帰村のことばかりであるが、戻ってどうなるのか。若い世代は、戻らない方が多いのではないかと考えています。戻ったとしても、高齢者ばかりでは、いずれ限界がくる。ましてや、人口1,500人の小さい当村では。ちがう方向性も選択肢に入れて、検討しておいた方がよい。教育についても、現在教育委員会は何をしているか、本当に見えない。
男性	40歳代	将来の生活設計がたてられない。
男性	60歳代	現在の保障、賠償では、今後の生活設計が立たない。新たな土地、家を建てるなどするのにまとまった保障、賠償の確立を。
男性	70歳代	放射線の先の見えない生活で、計画が立てられない
女性	70歳代	今の生活に慣れはしたけど、心の中では今までの生活が抜けきれません。今後どのくらいこの生活が続くのか、それが気になる所です。

●線量・健康

性別	年齢	記載内容
男性	30歳代	少しでも早く、復興に向かい農地、森林の除染が良い方向性に向いて、復興に進んでいく事が、世帯主にとって戻る足がかりになるのではないかと考えています。そのためには、長期的な避難は絶対に避けなければならない事と考えます。時間、期間に対する本人の意志が長引く程、帰還に向けて不利になっていくと考えます。何ごとも早めの対応を望みます。
男性	40歳代	除染する具体的な場所及び、線量の目安を確実に明示し、帰宅できる様にしてもらいたい。
男性	60歳代	村全体の除染でどの位線量が下がるのか、考えてほしい。
男性	70歳代	森林の除染が進まなければ、避難指示が解除されても、米、野菜、山菜等が食べられる様になるまで帰れないと思う。
無回答	無回答	事故前の放射線量に、短期に戻してほしい。

●賠償

性別	年齢	記載内容
男性	50歳代	山林も財産だが、汚染されて買い手がいないと思います。補償の話が今になっても出てこないんですけど、どのような扱いになるのか。
男性	50歳代	村外に行っている子供・孫のためにも、皆で集まる場所として村外の戸建住宅に住みたい、と思うようになっていきます。住宅、宅地の賠償が早く進むことを願います。
男性	60歳代	東電から十分な賠償金を補償してもらいたい。
男性	60歳代	条件が整えば戻りたいが、管理出来ない家屋は、年を追うごとに傷みが激しくなっており、帰還する時には十分な賠償がなければ戻れないだろう。財物の賠償が固定資産評価額が基礎では、資材や賃金が高騰しているので安すぎる。

●就労

性別	年齢	記載内容
男性	60歳代	安定した収入が得られない事。農業が再開した場合、風評被害で成り立つのか。
男性	70歳代	希望もない農業を20年近くするような気がする。
男性	70歳代	葛尾に帰って、農業ができるようになるのか。

●その他

性別	年齢	記載内容
女性	30歳代	福島への偏見をなくしてほしい。
男性	40歳代	二重ローンで困っています。なんとかしてください。
男性	40歳代	子供の健康、教育の不安。
無回答	50歳代	土地がなくて困ってます。お金もないです。
男性	60歳代	後継者が戻らないのではないかと。収入元が心配。
男性	60歳代	医療機関に遠くまで通院することになる。
男性	60歳代	高齢者が介護が必要になった時の入所先。
男性	70歳代	体調が良くないので、医療機関福祉サービスが確保されることを特に望みます。
男性	70歳代	主に生活するための日用品や生鮮食品の買込、医療機関など浜通り中心に利用して来た。今回の震災で浜通り地域が帰宅困難区域になる恐れあり、我集落の中での線引には同意しつつも、隣接する町村に出入りする事が出来ず、袋小路に住まざるをえない。此の様な不便な日常生活、今後我慢出来るでしょうか。

Ⅲ 調査票

(付:単純集計結果)



葛尾村 住民意向調査票

記入上の注意

■ 回答をお願いする方

この調査は、満 15 歳以上(中学生を除く)の全葛尾村住民にお願いしています。
世帯で現在いっしょにお住まいの**満 15 歳以上(中学生を除く)の方それぞれ**に、ご記入をお願いいたします。

■ ご回答方法

あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、()内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている問いには、具体的な内容(地名、数など)をご記入ください。

■ ご提出方法

ご記入済み調査票は、**9月3日(月)まで**に、次の方法でご提出ください。

【仮設住宅にお住まいの方】

同封の返信封筒に封をして、仮設住宅を巡回訪問いたします支え合いセンター職員にお渡しください。

【仮設住宅以外にお住まいの方】

同封の返信封筒に封をして、最寄りの郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

※ 調査票はすべて無記名でお願いしております。

※ 世帯にご回答者が複数いらっしゃる場合は、同封の返信封筒に全員の調査票をいっしょに入れてご提出ください。

● ご不明な点がございましたら、下記担当までご連絡ください。

葛尾村

〒963-7722 福島県田村郡三春町大字西方字石畑 270-1
さくら湖自然観察ステーション
葛尾村三春出張所 三春の里事務所
総務課復興対策係「葛尾村住民意向調査」係
電話: 0247-61-2860 ファクシミリ: 0247-62-3966

復興庁

「葛尾村住民意向調査」お問い合わせセンター
フリーダイヤル 0120-677-061
[期間: 8月20日(月)~9月13日(木) 平日10時~17時]

東日本大震災発生当時および震災前のあなたの状況について教えてください。

問1 震災発生当時にお住まいだった地区はどちらですか。以下からお選びください。(○は1つ)

(n=1,033)

(13.0) 上野川	(16.9) 野川	(9.2) 上葛尾	(10.4) 下葛尾
(16.3) 落合	(3.0) 夏湯	(4.7) 大放	(9.1) 大笹
(4.0) 岩角	(4.8) 広谷地	(7.2) 野行	

(1.5) 無回答

問2 あなたは震災発生当時まで、その地区にどのくらい前からお住まいでしたか。(○は1つ)

(n=1,033)

(27.7) 生まれてからずっと	(1.2) 1年未満	(3.3) 1年以上5年未満
(14.0) 5年以上20年未満	(24.5) 20年以上50年未満	(27.9) 50年以上

(1.5) 無回答

問3 震災発生当時のあなたの職業を教えてください。

当時、仕事に就いていた方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

(n=1,033)

(28.6) 自営業	(5.9) 会社員(事務)	(19.5) 会社員(労務)
(3.4) 公務員	(8.1) パート・アルバイト	(5.4) 学生 →問4へ
(24.6) 無職(退職者も含む) →問4へ	(0.6) その他(具体的に)	(4.0) 無回答

(2) 【仕事に就いていた方に】業種 (○は1つ)

(n=682)

(31.5) 農林畜産業	(16.0) 建設業	(13.6) 製造業
(1.2) 電気・ガス	(1.8) 運輸業	(18.5) 卸・小売り・飲食、サービス業
(6.6) その他(具体的に)		(10.9) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問4 あなたが震災発生当時まで通勤・通学していた地域と、利用していた移動手段を教えてください。

移動手段については、利用していた手段をすべて教えてください。

(1) 通勤・通学先(○は1つ)

(n=1,033)

(33.5) 葛尾村内	(8.1) 田村市
(13.1) 浪江町、双葉町、富岡町、大熊町	(2.1) 南相馬市
(8.1) 田村市以外の中通り (福島市、郡山市など)	(3.5) その他 (具体的に)
(16.2) 通勤・通学はしていない →問5へ	(15.4) 無回答

(2) 通勤・通学していた方は、その移動手段(○はいくつでも)

(n=707)

(72.3) 自家用車・バイク	(4.8) バス	(0.7) 鉄道 (J R 常磐線)
(1.6) 鉄道 (J R 磐越東線)	(4.2) 自転車	(7.8) 徒歩のみ
(3.1) その他 (具体的に)
		(15.6) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問5 あなたが、震災発生当時まで、日常の生鮮食料品や日用品の買物をしていった場所(市町村)と、店舗までの移動手段を教えてください。

(1) もっともよく買物に行っていた市町村を1つ教えてください。(○は1つ)

(n=1,033)

(35.2) 葛尾村内	(26.2) 田村市
(22.2) 浪江町、双葉町、富岡町、大熊町	(4.5) 南相馬市
(8.5) 田村市以外の中通り (福島市、郡山市など)	(1.4) その他 (具体的に
)
	(0.2) 自分では行かなかった
	(1.7) 無回答

(2) もっともよく行っていた買物場所(市町村)へ行く際に利用していた移動手段をすべて教えてください。(○はいくつでも)

(n=1,033)

(88.3) 自家用車・バイク	(6.1) バス	(0.5) 鉄道 (J R 常磐線)
(0.4) 鉄道 (J R 磐越東線)	(2.4) 自転車	(5.5) 徒歩のみ
(1.5) その他 (具体的に)
		(3.3) 無回答

問6 あなたは、震災前の葛尾村では、村内の行事やイベントに参加していましたか。(○は1つ)

(n=1,033)

(24.0) 積極的に参加していた	(52.0) たまに参加していた
(19.6) 参加していない	(0.9) 地域に行事やイベントがあることを知らなかった
(0.6) その他 (具体的に)
	(3.0) 無回答

現時点のあなたの状況を教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問7 あなたが現在避難されている先の自治体名を教えてください。(具体的に)

()の中に具体的な地名をご記入の上、()内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ○をつけてください。

(n=1,033) (都・道・府・県)

(89.3) 福島県	(1.2) 東北 (福島以外)	(3.5) 関東	(1.8) その他
			(4.3) 無回答

(n=922) (市・町・村・区)

(59.8) 三春町	(11.4) 田村市	(18.2) 郡山市	(9.8) その他
------------	------------	------------	------------

(0.9) 無回答

問8 現在お住まいになっている住居種別にもっともあてはまるものを教えてください。

(○は1つ)

(n=1,033)

(52.3) 応急仮設住宅 (プレハブ型)			
(26.9) 応急仮設住宅 (民間住宅や公営住宅などの借り上げ型 (家賃無償))			
(1.5) 公営住宅			
(「2 応急仮設住宅 (民間住宅や公営住宅などの借り上げ型 (家賃無償))」による入居の場合を除く)			
(0.5) 給与住宅 (社宅、公務員宿舎など)			
(「2 応急仮設住宅 (民間住宅や公営住宅などの借り上げ型 (家賃無償))」による入居の場合を除く)			
(1.3) 一戸建て (購入)	(6.5) 一戸建て (公営住宅など以外の賃貸住宅)		
(0.2) 集合住宅 (購入)	(4.7) 集合住宅 (公営住宅など以外の賃貸住宅)		
(1.5) 家族どなたかの実家	(2.0) 親戚・知人宅		
(0.9) その他 (具体的に)
			(1.7) 無回答

問9 現在、震災前からの世帯主と一緒に住んでいますか。(○は1つ)

(n=1,033)

(30.1) 自分が世帯主	(44.9) 一緒に住んでおり、家計も1つ
(5.4) 一緒に住んでいるが、家計は別	(3.4) 離れて住んでいるが、家計は1つ
(11.1) 離れて住んでおり、家計も別	(1.1) その他 (具体的に
)
	(4.0) 無回答

問10 現在のあなたの職業を教えてください。

現在仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業 (就業形態) (○は1つ) (n=1,033)

(7.7) 自営業	(4.4) 会社員 (事務)	(17.7) 会社員 (労務)
(3.4) 公務員	(9.6) パート・アルバイト	(4.3) 学生 →問10-1へ
(47.0) 無職 (退職者も含む)	(1.1) その他 (具体的に)
→問10-1へ		(4.8) 無回答

(2) 【仕事に就いている方に】 業種 (○は1つ) (n=453)

(9.1) 農林畜産業	(21.9) 建設業	(15.2) 製造業
(1.8) 電気・ガス	(2.9) 運輸業	(22.7) 卸・小売り・飲食、サービス業
(15.7) その他 (具体的に) (10.8) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 10-1 現在の職業は、震災発生当時の職業と同じですか。(○は1つ)

(ただし、同じ会社内で就業形態や内容のみが変わった場合は、「1 同じ」を選択してください。)

(n=1,033)

(53.3) 同じ	(41.6) 違う
-----------	-----------

(5.0) 無回答

【問 10 (1)職業で、「7 無職(退職者も含む)」と回答した方にうかがいます。

それ以外の方は問 11 へお進みください。】

問 10-2 あなたは現在、職を探していますか。(○は1つ) (n=486)

(13.8) 職を探している →問 11 へ	(74.3) 職を探していない →問 10-3 へ
------------------------	---------------------------

(11.9) 無回答

【問 10-2 で「2 職を探していない」と回答した方にうかがいます。】

問 10-3 現在、職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。(○は1つ) (n=361)

(9.7) 元の地域・職場に戻る予定だから	(5.3) 希望する職場がないから
(3.0) 当面賠償金で生活できるから	(8.9) 震災を機にリタイア (退職など) したから
(51.2) 震災前からリタイア (退職など) しているから・専業主婦だから	(13.6) その他 (具体的に)

(8.3) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 11 現在の避難生活においてもっとも困っていること、改善を求める分野を1つ教えてください。(○は1つ)

(n=1,033)

(9.8) 医療	(5.8) 教育	(9.7) 介護・福祉	(13.6) 就労
(21.4) コミュニティ形成	(4.7) 住居	(0.7) 生活費	(7.5) その他 (具体的に)
(5.0) 特にない	(21.8) 無回答		

問12 医療サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

(n=1,033)

(3.7) 医療機関がない、もしくは少ない	(8.8) 遠くまで通院することになった
(3.0) 特定の診療科がない	(10.4) かかりつけ医がない (気軽に相談できない)
(21.4) 受付から診療まで時間がかかる	(1.7) 診察・診療が雑になった
(0.7) その他 (具体的に)	(14.6) 無回答
(47.6) 特にない	

【ご自身もしくはご家族が、介護・福祉サービスを受けている方にうかがいます。

それ以外の方は問 14 へお進みください。】

問 13 介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=293)

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| (17.7) | 施設が少なくサービスが受けられない (もしくはサービス頻度が相当減った) |
| (8.5) | 設備が整っていない |
| (7.2) | 職員が少ない (足りていない) |
| (4.8) | その他 (具体的に) |
| (68.6) | 特にない |

【ご自身が高校生、大学生、専門学校生などで教育を受けている方、もしくはご家族に小学生や中学生、高校生がいる方にうかがいます。それ以外の方は問 15 へお進みください。】

問 14 教育 (学校) について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべてお答えください。(○はいくつでも) (n=233)

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| (2.1) | 避難先で通学する学校において、教室などの施設が不足している |
| (6.9) | 教員 (先生) による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった |
| (15.0) | 震災による休校期間などがあったため学習の進捗が遅れている |
| (9.0) | 避難している子どもたちに対して放射能に関する偏見がある |
| (22.7) | 通学に時間がかかるようになった |
| (12.0) | その他 (具体的に) |
| (51.1) | 特にない |

【すべての方にうかがいます。】

問 15 就労について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。

(○はいくつでも) (n=1,033)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| (15.9) 職場が遠くなった (通勤に時間がかかる) | (4.6) 震災前と違う職であり慣れない |
| (10.6) 給与が減った | (9.5) 長期雇用が保障されない |
| (3.7) その他 (具体的に) | |
| (21.0) 特にない | (39.8) 就労していない |

(9.3) 無回答

問 16 地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=1,033)

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| (36.4) | 震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない (もしくはまったくない) |
| (21.5) | 避難先の地域住民との交流が少ない (もしくはまったくない) |
| (11.2) | 気軽に困りごとを相談できる人 (民生委員、行政職員) が近くにいない |
| (3.4) | その他 (具体的に) |
| (37.6) | 特にない |

(11.7) 無回答

ここからは、将来についてのあなたの想いをお聞かせください。

※同封の参考資料をご覧ください。以下の問いにお答えください。

- 参考資料：・葛尾村復興計画(素案)
 ・住民説明会での主なご意見・ご質問に対する応答概要
 ・放射線量予測地図

問 17 震災前にお住まいだった地区によっては、避難が続くことが考えられます。

あなたは、これから避難解除までの間の避難生活をどこで過ごしたいですか。また、そこではどのような住居形態を望みますか。

(1) これからの避難期間中の居住地(○は1つ) (n=1,033)

- | | |
|--------|-------------------|
| (40.8) | 今の場所で過ごしたい |
| (18.1) | 今の場所から移動(転居)したい |
| (37.5) | 現時点ではわからない、判断できない |

(3.7) 無回答

(2) 希望する住居形態(○は1つ) (n=1,033)

- | | |
|--|--|
| (9.7) 応急仮設住宅(プレハブ型) | (26.3) 応急仮設住宅(民間住宅や公営住宅などの借り上げ型(家賃無償)) |
| (4.0) 村内の災害公営住宅* | (6.8) 村外の災害公営住宅* |
| (1.0) 災害公営住宅を除く公営住宅
(一般公営住宅、雇用促進住宅など) | (0.1) 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) |
| (20.0) 一戸建て(購入) | (11.9) 一戸建て(公営住宅など以外の賃貸住宅) |
| (0.3) 集合住宅(購入) | (1.6) 集合住宅(公営住宅など以外の賃貸住宅) |
| (1.9) 家族どなたかの実家 | (1.4) 親戚・知人家 |
| (1.3) その他(具体的に |) |

(13.7) 無回答

*災害公営住宅…今回の原子力災害による避難地域に指定され、帰宅が困難な方(もしくは住宅を失った方)に対して提供する低廉な家賃で入居できる公営住宅で、将来的には買い取ることも可能です。

【問 17(1)で「2 今の場所から移動(転居)したい」と回答した方にうかがいます。

それ以外の方は、問 18 へお進みください。】

問 17-1 これからの避難期間中に、さらに転居をされる予定先があれば、その自治体名を教えてください。(具体的に)

()の中に具体的な地名をご記入の上、()内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ○をつけてください。

(n=187) (都・道・府・県)

- | | | | |
|------------|-----------------|-----------|------------|
| (54.0) 福島県 | (0.5) 東北(福島以外) | (3.7) 関東 | (0.5) その他 |
|------------|-----------------|-----------|------------|

(41.2) 無回答

(n=101) (市・町・村・区)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| (20.8) 三春町 | (33.7) 田村市 | (22.8) 郡山市 | (14.9) その他 |
|------------|------------|------------|------------|

(7.9) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 18 将来、葛尾村の避難指示が解除され、戻ることができるようになった場合、あなたは葛尾村に戻りますか。(○は1つ) (n=1,033)

(7.0) 葛尾村にすぐに戻る	→ 問 19、問 20、問 22、問 25 へ
(26.2) 条件が整えば、葛尾村に戻る	→ 問 21、問 22、問 25 へ
(6.4) 二地域居住する(週のうち数日を葛尾村で暮らし、残りを村外で暮らす)	→ 問 23～問 25 へ
(27.1) 葛尾村には戻らない	→ 問 26 ～問 29 へ
(30.7) 今はまだ判断できない	→ 問 30 へ

(2.6) 無回答

【問 18 で「1 葛尾村にすぐに戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 19 葛尾村に戻った時に、村内に必要なものは何ですか。最も必要と思うものから、3番目に必要と思うものまでを、それぞれ1つずつ教えてください。(○は1つずつ)

優先順位→	最も必要と思うもの (○は1つ) (n=72) ↓	2番目に必要と思うもの (○は1つ) (n=72) ↓	3番目に必要と思うもの (○は1つ) (n=72) ↓
ア 医療機関	(38.9)	(12.5)	(6.9)
イ 介護・福祉施設	(11.1)	(23.6)	(13.9)
ウ 学校	(4.2)	(4.2)	(6.9)
エ 雇用・就労の場	(5.6)	(6.9)	(13.9)
オ 商業施設(商店、コンビニエンスストアなど)	(19.4)	(23.6)	(12.5)
カ 地域コミュニティ	(4.2)	(1.4)	(9.7)
キ その他(具体的に)	(-)	(-)	(2.8)
	無回答 (16.7)	(27.8)	(33.3)

【問 18 で「1 葛尾村にすぐに戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 20 避難指示が解除され葛尾村に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=72)

(48.6) 住宅再建の支援	(50.0) 継続的な健康管理の支援
(18.1) 仕事のあっせん	(50.0) 葛尾村からの継続的な情報提供
(48.6) 商店の再開・支援	(27.8) 農林畜産業の支援・指導
(5.6) その他 (具体的に)	(6.9) 無回答

この設問にご回答後は、問 22 へお進みください。

【問 18 で「2 条件が整えば、葛尾村に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 21 避難指示が解除された際のあなたの考えを教えてください。

葛尾村に戻る条件として、最も必要と思うものから、3番目に必要と思うものまでを、それぞれ1つずつ教えてください。(〇は1つずつ)

優先順位⇒	最も必要と思うもの (〇は1つ) (n=271) ↓	2番目に必要と思うもの (〇は1つ) (n=271) ↓	3番目に必要と思うもの (〇は1つ) (n=271) ↓
ア 放射線量がある程度低下すること	(35.8)	(10.0)	(3.7)
イ 原子力発電所の安全性が確保されること	(16.6)	(11.4)	(5.9)
ウ 水道水などの生活用水が安全であることが確認されること	(12.9)	(22.9)	(10.7)
エ 葛尾村内もしくは葛尾村から通勤できる範囲での雇用が確保されること	(3.0)	(4.8)	(5.2)
オ 災害公営住宅が整備されること	(0.7)	(2.6)	(3.0)
カ 交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	(4.1)	(5.9)	(5.9)
キ 医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	(5.9)	(7.7)	(14.4)
ク 村内の学校が再開されること	(1.8)	(2.2)	(1.5)
ケ 村内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	(5.5)	(9.6)	(11.1)
コ 他の住民がある程度戻ること	(5.2)	(4.1)	(13.7)
サ その他 (具体的に)	(1.8)	(1.1)	(2.2)
無回答	(6.6)	(17.7)	(22.9)

【問 18 で「1 葛尾村にすぐに戻る」「2 条件が整えば、葛尾村に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 22 葛尾村に戻る場合、現時点から何年以内に戻りたいとお考えですか。(〇は1つ) (n=343)

(9.9) 1年以内	(18.4) 2年以内	(24.8) 3年以内	(24.5) 5年以内	(11.7) 5年より後	(10.8) 無回答
-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	------------

この設問にご回答後は、問 25 へお進みください。

【問 18 で「3 二地域居住する」と回答した方にうかがいます。】

問 23 葛尾村以外であなたがお考えになっている自治体名と住居形態を教えてください。

(1) 自治体名 (具体的に)

()の中に具体的な地名をご記入の上、()内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ〇をつけてください。

(n=66) (都・道・府・県)

(75.8) 福島県	(-) 東北 (福島以外)	(3.0) 関東	(3.0) その他	(18.2) 無回答
------------	-----------------	-----------	------------	------------

(n=50) (市・町・村・区)

(26.0) 三春町	(34.0) 田村市	(20.0) 郡山市	(14.0) その他	(6.0) 無回答
------------	------------	------------	------------	------------

(2) 住居形態(〇は1つ) (n=66)

(36.4) 一戸建て (購入)	(21.2) 一戸建て (公営住宅など以外の賃貸住宅)
(1.5) 集合住宅 (購入)	(10.6) 集合住宅 (公営住宅など以外の賃貸住宅)
(7.6) 公営住宅	(-) 給与住宅 (社宅、公務員宿舎)
(-) ご家族どなたかの実家	(4.5) 親戚・知人宅
(1.5) その他 (具体的に)
	(16.7) 無回答

【問 18 で「3 二地域居住する」と回答した方にうかがいます。】

問 24 二地域居住を希望される理由を教えてください。(ご自由にご記入ください。)

この設問にご回答後は、問 25 へお進みください。

【問 18 で「1 葛尾村にすぐに戻る」「2 条件が整えば、葛尾村に戻る」「3 二地域居住する」と回答し、避難前に自営業(農林畜産業、商業等)をされていた方にうかがいます。

それ以外の方は、問 31 へお進みください。】

問 25 避難指示が解除になって戻った場合、村内で事業を再開したいと思いますか。(○は1つ)

(n=142)

(26.1) 再開したい →問 25-1 へ	
(9.9) 再開するつもりはない →問 25-2 へ	
(33.8) まだ判断できない →問 25-2 へ	
(2.1) その他 (具体的に) →問 31 へ

(28.2) 無回答

【問 25 で「1 再開したい」と回答した方にうかがいます。】

問 25-1 村内で事業を再開する際の課題があれば教えてください。(○はいくつでも) (n=60)

(55.0) 長期間利用していない設備や機材などの新たな投資	(70.0) 事業に必要な土地や建屋などの除染
(66.7) 農畜産物や製品の放射能からの安全性確保	(61.7) 風評被害の払しょく
(11.7) 後継者 (担い手)・従業員の確保	(21.7) 顧客・販売先の確保
(3.3) その他 (具体的に)
	(1.7) 無回答

この設問にご回答後は、問 31 へお進みください。

【問 25 で「2 再開するつもりはない」「3 まだ判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 25-2 事業を再開しない理由、判断できない理由を教えてください。(○はいくつでも) (n=133)

(29.3)	事業に必要な設備や機材などの新たな投資ができないから
(46.6)	事業に必要な土地や建屋などの除染が進まないから
(43.6)	農畜産物や製品の放射能による汚染が心配だから
(41.4)	風評被害があるから
(17.3)	再開するための後継者(担い手)・従業員の確保ができないから
(12.8)	新たな顧客や販売先が確保できないから
(11.3)	その他(具体的に)

(10.5) 無回答

この設問にご回答後は、問 31 へお進みください。

【問 18 で「4 葛尾村には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 26 戻らない理由を教えてください。(○はいくつでも)

(n=280)

(71.1)放射線量が低下せず不安だから	(57.1)原子力発電所の安全性に不安があるから
(64.6)水道水などの生活用水の安全性に不安があるから	(12.5)避難先で仕事を見つけているから
(45.0)葛尾村に戻っても仕事がないから	(11.1)事業の再開が難しいから
(51.4)家が汚損・劣化し、住める状況ではないから	(43.2)村外への移動交通が不便だから
(42.9)医療環境に不安があるから	(15.4)介護・福祉サービスに不安があるから
(29.3)教育環境に不安があるから	(36.8)生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから
(22.9)高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから	(32.5)他の住民も戻らないと思うから
(8.6)その他(具体的に)	

(3.6) 無回答

【問 18 で「4 葛尾村には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 27 今後の生活拠点としてどちらをお考えですか。自治体名を教えてください。

(具体的に)

()の中に具体的な地名をご記入の上、()内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ○をつけてください。

(n=280) (都・道・府・県)

(68.6)福島県	(0.4)東北(福島以外)	(4.3)関東	(2.5)その他
-----------	----------------	----------	-----------

(24.3) 無回答

(n=192) (市・町・村・区)

(24.0)三春町	(21.9)田村市	(30.2)郡山市	(18.2)その他
-----------	-----------	-----------	-----------

(5.7) 無回答

【問 18 で「4 葛尾村には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問28 今後の生活拠点に転居する時期は、決まっていますか。(○は1つ) (n=280)

- | | |
|---------------------------|---|
| (7.9) すでに新しい生活拠点に転居済み | →問 29 へ |
| (1.8) 転居時期がきまっている ⇒(n=5) | (40.0)年内 (20.0)1年以内
(20.0)2年以内 (20.0)3年以上後 |
| (78.9)転居時期は決まっていない | →問 28-1 へ (11.4)無回答 |

【問 28 で「3 転居時期は決まっていない」と回答した方にうかがいます。】

問 28-1 転居時期を判断するタイミングについて、どのようにお考えですか。(○はいくつでも) (n=221)

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| (55.2) | 受領する賠償額が確定した段階 |
| (53.8) | 希望する転居先での住宅が確保された段階 |
| (14.5) | 希望する転居先でのご家族またはご自身の学校の転入などの目途が立った段階 |
| (9.0) | 職が決まった段階 |
| (8.1) | その他 (具体的に) |
- (5.4) 無回答

【問 18 で「4 葛尾村には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 29 今後の生活において、行政に支援を望む事項を教えてください。(○はいくつでも) (n=280)

- | | |
|--------|--------------------|
| (56.1) | 住居の確保の支援 |
| (42.9) | 継続的な健康管理の支援 |
| (13.2) | 仕事のあっせん |
| (49.6) | 仮設住宅、借り上げ住宅利用期間の確保 |
| (48.2) | 葛尾村からの継続的な情報提供 |
| (5.7) | その他 (具体的に) |
| (2.5) | 特になし |
- (10.7) 無回答

この設問にご回答後は、問 31 へお進みください。

【問 18 で「5 今はまだ判断できない」と回答した方にうかがいます。】

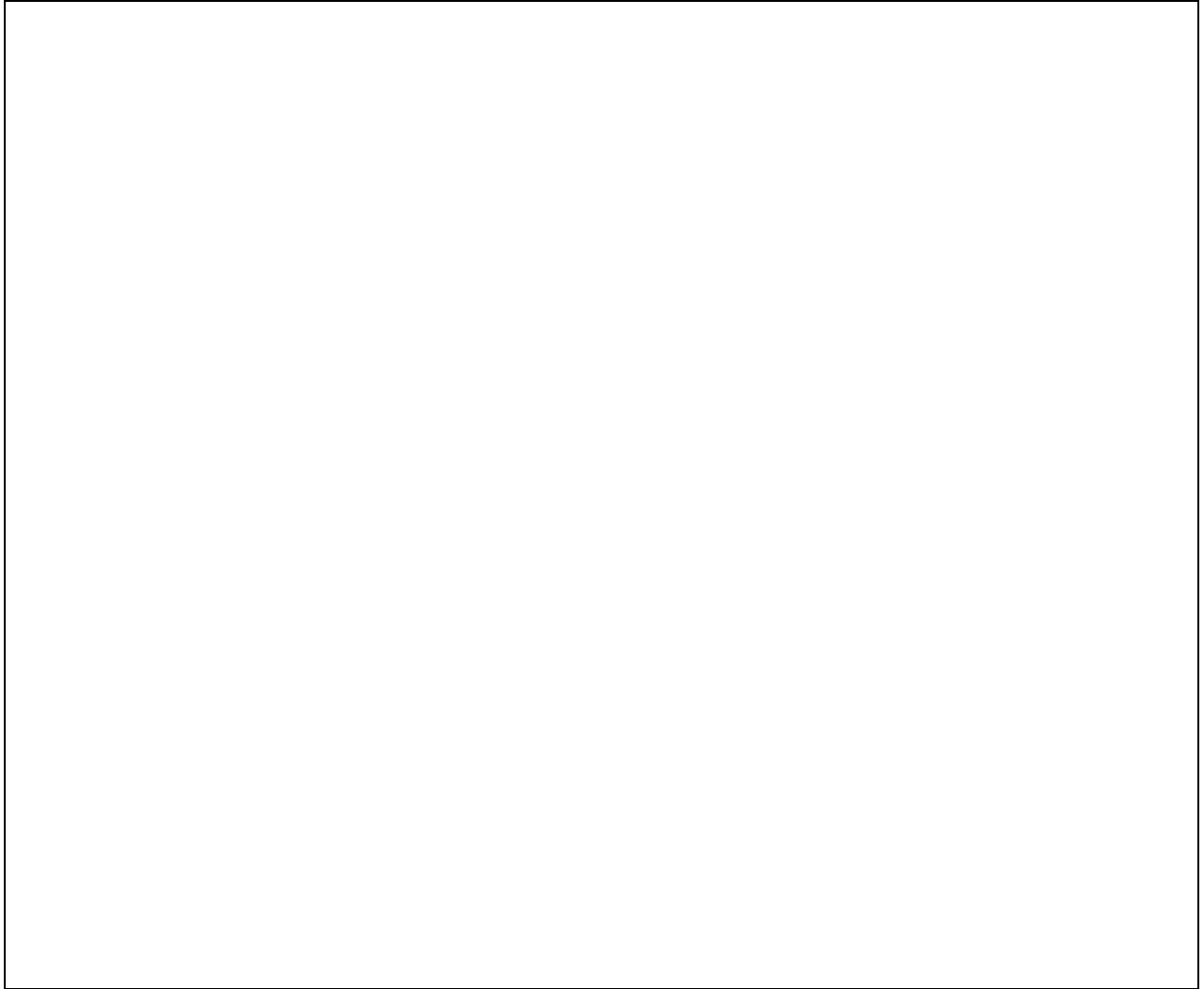
問 30 どのような条件が提示されれば、葛尾村に戻るかどうかの判断ができますか。

(○はいくつでも) (n=317)

- | | |
|--------|------------------------------|
| (58.7) | 一定程度の放射線量の低下 |
| (52.1) | どの程度の住民が帰還するかの情報 |
| (55.2) | 東京電力による世帯ごとの賠償額の確定 |
| (57.7) | 村内の医療、介護・福祉サービス、学校、商業施設などの再開 |
| (14.5) | その他 (具体的に) |
- (6.3) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問31 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望や思いなどをご自由にお書きください。



あなたご自身について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 32 あなたご自身のことについてお答えください。

(1) 性別 (○は1つ)

(n=1,033)

(48.3) 男性	(45.8) 女性
-----------	-----------

(5.9) 無回答

(2) 現在の満年齢 (○は1つ) (n=1,033)

(4.3) 15歳～19歳	(7.6) 20歳代	(10.0) 30歳代
(8.7) 40歳代	(17.1) 50歳代	(18.5) 60歳代
(15.4) 70歳代	(12.6) 80歳代以上	(5.9) 無回答

問 33 あなたは震災発生当時、世帯主でしたか。(○は1つ) (n=1,033)

(35.0) 当時世帯主だった	(56.3) 当時世帯主ではなかった
-----------------	--------------------

(8.6) 無回答

問 34 あなたは現在、世帯主ですか。(○は1つ)

(34.4) 現在世帯主 → 問 35 へお進みください

(49.0) 現在世帯主ではない → ご質問は以上です。ご回答誠にありがとうございました。

(16.7) 無回答

東日本大震災発生当時の世帯・ご家族の状況を教えてください。

【以下の設問は、問 34 で「1 現在世帯主」と回答した方にうかがいます。】

問 35 震災発生当時の世帯構成は、あなたを含めて何人でしたか。(具体的に)

震災発生当時の世帯合計人数 (あなたを含めて) (n=355)	(11.8) 1人 (20.0) 2人 (16.1) 3人 (13.5) 4人 (8.5) 5人 (19.4) 6人以上 (10.7) 無回答												
そのうち、	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">当時小学生</th> <th style="width: 25%;">当時中学生</th> <th style="width: 25%;">当時高校生</th> <th style="width: 25%;">当時 65 歳以上</th> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">(6.8) 1人 (2.8) 2人 (0.8) 3人 (89.6) 無回答</td> <td style="padding: 2px;">(7.9) 1人 (0.6) 2人 (91.5) 無回答</td> <td style="padding: 2px;">(8.5) 1人 (2.0) 2人 (89.6) 無回答</td> <td style="padding: 2px;">(34.6) 1人 (28.5) 2人 (3.1) 3人 (0.3) 6人以上 (33.5) 無回答</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding: 2px;">(15.2)</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">(20.3)</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">(66.5)</td> </tr> </table>	当時小学生	当時中学生	当時高校生	当時 65 歳以上	(6.8) 1人 (2.8) 2人 (0.8) 3人 (89.6) 無回答	(7.9) 1人 (0.6) 2人 (91.5) 無回答	(8.5) 1人 (2.0) 2人 (89.6) 無回答	(34.6) 1人 (28.5) 2人 (3.1) 3人 (0.3) 6人以上 (33.5) 無回答	(15.2)		(20.3)	(66.5)
当時小学生	当時中学生	当時高校生	当時 65 歳以上										
(6.8) 1人 (2.8) 2人 (0.8) 3人 (89.6) 無回答	(7.9) 1人 (0.6) 2人 (91.5) 無回答	(8.5) 1人 (2.0) 2人 (89.6) 無回答	(34.6) 1人 (28.5) 2人 (3.1) 3人 (0.3) 6人以上 (33.5) 無回答										
(15.2)		(20.3)	(66.5)										

【問 34 で「1 現在世帯主」と回答した方にうかがいます。】

問 36 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方でしたか。

(1) 所有形態 (○は1つ) (n=355)

(70.4) 一戸建て (購入)	(2.8) 一戸建て (公営住宅など以外の賃貸住宅)
(-) 集合住宅 (購入)	(1.7) 集合住宅 (公営住宅など以外の賃貸住宅)
(3.9) 公営住宅	(0.3) 給与住宅 (社宅、公務員宿舍)
(8.5) ご家族どなたかの実家	(0.8) 親戚・知人宅
(1.4) その他 (具体的に) (10.1) 無回答

(2) 住宅の建て方(○は1つ) (n=355)

(91.0) 一戸建て	(0.8) 集合住宅 (平屋建て)
(1.4) 集合住宅 (2階建て以上)	(0.6) その他 (具体的に)

(6.2) 無回答

【問 34 で「1 現在世帯主」と回答した方にうかがいます。】

問 37 震災発生当時のあなたの世帯では、農地をお持ちでしたか。(○は1つ) (n=355)

(74.9) 持っていた	(21.7) 持っていなかった →問 38 へ
--------------	-------------------------

(3.4) 無回答

【問 37 で「1 持っていた」と回答した方にうかがいます。】

問37-1 震災発生当時お持ちであった農地の面積と、その農地で農業をされていた場合は主な作付作物を教えてください。(具体的に)

(n=266)

＜農地面積 ha＞	＜主な作付作物＞
(5.3) 0.5ha 未満	(59.8) 米
(4.5) 0.5ha～1.0ha 未満	(46.6) 野菜
(18.8) 1.0ha～2.0ha 未満	(7.5) たばこ
(12.8) 2.0ha～3.0ha 未満	(22.9) 飼料
(36.5) 3.0ha 以上	(5.3) その他

(22.2) 無回答

(18.4) 無回答

【問 34 で「1 現在世帯主」と回答した方にうかがいます。】

問 38 震災発生当時のあなたの世帯には、あなたを含めてご家族に介護や福祉サービスを受けていた方はいましたか。あてはまるものをすべてお答えください。(○はいくつでも)

(n=355)

(8.5) 通所系サービスを受けていた (デイサービスなど)
(3.4) 訪問系サービスを受けていた (ホームヘルプサービスなど)
(2.3) 施設・居住系サービスを受けていた (介護施設への入所など)
(1.7) その他 (具体的に)
(55.2) 介護や福祉サービスを受けていない

(30.4) 無回答

現時点のあなたの世帯・ご家族の状況を教えてください。

【問 34 で「1 現在世帯主」と回答した方にうかがいます。】

問 39 現在、あなたがお住まいの住宅には震災発生当時の世帯でまとまって避難していますか。(○は1つ)

(n=355)

(56.1) 世帯でまとまって避難している →問 40 へ
(32.7) 複数か所に分かれて避難している →問 39-1 へ

(11.3) 無回答

【問 39 で「2 複数か所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】

問 39-1 震災前の世帯のうち、現在あなたと同居している人数（あなたを含めた人数）とその内訳、及び別居されている人数を教えてください。（具体的に）

現在の同居人数 (あなたを含めて) (n=116)	(15.5)1人 (28.4)2人 (16.4)3人 (17.2)4人 (12.1)5人 (2.6)6人以上 (7.8)無回答
---------------------------------	--

そのうち、	現在小学生	現在中学生	現在高校生	現在 65 歳以上
	(4.3)1人 (0.9)3人 (94.8)無回答	(8.6)1人 (0.9)2人 (90.5)無回答	(7.8)1人 (1.7)2人 (90.5)無回答	(25.9)1人 (15.5)2人 (0.9)3人 (57.8)無回答
	(12.1)		(17.2)	(42.2)

現在の別居人数 (あなたと別居している方の人数)	(n=116)	(36.2)1人 (19.0)2人 (12.9)3人 (13.8)4人 (6.9)5人 (3.4)6人以上 (7.8)無回答
-----------------------------	---------	---

【問 39 で「2 複数か所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】

問 39-2 震災発生当時一緒にお住まいであった世帯のご家族は、現在合計何か所に分散してお住まいでしょうか。あなたのお住まいも含めた数を教えてください。（○は1つ）

(n=116)

(62.1)合計2か所に分散	(24.1)合計3か所に分散	(3.4)合計4か所以上に分散	(10.3)無回答
----------------	----------------	-----------------	-----------

【問 34 で「1 現在世帯主」と回答した方にうかがいます。】

問 40 世帯としての今後の生活展望について、お困りのことをご自由にお書きください。

お忙しい中、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

9月3日(月)までに、次の方法でご提出ください。

【仮設住宅にお住まいの方】

同封の返信封筒に封をして、仮設住宅を巡回訪問いたします支え合いセンター職員にお渡しください。

【仮設住宅以外にお住まいの方】

同封の返信封筒に封をして、最寄りの郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

※ 世帯にご回答者が複数いらっしゃる場合は、同封の返信封筒に全員の調査票をいっしょに入れてご提出ください。